

杉箱 鹽煮貝  
銀くしこ  
敷みそ

汁 背切たい  
葉山升

ちよく

煮梅

くるみ

切焼ます

三

杉地紙足付  
差味

鯉子付  
命系玉子  
剥はすけ  
わさひ

汁 小な

改敷南天  
熊さゝ

小ちよく

いり酒

引而

向詰 小鯛

肴 魚田 ぼら  
吸もの 衣いか  
ひれ

木地縁高  
菓子

中まんちう  
羊かん  
大せんへい  
紅みとり  
菊形落鷹

菊之問

諸物頭 諸役人 法印法眼醫師

本木地足打 二汗七茶

鱈

ひらめ  
くりめ  
生りか  
金かん

香のもの

煮物

花海老  
焼きす  
漬わらひ  
長芋

食

汁 椎ふつみ  
茸き入

二

杉箱

鹽煮貝  
銀くしこ  
敷みそ

汁

背切たい  
葉山升



ちよく

煮梅

くるみ

切焼 鹽引鮭

引而

焼もの 小鯛

肴 一魚田 ぼら 衣ひかれ

菓子

大まんぢう 羊かん 紅みとり

柳之問

布衣以上三千石以上寄合 布衣以下御役人

蘇鐵之問

三千石以下寄合 小役人

本木地足打 二汁五菜

鱈

くひらめ くりか 金かん

香の物

煮物

むし貝 東芋 せんまい

二

切焼

鱈

切漬鮓

鹽引鮭 たで

汁

つみ入 細み 才豆ふな

食

汁

ふつこ 葉山升

蘇鐵之問

惣御振舞

本塗平膳

二汁五菜

鱈

わらさ 大こんさ くりか 生か

汁

細く 才豆ふな



香のもの

煮

物 東<sup>た</sup>芋<sup>こ</sup>  
せんまい

二

食

汁 牛椎<sup>つ</sup>み<sup>み</sup>入<sup>入</sup>  
房茸

當座

鯨 鹽引<sup>引</sup>鯨<sup>鯨</sup>  
漬<sup>漬</sup>た<sup>た</sup>て

焼

物 鱒

中 之 間

諸役人

本塗平膳

二汁六菜

鱈

ひらめ  
くり  
生<sup>生</sup>か  
金<sup>金</sup>かん

香のもの

煮

物 花<sup>花</sup>海<sup>海</sup>老<sup>老</sup>  
むし<sup>むし</sup>貝<sup>貝</sup>  
せんまい  
長<sup>長</sup>芋<sup>芋</sup>

食

汁 椎<sup>ふ</sup>つ<sup>つ</sup>み<sup>み</sup>入<sup>入</sup>  
茸<sup>茸</sup>き<sup>き</sup>入<sup>入</sup>

二

切

焼 ひらめ

ちよく

煮 梅

くるみ

汁

背<sup>背</sup>切<sup>切</sup>たい<sup>たい</sup>い<sup>い</sup>  
葉<sup>葉</sup>山<sup>山</sup>升<sup>升</sup>

當座

鯨 鹽引<sup>引</sup>鯨<sup>鯨</sup>  
漬<sup>漬</sup>た<sup>た</sup>て

菓

子 中<sup>中</sup>ま<sup>ま</sup>ん<sup>ん</sup>ち<sup>ち</sup>う<sup>う</sup>  
大<sup>大</sup>せん<sup>せん</sup>へ<sup>へ</sup>い<sup>い</sup>  
枝<sup>枝</sup>か<sup>か</sup>き<sup>き</sup>

時 計 之 間

老中

若年寄 御側衆

本塗平膳

二汁六菜

鱈

坊<sup>坊</sup>た<sup>た</sup>した<sup>した</sup>  
風<sup>風</sup>で<sup>で</sup>そ<sup>そ</sup>い<sup>い</sup>

汁

菜<sup>菜</sup>つ<sup>つ</sup>み<sup>み</sup>入<sup>入</sup>  
小<sup>小</sup>ふ<sup>ふ</sup>菜<sup>菜</sup>き<sup>き</sup>

香の物

煮

物 細<sup>細</sup>切<sup>切</sup>端<sup>端</sup>白<sup>白</sup>  
丸<sup>丸</sup>し<sup>し</sup>ん<sup>ん</sup>ち<sup>ち</sup>よ<sup>よ</sup>  
若<sup>若</sup>荷<sup>荷</sup>竹<sup>竹</sup>

食



二

平盛 赤巻魚  
漬わらひ

ちよく

煮梅

葉生か

引而

燒物 小鯛

肴 一鹽合さより

菓子

大臈まんちう  
朝口もち  
八重成羊かん  
金糸とら  
紅砂糖かや

獻之間

奥向

本塗平膳 二汁六菜

鱈

ひらめ  
くり  
生か  
金かん

汁 つみ入  
椎み  
て茸  
大こん

煮物

花海老  
麩の焼玉子  
長芋

二

切焼 ます

ちよく

煮梅

くるみ

食

汁 背切たい  
葉山升

引而

燒物 石かれい

菓子

中まんちう  
羊かん  
せんへい

御樂屋朝

本塗平膳

徳川禮典附録 卷二十二

大  
二汁五菜  
平役者  
一汁四菜



鱈 ぶ  
大こり  
せうか

香の物

濃 醬 赤  
豆  
千  
山  
永  
腐  
升

焼もの ます

汁 細く  
な  
才豆ふ

食

大夫

煮物 はた  
すこ  
せん  
まい

二ノ汁 せ  
ぬ  
こ  
青  
こ  
ん  
布  
葉  
山  
升

焼もの あ  
じ

菓子 こ  
ま  
も  
ち  
せ  
ん  
へ  
い  
ら  
く  
鷹

同所夕分

大夫 二  
汁  
五  
菜  
平  
役  
者  
一  
汁  
四  
菜

本塗平膳

鱈 ゐ  
な  
た  
大  
こ  
ん  
か  
生

香のもの

煮物 た  
こ  
ん  
に  
や  
く  
せん  
まい

焼物 わ  
ら  
さ

食

汁 こ  
ま  
く  
な  
才豆ふ

大夫

切漬鮓 鹽  
引  
鮓  
た  
で

二ノ汁 こ  
ち  
青  
こ  
ん  
ふ  
葉  
山  
升

焼物 せ  
ぬ  
こ

菓子 ま  
ん  
ち  
う  
せ  
ん  
へ  
い  
菊  
の  
霜

御能御作法書

四月五日

一御移徙相濟候爲御祝儀御能就被 仰付候、日光御門跡同新宮被登 城、増上寺其外出家中登 營



一御白書院 出御御長袴

御先立 老 中

御刀

御上段 御着座

日光御門跡 同 新宮

右順々被出席、於御上段 御對顔高家披露、直に 御右之方一同被着座、御能見物之御禮老中言上之 上意有之、老中御取合申上之被退座、此節御下段迄 御送り

御門跡新宮大廊下休息所え被相越

一大廣間 渡御

御先立 老 中

御下段 御着座、御間之御襖障子老中開之、御次

増上寺大僧正 其外 出家中

右御目見、御能見物之御禮老中言上之 上意有之、老中御取合申上之、畢而御襖障子閉之

一御能 上覽之御席え 御着座 御簾中與御小性勤之

一御門跡、新宮御能見物之席え被相越、高家令案内 △大廣間二之間衝立仕切、次に増上寺着座

一御能初若年寄勤之

一翁三番叟相濟而、以御側衆老中 召之、御門跡、新宮え緩々見物可被在之旨被 仰遣之、増上寺えは 御使無之

一御能三番過而 御中入

御白書院

日光御門跡 同 新宮

右御饗應 七五三 老中出席及挨拶、御酒二獻過而盃臺出之、此節 御使老中出席、畢而膳部撤之、茶并餅菓子出之

竹之 間

増上寺大僧正

右御饗應 膳部薄盤 二獻過而盃臺出之、此節御使老中、畢而膳部撤之、茶并餅菓子出之

一護持院始其外出家中、於席々御料理被下之

一重而大廣間 出御、御能 上覽、畢而御間之御襖障子老中開之、御門跡、新宮 御對顔、且又増上寺始其外

出家中御饗應之 御禮老中言上之、相濟而 入御

一御門跡新宮退去之節、老中殿上間迄送之

一御門跡新宮御玄關より被立歸、於殿上間板縁被謁老中、御禮被述之退去

御能組明細書



翁 三番叟 權之丞 權之承弟子 鷲周三郎

金剛大夫弟子 長命元吉郎 同斷 龜 高安平太郎

源七郎弟子 春藤次右衛門

龜三郎

十三郎

金剛大夫 龜

源七郎

六藏弟子 村井權三郎

要三郎

同斷 橋本政次郎 同斷 田村喜三郎

六藏 同斷 野口藤次郎

要三郎

間

權之承弟子 逆水五郎兵衛

麻生

八右衛門

藤六 八右衛門弟子 鳥岡立之助 同斷 高安甚右衛門 同斷 藤井兵三郎

佑輔弟子 連 黒川捨三郎 同斷 同松井淺次郎 同池田銚之助

敦盛 佐輔

榮太郎

次郎兵衛 銑太郎

甚作

同斷 同福本平七郎 同斷 同草川清藏

間

權之承弟子 角野峯太郎

附子

千太郎

主 千太郎弟子 内海鍵次郎 同斷 小林道之助

杜若 六平太

丑之進

助五郎 淑太郎

又次郎 幸太郎

寶生大夫弟子 連 梅若敬太郎 同斷 同矢田正次郎 同斷 同松本金太郎

六右衛門弟子 春藤次右衛門 同斷 同山本金之助 同斷 大曾根己之助

寶生大夫 紅葉狩

同斷 同田村喜三郎 六右衛門

錦

藏

政太郎



與左衛門

銑太郎

六右衛門弟子  
氏家重三郎  
同斷  
齊藤半之丞  
同斷  
若井傳藏  
同斷  
藤本小十郎

同日吉榮太郎  
同斷  
同桐谷越太郎

間

女  
權之丞弟子  
中村新兵衛  
同斷  
中村新太郎  
末社

祝六  
岩船言郎

繁十郎弟子  
小野延太郎  
同斷  
繁十郎  
淺井藤吉

吉五郎  
半次郎

傳次郎  
萬之丞

御移徙被爲濟御祝儀御能御料理獻立 四度目

日光御門跡 同新宮

杉御提重 緣高三つ入 壹組充

内

上重

御にしめ

松干大 瓢蕨

御香の物

生漬瓜 花丸

中重

御菓子

下重

御めし

御德利壹對

壹つは御膳酒 壹つは薄口酒

御白書院

日光御門跡 同新宮

本七五三木地薄盤

大重金土器 敷輪木地

松前昆布 ぼや盛

右同 和交

煮

染 鉄推 廣干 草瓢

金木土器 敷輪木地 湯

漬 手鹽 耳土器

上と同 福干 目瓢

小角木地 餅蒲 鉢金銀 龜足



右同  
香の物

上に同  
福目  
青黄那粉

惣金小角木地  
小桶  
梅ひしほ  
香の物

二

小重金土器  
敷輪木地

柚  
三品盛

上に同  
割茶目

敷金土器  
敷輪木地  
大こん  
牛芋房  
里芋  
松豆  
焼ふ

小角木地  
水昆若金足銀

右同

福目  
浅草のり

上に同  
細寒天  
いか盛

右同  
汗昆布卷

三

小角木地

椎茸

右同

歎

敷金土器  
敷輪木地  
九年  
甫金足銀  
花はす  
汁推茸

金間土器敷輪木地  
吸物  
包岩  
青昆布

箸臺

右同

葛木の子  
小み  
牛房せん

同

右同

角寒天  
品川のり  
梅ぼし

同

奈良臺  
押

ゆは

木地縁高

葉子

糸花とんぼろ  
檜の葉  
結松前昆布

筋有平  
やうかん  
すはまん  
中まんちう  
大平せんへい  
枝かき

腰高  
煮染

苞わみ  
干くわみ

淺黄椀  
餅菓子

うつら焼  
さけ羊かん  
外郎餅  
臘まんちう  
朝地飴

同  
香の物  
粕はたの  
味噌漬茄子

淺黄椀

吸物  
松茸  
花柚

腰立  
肴  
葛味噌



竹之間

増上寺方丈 金銀御振舞

本木地薄盤 三汁十一菜

煎酒物 かき芋 岩風 ほうりか

かき芋 岩風 ほうりか

金小角 香の物

酒煮揚 藪わさひ

二

臺金 杉箱 鷹な芋 結ん布 木くらけ 敷みそ

大猪口下臺銀 砂糖入 黒勝 氷昆 ちん皮

汁

根房芋 皮牛 小丸 皮椎 小丸 皮椎

食

汁 包昆布芋 花

金小桶下臺銀 梅ひしほ くるみ

三

金地紙足付 かんてん 小みる 櫻昆布 わさひ

小猪口 下臺銀

酢味噌

小重金土器敷輪銀 卷湯波

よつ目

皿盛 煮染 竹の布子 相郎の 推瓢 千の 山芋 葉山升

五つ目

銀洲濱 盛合 昆布卷 焼のしり 柚へし

徳川禮典附録 卷二十二



木地縁高

茶菓子

山椒餅  
羊かん  
淺地あめ  
水たくり  
河たけ  
黒もし楊枝

糸花  
後菓子

筋有平  
紅菊形落鷹  
松かせ  
みとり  
天門冬

菊之問

金地院 護持院 僧正 院家 増上寺役者

煎酒物

重芋  
岩さき寒天  
くさり  
金かん

汁

根牛房芋  
皮丸椎菜  
小割菜

香の物

今出川 豆 わさび

食

二

杉箱

くわい  
木くらけ  
銀なん  
敷みそ

ひたし物

春きく  
剥くるみ

汁

包昆布芋

三

杉地紙足付

差味

改敷熊さ

小ちよく

酢みそ

酒麩

すり  
生か

引而

佐倉昆岩  
細寒天  
小みす  
剥はす  
わさび

汁

小菜



煮 染  
まき湯波  
相良布  
山の芋  
竹の子  
葉山升

肴

一 煮 染 長ひしき  
けし

吸 物 長 水仙寺のり

同

一 葛味そ

木地縁高

茶菓子

あん餅  
煮染芋  
河芋  
やうし

同

後菓子

筋有平  
まんちう  
やうかん  
巻せんへい  
紅みとり

柳 之 間

増上野 御別當 同衆徒

本木地足打 二汁七菜

煎 酒 物

重いも  
岩き草  
さき寒天  
くり生か  
命かん

香の物

今出川 豆 わさび

二

杉 箱

烏木くちけ  
銀なん  
敷みそ

ちよく

ひたし物 春きく  
剥くるみ

酒 麩 す 生りか

煮 染

苞湯波  
相良布  
椎の芋  
山の子  
葉山椒

徳川禮典附録 卷二十二

汁

根房芋  
皮牛菜  
小丸椎  
貝割菜

食

汁  
青包昆布芋



肴  
一煮染 長ひしき  
けし

吸物 長芋  
水仙寺海苔

菓子  
まんちゆう  
せんへい  
やうかんい  
紅みとり  
枝かき

檜之間

増上寺 伴僧 金地院 役者 伴僧

本木地足打 二汁五菜

煎酒物 重岩 寒天 芋  
生か

香の物

今出川 豆  
からし

二

食

汁  
ふ牛  
ほ  
うき

平盛  
煮染

せんまい  
山椎の芋  
葉山椒

汁  
包  
小芋  
みる

ちよく

和もの 黒こま

吸物 長芋せん  
水仙寺のり

肴

一煮染 昆若

菓子  
まんちゆう  
せんへい  
枝かき

醫師 溜 △檜之間

坊官 行者 樂人 家司 茶道 田村權右衛門

本木地足打 二汁五菜

鱈  
くひらめ  
金かん

香の物

汁  
ふつ  
み  
き入



煮物  
麩の焼玉子  
はくしこ  
相良布

二

杉箱  
鹽煮貝  
花老  
山の芋  
敷みそ

切焼  
ます

吸物  
衣いか  
ひれ  
肴  
一魚田  
ほら

菓子  
まんちう  
せんへい  
枝かき

中之間 屏風仕切

溜詰

本塗木具 三汁八菜

鱈  
鯛  
し  
葉生か  
金かん

汁  
つみ入  
根芋  
小丸  
貝割菜  
茸

香の物

煮物  
たいらき  
花あひ  
漬わら  
岩茸

二

めし

平皿  
鹽煮貝  
くしのこ  
山の芋  
廣干瓢  
敷みそ

汁  
背切鯛  
葉山升

切焼  
ます

三

長皿  
差味  
改敷南天  
熊さ  
金糸玉子  
剝けす  
くわさひ

汁  
小菜

小ちよく  
いり酒

徳川禮典附録 卷二十二



向 詰 小 鯛

肴  
一魚田ほら  
吸物花いかれ  
一煮染麩  
ひらふし

塗縁高

菓 子

河にしめかん  
芋

後菓子

有せんへい  
大せんへい  
松風  
臙まんちう  
紅みとり

中 之 間

諸役人

本塗平膳

二汁六菜

鱈 金  
ひらめ  
くり生か  
かん

汁  
椎ふつみ  
茸き入

香の物

煮 物

鹽煮貝子  
麩の焼玉子  
せんまい  
花はす

二

平 盛

わらさ  
花ゑひさ  
くわいひ  
敷みそ

ちよく  
煮 梅  
くるみ

割海老

鹽山升

菓 子

大まんちう  
大せんへい  
枝かき

時 計 之 間

老中 若年寄 御側衆

本塗平膳 二汁六菜

徳川禮典附録 卷二十二

汁  
背切鯛  
葉山升

食



鱈 たひらめい  
くり生か  
金かん

汁 米つみ  
丸椎入  
芋茸

香の物

煮物 鯛薄身  
山吹しんちよ  
松わらひ  
漬わらひ

食

二

平盛 漬焼すいき  
酒煮  
岩茸

汁 背切たい  
葉山升

ちよく  
梅ひしほ  
くるみ

引而

焼物 小たい

肴色付焼  
あゆなめ  
おろしみ

菓子

山吹まんぢう  
入重成やうかん  
草あん餅  
紅菊の霜  
佛手柑

獻之間

奥向

本塗平膳 二汁六菜

鱈 ひらめ  
くり生か  
金かん

汁 椎つみ  
み茸入

香の物

煮物 鹽煮貝  
麩の焼玉子  
せんまい  
花はす

食

二

平盛 わらひ  
花ゑら  
長芋

汁 背切たい  
葉山升

ちよく  
煮梅  
くるみ

割海老

鹽山升

菓子 大まんぢう  
大せんへい  
枝かき

徳川禮典附録 卷二十二



御樂屋 大夫 二汁五菜  
平役者 一汁四菜  
本塗平膳

切漬鯔 いなたて  
漬たて

香の物

濃醬 豆赤永  
干山升

燒物 鱈

汁 こまぐな  
才豆ふ

食

大夫

煮物 たこ  
東芋  
せんまい

二ノ汁 こち  
青昆布  
葉山升

燒物 石かれい

菓子 こまもち  
せんへい  
らく鷹

同夕分 大夫 右同斷  
平役者 右同斷

本塗平膳

繪 大いなた  
生こんか

香の物

煮物 はわらさ  
櫻こん若

燒物 鱈

汁 こまぐな  
才豆ふ

食

大夫

切燒 鹽引蛙

二ノ汁 ふつこ  
あ葉山椒  
燒物 あじ

菓子 まんぢう  
せんへい  
きくの霜

將軍徳川家禮典附録 卷之二十二 終



將軍徳川家禮典附録 卷之二十三

△將軍家齊公姫君

喜代姫君様御引移御婚禮

天保三壬辰年

九月九日

酒井雅樂頭

喜代姫君様御引移之儀兼々相達候通 萬端御手輕に被 仰付候事に候得共、大奥御守殿等之振合ニ應、物每可成丈事輕、代々之妻とも相替儀無之相濟候程ニ、後々迄手張候儀無之様可取計との御沙汰に候 右於羽目間老中渡之

喜代姫君様御引移ニ付、御三家方始諸家御道具并吳服献上

同 十一日

長御目錄箱 三通 松平大膳大夫  
半御文箱

右以使者献上之、謁老中

同 十三日

紅白羽二重二十疋 伊達遠江守

同 丹羽左京大夫

右以使者献上之、謁老中

同 十六日

御黒棚一飾 松平陸奥守  
御双紙三箱

御鼻紙臺一 松平左京大夫

御刀掛三通 松平播磨守

御揃臺一通 松平大學頭

右以使者献上之、謁老中

同 十八日

御葛籠一荷 松平彈正大弼

御日傘一本 松平淡路守  
御雨傘二本  
廣綿百把

右以使者献上之、謁老中

同 十九日

御膳部一通 松平越前守

御書棚一 松平三河守

純子二十卷 有馬玄蕃頭

御挾箱一對 上杉彈正大弼

銀御肴鉢一 松平土佐守

御茶辨當一荷 佐竹右京大夫

徳川禮典附録 卷二十三

五八三



御服紗七對 松平出羽守

御膳部一通 細川越中守

御膳部十人前 藤堂和泉守

長御目錄箱四通 松平大和守

御辨當一組 松平左兵衛督

御翠簾十二枚 小笠原大膳大夫

長御目錄箱一通 酒井左衛門尉

右以使者獻上之、謁老中

同 廿一日

廣綿百把 松平攝津守

右以使者獻上之、謁老中

同 廿二日

御膳部一通 松平加賀守

御臺子一通

右以使者獻上之、謁老中

同 廿三日

縮緬御幕三對 松平大隅守

純子御幕一對 松平備前守

御小袖簞笥一通  
御基盤一通  
御將基盤一通  
御雙六盤一通

松平伊豫守

御行器七荷 松平肥前守

御膳部十人前 松平安藝守

右以使者獻上之、謁老中

同 廿七日

長御目錄箱二通 宗 對馬守  
長御文箱一通  
半御文箱一通

右以使者獻上之、謁老中

同 廿八日

御厨子棚一飾 紀伊大納言殿

御膳部一通 尾張中納言殿

御屏風一雙

水戸宰相殿

紅白大紋綸子二十卷 紀伊前大納言殿

純子二十卷 尾張前中納言殿

右以使者被獻之、謁老中

御行器三荷 井伊掃部頭

御蚊帳二帳 松平肥後守

御食籠五對 松平讚岐守

冬御褥三疊 松平越中守

御屏風三雙 松平阿波守

純子十五卷 松平隱岐守

御腰屏風一雙 松平右近將監



右以使者獻上之、謁老中

同 廿九日

御膳部一通 松平因播守

右以使者獻上之、謁老中

但 御道具等萬石以上之面々より獻上有之候得共略之、老中謁之分計記之

十月廿四日

酒井雅樂頭

喜代姫君様來月中御引移可被爲在旨、先達而被 仰出候處、當十二月中御引移可被爲在旨、被 仰出之

右於羽目間老中申渡之

一右之趣向々え可相達旨、大目付御目付え達之

十一月十五日

△雅樂頭末家

酒井出雲守

當十二月朔日吉辰に付 喜代姫君様可被遊御引移旨、酒井雅樂頭父子え可相達候

同 十八日

喜代姫君様御住居え御道具被遣御引移日限

十一月廿七日 御道具初日

十二月朔日 御引移

右之通被 仰出候間得其意、向々え可相達旨、大目付御目付え達之

同 廿五日

來月朔日 喜代姫君様御引移御供揃五時に候間得其意、向々え可相達早大目付御目付え達之

一來月朔日 御引移御當日に付、溜詰松平刑部大輔始御譜代大名、鷹之間詰御奏者番、菊之間縁頼詰同嫡子、

布衣以上之御役人、服紗小袖麻上下着用可有登 城候、尤月次御禮相濟而右御祝儀可申上候事

但 右ニ付而は西丸えは出仕不及候

一御婚禮相濟候ニ付、來月二日御三家始諸大名、諸番頭、諸物頭、諸役人、寄合之面々、四時無地熨斗目半袴

着用 御本丸西丸え可有登 城候

但 在國在所之面々は御婚禮之儀承り候上、追而老中、越前守、伯耆守え使禮可被差越候

右之通可被相觸候

右之通大目付御目付え達之

同 廿七日

一今日吉辰に付 喜代姫君様御道具初日、辰上刻、未上刻兩度に酒井雅樂頭龍之口御住居え被遣之

同 廿八日

一今日吉辰に付 喜代姫君様二度目御道具、辰上刻、未中刻兩度に酒井雅樂頭龍之口御住居え被遣之



同 廿九日

一喜代姫君様三度目御道具、辰上刻、未中刻兩度に酒井雅樂頭龍之口御住居え被遣之

一喜代姫君様御事御引移之御當日御婚禮被爲在候、此段向々え可相達旨、大目付御目付え達之

同 晦日

來月六日 喜代姫君様初而大奥え被爲 入、井酒井雅樂頭、酒井河内守登 城御禮有之候に付 殿中詰合之

面々鬘斗目半袴可有着用候

右之通向々え可被達候

右之通大目付御目付え達之

十一月朔日

△修理大夫嫡子  
酒井 靱 負 佐

喜代姫君様御引移に付、爲御迎登 城、於菊之間縁頼謁老中

一今辰刻之御供揃にて 喜代姫君様御廣敷 御出輿、酒井雅樂頭龍之口御住居え 御引移

一右に付溜詰松平刑部大輔、御譜代大名、高家、鷹之間詰御奏者番、菊之間縁頼詰右嫡子共、諸番頭、諸物頭、

布衣以上之御役人五半時登 城、月並御禮過居殘御祝儀申上之、於席々謁老中

但 今日出仕之面々服紗小袖麻上下着用、尤返し小紋に無之

一同斷に付爲御祝儀、御三家方、紀伊前大納言殿、尾張前中納言殿より使者被差出之、於躰躰間謁老中

一今日御供相勤候面々え於席々吸物御酒被下之

同 二日

二種一荷 日光准后

一種一荷 同 新宮

喜代姫君様御婚禮相濟候爲御祝儀、以使僧被差上之、於燒火間謁老中

二種千疋 紀伊大納言殿

二種二千疋 尾張中納言殿

二種千疋 水戸宰相殿

一種千疋 紀伊前大納言殿

二種千疋 尾張前中納言殿

一同斷に付爲御祝儀、以使者被差上之、於躰躰間謁老中

二種五百疋 松平加賀守

一同斷に付以使者獻上之、於檜之間謁老中

一同斷に付萬石以之上面々より御樽代箱肴以使者獻上之、於大廣間御奏者番家來請取之

一同斷に付右之面々より 御臺様え御樽代箱肴獻上之、於平川口御門番所御奏者番家來請取之

一同斷に付尾張殿、水戸殿始出仕之面々、於席々謁老中

一同斷に付紀伊殿、紀伊前大納言殿、尾張前中納言殿より使者被差出之、於躰躰間謁老中

一同斷に付増上寺方丈より以使僧一種差上之、於檜之間謁御奏者番

三百八拾之餅 上使  
五種五荷 御留守居番



右之通酒井河内守え被下之

三百八拾之餅  
五種五荷 酒井河内守使者  
河合小太郎

右之通差上之、於柳之間謁老中、畢而於躑躅間吸物御酒被下之

卷物五 同 人

右使者相勤候に付被下旨、於同席老中申渡之

同 六日

一喜代姫君様酒井家え御引移、御婚禮以後初而大奥え被爲入、酒井雅樂頭、酒井河内守爲御禮登城

一右に付殿申詰合之面々熨斗目半袴

一御黒書院 公方様 内府様 出御、御上段 御着座

作り御太刀  
白銀二十枚  
卷物五 酒井河内守

右出座、御禮御奏者番披露、御太刀目錄引之、河内守御次え退、進物引之

作り御太刀  
金壹枚  
卷物五 酒井雅樂頭

右出座、御禮御奏者番披露、御太刀目錄引之、雅樂頭御次え退、進物引之、重而一同出座 上意有之、御下

段 御右之方着座

御 盃 兩番頭之内 御吸物 同

御捨土器 同 御肴 同

雅樂頭河内守えも吸物出之

御 酌 同 御 加 同

雅樂頭給仕 中奥御小性 河内守給仕 同

御前え被 召上、御加有而其御盃三方に載之、御下段上より五疊目御酌扣在之時、河内守御次え立、小サ刀

取之出座御盃頂戴、一獻給御肴被下銚付、此時御刀備前國義則御脇差長谷部國重  
代金五拾枚被下、御側衆持出 御右之方

御上段縁際に置之、此節老中取渡頂戴御次え退、刀脇差帶之出座御禮、御次え退刀脇差取之、小サ刀帶之、

出座加有而一獻給、盃を持御次え退時老中取之、三方に載之御酌え渡之、其盃 御前え被 召上時、河内守

出座有而御禮復座、御加有而其御盃三方に載之、御下段上より四疊目御酌扣在之時、雅樂頭御次え立、小サ

刀取之出座御盃頂戴之、一獻給御肴被下銚付、此時御脇差相模國秋廣  
代金五拾枚被下之、御側衆持出 御右之方御上段

縁際に置之、此節老中取渡頂戴之、御次え退 脇差帶之出座御禮、御次え退、脇差取之小サ刀帶之、出座加

有之一獻給、盃を持御次え退時、老中取之三方に載之御酌え渡之、其盃 御前え被 召上時、雅樂頭出座有

而御禮復座、御加有而御納、御銚子入、此時雅樂頭御次え退、獻上之御刀御脇差御奏者番持出、御太刀目錄

披露之席え置之、老中罷在候方え退、雅樂頭出座、御道具差上旨老中言上之、雅樂頭最前之席え着座之時、

御奏者番引之、御膳部引之

御熨斗蛇 兩番頭之内



右持出之 内府様備 御前 上意有之、雅樂頭、河内守御次え退、小サ刀取之出座 御手自御鬘斗蛇被下之、雅樂頭、河内守順々出座頂戴、復座御禮申上之、老中及御取合退去、御鬘斗蛇引之  
酒井雅樂頭家來  
高須 隼 人 河合 小太郎

右一同罷出 御目見御奏者番披露、畢而 入御

作<sup>り</sup>御太刀 金壹枚  
△雅樂頭養父隠居 酒井主計頭

右之通以使者献上之、於檜之間謁老中

一御三家、御三卿方え 姫君様方御引移御婚禮以後御住居を御守殿と唱へ、松平加賀守始諸大名え 御引

移後御守殿とは不唱、御住居と相唱候事

一將軍家姫君様方御入輿御婚禮被 仰出候儀は御取扱御手重に相成 御引移即日御婚禮と被 仰出候は御

取扱御手輕に相成候事

殿上元服之家 安政慶年間

尾 張 殿	紀 伊 殿	水 戸 殿
加賀 中納言	松平 阿波守	松平 陸奥守
松平 三河守	細川 越中守	松平 大膳大夫
松平 越前守	松平 相摸守	松平 肥前守

松平 美濃守	松平 内藏頭	上杉 彈正大弼
松平 出羽守	松平 修理大夫	松平 安藝守

御三家并諸家殿上元服之記

嘉永四辛亥年

十月九日

△紀伊殿 一徳川菊千代殿、於御座間 御一字被遣、官位被 仰出候に付、月番老中、若年寄鬘斗目長袴、其外老中、若

年寄は服紗小袖麻上下着用、辰下刻登 城

一御座間御上段 公方様 右大將様 御着座

徳川 菊千代殿

右被出座、於御縁頬 御對顔老中披露 上意有之而御下段御敷居之内 御左之方被着座、此時 御字之折紙 御硯蓋に載之御側衆持出 御左之方に置之、此節老中取渡之 御一字被遣旨相達之、菊千代殿中座有而被頂 戴、被任叙從三位中將之旨 上意有之、老中及御挨拶 御一字之折紙御次え被持退

御太刀 白銀五十枚  
卷物二十  
御馬 二疋  
紀伊 中將殿 慶福

右之通被獻之、於御縁頬御禮、御太刀目錄老中披露、御馬二疋と言上之 御一字并官位之御禮老中言上之、



紀伊殿被退座、御太刀目錄老中引之、進物御小納戸引之、重而紀伊殿被出座、最前之席え被着座

御 盃 御 小 性 御引渡 同

御 肴 同 御捨土器 同

紀伊殿引渡 同 御 加 同

御 酌 同 御 加 同

御前え被 召上、御加有而其御盃三方に載之、御下段中程に御酌扣在之時、紀伊殿被出座頂戴、一獻被給御

肴被遣銚付被致、此時被遣御刀相模國廣次代金三十枚御側衆持出 御左之方御上段縁際に置之、此節老中取渡被頂戴、

御刀持之御次え退座、刀帶之被出座、御禮老中言上之、御次え被退刀被置之、重而被出座加有而一獻被給、

盃を持被退時、老中取之三方に載之、御酌え渡之 御前え被 召上時、中座有而御禮、御次え退座、此節獻

上之御刀大和國包清代金二十枚若年寄持出之、御太刀目錄披露之席に置之、老中罷在候方え退、紀伊殿被出座、御刀被

差上旨老中言上之、紀伊殿歸座之時、御刀若年寄引之、御加有而御銚子入、御引渡等引之 御會釋被遊、老

中御挨拶言上之、被退去

天保三壬辰年

七月廿三日

一松平勝吉、於御黒書院 御一字被遣、官位被 仰出候に付、月番老中、若年寄染帷子長袴、其外老中、若年

寄は染帷子麻上下着用、辰下刻登 城

一御黒書院 出御 公方様 内府様御上段 御着座

松 平 勝 吉

右元服依被 仰付、於御縁類 御目見御奏者番披露、御下段御敷居之内 御右之方着座、此時 御字之折紙

御視蓋に載之御側衆持出 御右之方に置之、此節老中取渡 御一字被下旨相達之、勝吉中座有而頂戴之御次

間え持退、于時被任叙從四位下侍從之由 上意之趣老中演達之、老中列座、其後御禮有之

御太刀 白銀三十枚 卷物十 御馬一疋 松 平 安 藝 守 齊 肅

右之通獻上之、於御縁類御禮御奏者番披露、御馬一疋と言上之 上意有之 御一字并官位之御禮申上旨老中

言上之、御次間え退去進物引之、重而安藝守出座、御下段御敷居之内 御右之方着座

御 盃 中 奥 御 小 性 御引渡 同

御捨土器 同 安藝守 引渡 足打 同

御 酌 兩 番 頭 之 内 御 加 同

御前え被 召上、其御盃御銚子に載之、御下段中央御酌扣在之時、安藝守出座頂戴、此時御道具被下之御刀

備前國祐定代金十五枚 御側衆持出 御右之方御上段縁際に置之、此節老中取渡之、頂戴而刀と御盃持之御次間え退座、



御銚子入刀帶之出座、於御縁頼御禮、御道具被下之難有旨老中言上之、退座刀置之、此節獻上之御刀御奏者番持出、御太刀目錄披露之席に置之、老中罷在候方え退、安藝守出座、御刀差上旨老中言上之、安藝守最前之席え着座之時、御刀御奏者番引之、御引渡等引之、御禮之儀老中言上之退去

嘉永四 辛亥年

九月十八日

一御黒書院 出御 公方様 右大將様御上段 御着座

△越中守嫡子

細川 六之助

右元服依被 仰付、於御縁頼 御目見御奏者番披露、御下段御敷居之内 御右之方着座、此時 御字之折紙

御視蓋に載之御側衆持出 御右之方に置之、此節老中取渡 御一字被下旨相達之、六之助中座有而頂戴之御

次間え持退、于時可任叙從四位下侍從之由 上意之趣老中演達之、老中列座、其後御禮有之

佐

御太刀

白銀三十枚

卷物十

御馬一疋

△六之助事  
細川 右京大夫 慶順

右之通獻上之、於御縁頼御禮御奏者番披露、御馬一疋と言上之 上意有之 御一字并官位之御禮申上旨老中

言上之、御次間え退座進物引之、重而右京大夫出座、御下段御敷居之内 御右之方着座

御 盃

中奥 御小性

御引渡

同

御捨土器

同

右京大夫  
引渡足打

同

御 酌

兩番頭之内

御 加

同

御前え被 召上、其御盃御銚子に戴之、御下段中央御酌扣在之時右京大夫出席頂戴之、此時御道具被下之御

美濃國兼貞  
刀代金十五枚

御側衆持出

御右之方御上段縁際に置之、此節老中取渡之、頂戴而刀と御盃持之御次間え退座、

御銚子入刀帶之出座、於御縁頼御禮、御道具被下之難有旨老中言上之、退座刀置之、此節獻上之御刀御奏者

番持出、御太刀目錄披露之席に置之、老中罷在候方へ退、右京大夫出座、御刀差上旨老中言上之、右京大夫

最前之席へ着座之時、御刀御奏者番引之、御引渡等引之、御禮之儀老中言上之退去

御太刀金馬代  
綿二十把

細川 越中守

右之通獻上之、於御縁頼御禮御奏者番披露、退座進物引之、重而出座 御右之方着座、右京大夫元服之御禮

申上旨老中言上之上意有之、老中御取合申上之退座

萬延元 庚申年

三月九日

△御本丸御焼失に付 西丸御在城之節

一御白書院 出御御上段 御着座

△阿波守嫡子

松 平 千 松 丸

右元服依被 仰付、於御縁頼 御目見御奏者番披露、御下段御敷居之内 御右之方着座、此時 御字之折紙



御硯蓋に載之御側衆持出 御右之方に置之、此節老中取渡之 御一字被下旨相達之、千松丸中座有而頂戴之  
御次間え持退、于時可任叙從四位下侍從之由 上意之趣老中演達之、老中列座、其後御禮有之

御太刀  
白銀三十枚  
卷物五  
御馬一疋 松平淡路守 △千松丸事  
茂詔

右之通獻上之、於御縁頼御禮御奏者番披露、御馬一疋と言上之 上意有之 御一字并官位之御禮申上旨老中  
言上之、御次間え退座進物引之、重而淡路守出座、御下段御敷居之内 御右之方着座

御 盃 中奥御小性 御引渡 同

御捨土器 同 淡路守 足打 同

御 酌 兩番頭之内 御 加 同

御前え被 召上、其御盃御銚子に載之、御下段中央御酌扣在之時淡路守出座頂戴之、此時御道具被下之御刀  
豊後國實行 御側衆持出 御右之方御上段縁際に置之、此節老中取渡之、頂戴而刀と御盃持之御次間え退座、  
代金十五枚 御銚子入刀帶之出座、於御縁頼御禮、御道具被下之難有旨老中言上之、退座刀置之、此節獻上之御刀御奏者  
番持出、御太刀目錄披露之席に置之、老中罷在候方え退、淡路守出座、御刀差上旨老中言上之、淡路守最前  
之席え着座之時、御刀御奏者番引之、御引渡等引之、御禮之儀老中言上之退去

御太刀金馬代  
綿二十把 松平阿波守

右之通獻上之、於御縁頼御禮御奏者番披露、退座進物引之、重而出座 御右之方着座、淡路守元服之御禮申

上旨老中言上之 上意有之、老中御取合申上之退座

水戸殿在所え御暇之次第

天保四年癸巳二月廿三日

一御座間 公方様 内府様 御着座

初而水 戸 宰相 殿

右御縁頼迄被出座、老中披露 上意有之、御下段御敷居之内 御左之方被着座、以 上使在所え御暇被 仰  
出、品々被遣、從 内府様も以 上使被遣物有之、且又今日御饗應 御對顔忝被存旨老中言上之 上意有之

御 盃 御 小 性 御引渡 同

御吸物 同 御 肴 同

御捨土器 同

水戸殿えも引渡吸物出 同

御 酌 同 御 加 同

御前え被 召上、御加有而其御盃三方に載之、御下段上より三疊目之中御酌扣在之時、水戸殿出座頂戴、一  
獻被給御肴被遣之、復座被致銚付時、御刀被遣之旨、上意有之、于時御刀 駿河國義助  
代金二十枚 御側衆持出之 御左之  
方御上段縁際に置之、此節老中取渡被頂戴、御刀持之御次え退座、刀帶之被出座、御禮老中言上、御次え被  
退刀被置之、重而出座加有而一獻被給、盃を持被退時老中取之、三方に載之御酌え渡之 御前え被 召上時、



中座有而御禮歸座、御銚子入御吸物等引之、于時御熨斗匏御小性持出 内府様備 御前、御手自水戸殿え被遣頂戴、御盃御熨斗匏被遣忝由老中御取合申上之、過而御鷹、御馬被遣旨 公方様御意有之、老中及御取合被退去

御 黒 書 院

水戸殿家來

朝比奈彌太郎

岡田新太郎

渡邊宮内衛門

蘆澤惣兵衛

奥津所左衛門

右供仕罷越付而拜領物被 仰付旨老中申渡、過而 御前え罷出、御奏者番披露、拜領物之御禮老中言上之、畢而 入御

白銀百枚 卷物二十

水戸殿在所へ御暇被 仰出 水戸殿は御定府にて御願之上御暇被仰出 御使 老中 を以被遣之

御暇被 仰出候爲御禮被登 城 御對顔之節左之通被遣之

御刀代金二十枚

御鷹 三据

御馬 二疋

寶曆五乙亥十一月老中より伺濟 御三家方於御座間御盃被遣候節

大納言

御下段より二疊目之下に御三方置之

中納言 宰相

御下段上より三疊目之中に御三方置之

中將

御下段上より四疊目之中に御三方置之

右御座間にて御三家え御盃被遣候節、疊目之儀宰相、中將只今迄之例難相知候付相伺候處、右之通被 仰出之

明和四丁亥十二月老中より伺濟

年始は 御上段 御着座

八朔は 御中段 御着座

御太刀疊目

御黒書院御太刀目錄置所

下より三疊目之上

中 將

下より二疊目之下

少 將

下より一疊目之下

侍 從

御白書院御太刀目錄置所

下より三疊目之上

中 將

下より二疊目之上

少 將

下より一疊目之上

侍 從

大廣間御下段九疊 年始御太刀疊目



大廣間御下段九疊 八朔御太刀疊目

中將之 御太刀
少將之 御太刀
侍從之 御太刀
四品之 御太刀

△後改 △中將 御太刀
御太刀
中將 少將 侍從

御白書院御下段七疊 御太刀疊目

中將之 御太刀
少將之 御太刀
侍從之 御太刀

御黒書院御下段六疊 御太刀疊目

中將之 御太刀
少將之 御太刀
侍從之 御太刀

御座間御太刀置所疊目

下より三疊目之下 大納言  
 下より二疊目之下 宰相  
 下より一疊目之中 少將  
 下より二疊目之上 中納言  
 下より一疊目之上 中將  
 下より一疊目之下 侍從

左之書付大目付え達之

大廣間御禮申上候面々持參候御太刀置所疊目

年始

中將 御下段より四疊目に置之  
 三疊目にて御禮  
 侍從 御下段下より二疊目に置之  
 一疊目にて御禮

少將 御下段下より三疊目に置之  
 二疊目にて御禮  
 四品 御下段御敷居之内一疊目に置之  
 板縁にて御禮

八朔



中將、少將、侍從之無差別、御下段下より二疊目に置之、一疊目にて御禮

四品御下段御敷居之内に置之、板縁にて御禮

右之通大廣間にて御禮申上候面々え爲心得、寄々可被相達置候

十二月

明和五戊子年

五月五日

左之書付大目付え達之

大廣間にて御禮申上候面々持參候御太刀置所疊目之儀、先達而相達候書面之内、八朔中將持參之御太刀、御下段下より三疊目に置、其疊にて御禮可申上候、其外先達而相達候通たるべく候、且又五節句御禮疊目も八朔之通たるべく候

右之通可被相達候

五月

御軍役人數積

一二百石 五人 侍一人 馬口取一人 甲冑持一人 小荷駄一人 鎗持一人 一二百五十石 六人 侍一人 草履取一人 馬口取一人 甲冑持一人 鎗持一人

一三百石 七人 侍一人 草履取一人 小荷駄一人 甲冑持一人 挾箱持一人 鎗持一人 馬口取一人 一四百石 九人 侍一人 草履取二人 小荷駄二人 甲冑持一人 挾箱持一人 鎗持一人

千石より人數計出候時も弓一張、鐵炮一挺、鎗一本ハ差出候、其身出馬之時は、五百石以上自分之弓持せ可申事

一五百石 十一人 侍二人 鎗持一人 甲冑持一人 草履取一人 小荷駄二人 立弓持一人 挾箱持一人

一千石 二十一人 弓一張 鐵炮一挺 鎗二本

一六六石 十三人 侍三人 鐵炮一人 鎗持一人 甲冑持一人 草履取一人 小荷駄二人 立弓持一人 小荷駄取一人 挾箱持一人

長鎗持五人 甲冑持二人 立弓持一人 甲冑持一人 挾箱持一人 鐵炮取一人 草履取一人 小荷駄取一人

一七十七石 十五人 侍四人 鐵炮一人 鎗持一人 甲冑持一人 草履取一人 小荷駄二人 立弓持一人 小荷駄取一人 挾箱持一人

一千二百石 二十三人 弓一張 鐵炮一挺 鎗三本 甲冑持一人 立弓持一人 甲冑持一人 挾箱持一人 鐵炮取一人 草履取一人 小荷駄取一人

一八十八石 十七人 侍四人 鐵炮一人 鎗持一人 甲冑持一人 草履取一人 小荷駄二人 立弓持一人 小荷駄取一人 挾箱持一人

侍五人 鎗持三人 甲冑持一人 立弓持一人 甲冑持一人 挾箱持一人 鐵炮取一人 草履取一人 小荷駄取一人

一九十九石 十九人 侍五人 鐵炮一人 鎗持一人 甲冑持一人 草履取一人 小荷駄二人 立弓持一人 小荷駄取一人 挾箱持一人

侍五人 鐵炮一人 鎗持一人 甲冑持一人 草履取一人 小荷駄二人 立弓持一人 小荷駄取一人 挾箱持一人

侍六人 鎗持三人 甲冑持一人 立弓持一人 甲冑持一人 挾箱持一人 鐵炮取一人 草履取一人 小荷駄取一人



一千三百石 二十七人

右同斷

鎗持一人 挾箱持一人

手明全增

一千四百石 二十八人

右同斷

侍一人 鎗持一人 挾箱持一人增

一千五百石 三十人

弓一張 鐵炮二挺 鎗三本

侍七人  
鎗持四人  
草履取一人  
香箱持一人  
小荷馱三人

立弓一人  
甲胄持二人  
兩挾箱持三人  
兩具持一人

鐵炮二人  
長刀二人  
馬口取二人  
押足輕二人

一千六百石 三十一人

右同斷

侍一人增

一千七百石 三十三人

弓一張 鐵炮二挺 鎗四本

侍八人  
鎗持五人  
草履取一人  
香箱持一人  
小荷馱四人

立弓一人  
甲胄持二人  
兩挾箱持三人  
兩具持一人

鐵炮二人  
長刀二人  
馬口取二人  
押足輕二人

一千八百石 三十五人

右同斷

乘替口附二人增

一千九百石 三十六人

右同斷

香箱持一人增

二千石 三十八人

弓一張 鐵炮二挺 鎗五本

侍八人  
鎗持五人  
草履取一人  
香箱持一人  
小荷馱四人

立弓一人  
甲胄持二人  
挾箱持二人  
兩具持一人

鐵炮二人  
長刀一人  
口附四人  
押足輕二人

一千三千石 五十六人

右同斷

馬上一騎 弓二張 鐵炮三挺 鎗五本

侍十人  
鎗持五人  
長刀一人  
挾箱持二人  
香箱持二人  
箭若箱一人

數弓二人  
甲胄持二人  
馬印二人  
兩具持一人  
押足輕三人  
玉箱持一人

鐵炮三人  
立弓一人  
草履取一人  
口附四人  
二騎口附二人  
小荷馱四人

一千四百石 七十九人

馬上三騎 弓二張 鐵炮三挺 鎗五本

鎗持五人  
騎士五人  
甲胄持四人  
挾箱持四人  
坊主一人  
雨具持一人  
玉箱持一人  
鎗若箱三人

侍數九人  
弓九人  
長刀一人  
草履取一人  
口附四人  
押足輕四人  
三騎之口附三人  
具持一掉四人

鐵炮三人  
立弓一人  
馬印三人  
茶辦當一人  
箭若箱二人  
小荷馱五人

一千五千石 百三人

馬上五騎 弓三張 鐵炮五挺 鎗十本 旗二本

鎗持十人  
騎士五人  
立弓一人  
甲胄持四人  
挾箱持四人  
口附四人  
押足輕四人  
五騎之口附五人  
具足持五人  
小荷馱五人

旗數指六人  
手筒印三人  
馬印一人  
茶辦當一人  
箭若箱三人  
小者三人

鐵炮五人  
侍九人  
長刀一人  
坊主一人  
草履取一人  
雨具持一人  
玉箱持一人  
長持一掉四人

一千六千石 百二十七人

馬上五騎 弓五張 鐵炮十挺 鎗十本 旗二本

德川禮典附錄 卷二十三

一千七千石 百四十八人

右同斷

長持一掉四人

二千石 三十八人

右同斷

香箱持一人增

二千石 三十八人

右同斷

馬上一騎 弓二張 鐵炮三挺 鎗五本

侍十人  
鎗持五人  
長刀一人  
挾箱持二人  
香箱持二人  
箭若箱一人

數弓二人  
甲胄持二人  
馬印二人  
兩具持一人  
押足輕三人  
玉箱持一人

鐵炮三人  
立弓一人  
草履取一人  
口附四人  
二騎口附二人  
小荷馱四人

一千四百石 七十九人

馬上三騎 弓二張 鐵炮三挺 鎗五本

鎗持五人  
騎士五人  
甲胄持四人  
挾箱持四人  
坊主一人  
雨具持一人  
玉箱持一人  
鎗若箱三人

侍數九人  
弓九人  
長刀一人  
草履取一人  
口附四人  
押足輕四人  
三騎之口附三人  
具持一掉四人

鐵炮三人  
立弓一人  
馬印三人  
茶辦當一人  
箭若箱二人  
小荷馱五人

一千五千石 百四十八人

馬上六騎 弓十張 鐵炮十五挺 鎗十本 旗二本

鎗持十人  
騎士六人  
立弓一人  
甲胄持四人  
挾箱持四人  
口附四人  
押足輕四人  
六騎之口附六人  
具足持六人  
小荷馱七人

旗數指六人  
手筒印三人  
馬印一人  
茶辦當一人  
箭若箱三人  
小者三人

鐵炮十五人  
侍十一人  
長刀一人  
坊主一人  
草履取一人  
雨具持一人  
玉箱持一人  
長持一掉四人

一千六千石 百二十七人

馬上五騎 弓五張 鐵炮十挺 鎗十本 旗二本

德川禮典附錄 卷二十三



一八千石 百七十一人

馬 上七騎 鐵炮十五挺 弓十張 旗二本  
 騎 士七人 數 弓十人 鐵炮十五人  
 鎗持二十人 旗 指六人 侍 十二人  
 立 弓二人 手 筒一人 長 刀二人  
 甲冑持四人 馬 印三人 小馬印二人  
 挾箱持四人 茶 辨當一人 坊 主一人  
 草履取一人 口 附四人 沓 箱二人  
 雨具持一人 押 足輕四人 箭 箱二人  
 玉 箱二人 七 騎口附七人 小 若 者五人  
 鎗 持七人 具 足持七人 若 者五人  
 長持一掉四人 小 荷駄八疋八人

一一萬石 二百三十五人

馬 上十騎 鐵炮二十挺 弓十張 旗三本  
 騎 士十人 數 弓十人 鐵炮二十人  
 鎗持三十人 旗 指九人 侍 十六人  
 立 弓二人 手 筒二人 長 刀二人  
 甲冑持四人 馬 印三人 小馬印二人  
 挾箱持四人 茶 辨當一人 坊 主一人  
 口 附六人 雨 具持二人 草 履取一人  
 箭 箱二人 玉 箱二人 押 足輕六人  
 若 者十人 鎗 持十人 十 騎口附十人  
 小 者六人 長持二掉八人 具 足持十人  
 小 荷駄十疋十人

用人物頭 騎士之内に有べし 此外小荷駄備并醫者、文者、勘定役、大工、金堀等は知行高に應じて相應可召連、忍之者ハ押足輕之内に有べし 貝、太鼓、鉦、陳鐘、相圖笛可有留意、以下倣之

一二萬石 四百十五人

馬 上二十騎 鐵炮五十挺 弓二十張 旗五本  
 騎 士二十人 數 弓二十人 鐵炮五十人  
 鎗持五十人 旗 指十五人 侍 二十四人  
 立 弓二人 手 筒二人 長 刀二人  
 甲冑持三箇六人 馬 印三人  
 小馬印三人 挾箱持四人 袋 箱二人  
 茶 辨當二人 坊 主一人 雨 具持二人  
 草履取一人 口 附六人 沓 箱三人  
 押足輕六人 箭 箱二荷四人 玉 箱二荷四人  
 十七騎口附十七人 若 者十七人 鎗 持十七人  
 具 足持十七人 小 者十人 長持二掉八人  
 家 老 一人 供 人 九人 用 人 一人 供 人 七人  
 物 頭 一人 供 人 七人 小 荷駄十五疋十五人

一四萬石 七百七十人

馬 上四十五騎 鐵炮百二十挺 弓三十張 旗八本  
 騎 士四十五人 數 弓三十人 鐵炮百二十人  
 鎗持七十人 旗 指二十四人 侍 三十六人  
 立 弓二人 手 筒二人 長 刀二人  
 甲冑持六人 馬 印三人 小馬印三人  
 挾箱持四人 茶 辨當二人 坊 主一人  
 口 附六人 雨 具持二人 草 履取一人  
 沓 箱三人 押 足輕七人

一三萬石 六百一人

馬 上三十五騎 鐵炮八十挺 弓二十張 旗五本  
 騎 士三十五人 數 弓二十人 鐵炮八十人  
 鎗持七十人 旗 指十五人 侍 三十人  
 立 弓二人 手 筒一人 長 刀二人  
 甲冑持三人 馬 印二人  
 小馬印二人 挾箱持四人 袋 箱二人  
 茶 辨當二人 坊 主一人 雨 具持二人  
 草履取一人 口 附六人 沓 箱三人  
 押足輕六人 箭 箱二荷四人 玉 箱二荷四人  
 十七騎口附十七人 若 者十七人 鎗 持十七人  
 具 足持十七人 小 者十人 長持二掉八人  
 家 老 一人 供 人 九人 用 人 一人 供 人 七人  
 物 頭 一人 供 人 七人 小 荷駄十五疋十五人



箭 箱四人 玉 箱四人  
 三十四騎口附三十四人  
 鎗持三十四人 具足持三十四人  
 諸士之小者二十五人 長持二掉八人  
 家老一人 供人十二人 用人二人 供人十四人  
 旗奉行一人 供人七人 長柄奉行二人 供人十四人  
 物頭五人 供人三十五人 小荷駄二十五疋 二十五人

一五萬石 千五人

馬上七十騎 弓三十張 旗十本  
 鐵炮百五十挺 鎗八十本  
 騎士七十人 數弓三十人 鐵炮百五十人  
 內役人十四人 手替十五人 小頭六人  
 鎗持八十人 旗指三十人 侍 四十人  
 小頭四人 手替二十七人 室領二人  
 立 弓二人 手 筒二人 長 刀二人  
 甲冑持六人 馬 印三人 小馬印三人  
 手替一人 室領二人  
 挾箱持四人 簀 箱二人 茶辨當二人  
 坊 主一人 雨具持二人 草履取一人  
 口 附六人 香 箱三人 押足輕八人  
 手替三人 室領一人  
 箭 箱四人 玉 箱四人  
 室領一人  
 五十六騎口附五十六人 若黨五十六人  
 鎗持五十六人 具足持五十六人  
 諸士之小者四十人 長持二掉八人  
 室領二人

一七萬石 千四百六十三人

馬上百十騎 弓五十張 旗十五本  
 鐵炮二百挺 鎗百本  
 騎士百十人 數弓五十人 鐵炮二百人  
 內役人二十五人 手替十七人 小頭八人  
 鎗持百十人 旗指四十五人 侍 五十人  
 小頭五人 手替三十三人 室領四人  
 立 弓二人 手 筒二人 長 刀二人  
 手替一人 室領三人  
 甲冑持六人 馬 印三人 小馬印三人  
 室領三人  
 挾箱持四人 簀 箱二人 茶辨當二人  
 坊 主二人 雨具持二人 草履取一人  
 口 附八人 香 箱四人 押足輕十人  
 手替四人 室領二人  
 箭 箱六人 玉 箱八人  
 室領二人  
 騎士口附八十五人 若黨八十五人  
 鎗持八十五人 具足持八十五人  
 諸士小者五十七人 長持四掉十六人  
 室領四人  
 家老二人 供人三十人 用人四人 供人三十八人  
 旗奉行四人 供人三十八人 長柄奉行五人 供人三十五人  
 物頭十人 供人七十人 小荷駄四十疋 四十人  
 五十五騎 二備と成

一八萬石 千六百七十七人

馬上百三十騎 弓五十張 旗十五本  
 鐵炮二百五十挺 鎗百十本

家老一人 供人十二人 用人二人 供人十四人  
 旗奉行二人 同 十四人 長柄奉行三人 供人三十二人  
 物頭六人 同 四十二人 小荷駄三十疋 三十人

一六萬石 千二百十人

馬上九十騎 弓三十張 旗十本  
 鐵炮百七十挺 鎗九十本  
 騎士九十人 數弓三十人 鐵炮百七十人  
 內役人九人 手替十五人 小頭五人  
 鎗持九十人 旗指三十人 侍 四十五人  
 小頭五人 手替三十三人 室領三人  
 立 弓二人 手 筒二人 長 刀二人  
 手替一人 室領二人  
 甲冑持六人 馬 印三人 小馬印三人  
 室領二人  
 挾箱持四人 簀 箱二人 茶辨當二人  
 坊 主二人 雨具持二人 草履取一人  
 口 附八人 香 箱四人 押足輕十人  
 手替四人 室領一人  
 箭 箱四人 玉 箱六人  
 室領一人  
 騎士口附七十一人 若黨七十一人  
 鎗持七十一人 具足持七十一人  
 諸士小者五十一人 長持三掉十二人  
 室領二人  
 家老二人 供人三十四人 用人四人 供人三十八人  
 旗奉行二人 供人十四人 長柄奉行四人 供人三十二人  
 物頭七人 供人四十九人 小荷駄三十五疋 三十五人  
 四十五騎 二備と成

一九萬石 千九百二十五人

馬上百五十騎 弓六十張 旗二十本  
 鐵炮三百挺 鎗百三十本  
 騎士百五十人 數弓六十人 鐵炮三百人  
 內役人二十七人 手替三十人 小頭十人  
 鎗持百三十人 旗指六十人 侍 六十人  
 小頭六人 手替四十八人 室領六人  
 立 弓二人 手 筒二人 長 刀二人  
 手替一人 室領三人  
 甲冑持六人 馬 印三人 小馬印三人  
 室領三人  
 挾箱持四人 簀 箱二人 茶辨當二人  
 坊 主二人 雨具持二人 草履取一人  
 口 附八人 香 箱四人 押足輕十二人  
 手替四人 室領二人  
 箭 箱六人 玉 箱八人  
 室領二人  
 騎士口附百三十三人 若黨百三十三人  
 鎗持百三十三人 具足持百三十三人  
 諸士小者六十三人 長持四掉十六人  
 室領四人  
 家老三人 供人四十五人 用人四人 供人三十八人  
 旗奉行四人 供人三十八人 長柄奉行六人 供人四十三人  
 物頭七人 供人七十人 小荷駄四十五疋 四十五人  
 四十三騎 三備と成

馬上百五十騎 弓六十張 旗二十本  
 鐵炮三百挺 鎗百三十本

騎士百五十人 數弓六十人 鐵炮三百人  
 內役人二十七人 手替三十人 小頭十人  
 鎗持百三十人 旗指六十人 侍 六十人  
 小頭六人 手替四十八人 室領六人



立 弓二人 手 筒一人 長 刀二人  
 甲冑持六人 馬 印三人 小馬印三人  
宰領三人  
 挾箱持四人 蓑 箱二人 茶辨當二人  
 坊 主二人 雨具持二人 草履取一人  
 口 附八人 杓 箱四人 押足輕十二人  
手替四人  
 箭 箱六人 玉 箱八人  
宰領二人  
 騎士口附百二十三人 若 黨百二十三人  
手替五人  
 鎗持百二十三人 具足持百二十三人  
手替五十五人  
 諸士供六十九人 長持四棹十六人  
宰領四人

一十萬石 二千百五十五人

馬上百七十騎 弓六十張 旗二十本  
 鐵炮三百五十挺 鎗百五十本

右軍役如定旗、弓、鐵炮、甲冑、馬、皆具諸色人積可相嗜、若軍役於不足之族有之者、急度可爲曲事、軍役之外者嗜次第召連、可爲忠節者也

慶安二丑年十月

騎士百七十人 數弓六十人 鐵炮三百五十人  
内二十七人役人除  
 鎗持百五十人 旗指六十人 侍六十五人  
手替二十人  
 立 弓二人 手 筒二人 長 刀二人  
手替一人  
 甲冑持六人 馬 印三人 小馬印三人  
宰領二人  
 挾箱持四人 蓑 箱二人 茶辨當二人  
 坊 主二人 雨具持二人 草履取二人  
 口 附八人 杓 箱四人 押足輕十二人  
手替四人  
 箭 箱六人 玉 箱八人  
宰領二人  
 騎士口附百四十三人 若 黨百四十三人  
手替七人  
 鎗持百四十三人 具足持百四十三人  
手替七十七人  
 諸士小者八十人 長持四棹十六人  
宰領四人

家老三人 供人四十五人 用人四人 供人二十八人  
 旗奉行四人 供人三十八人 長柄奉行六人 供人四十三人  
 物頭十人 供人七十人 小荷駄五十疋五十人  
 五十六騎 三備と成

慶長以來將軍徳川家御代替之節々 御法令、御條目、大同小異あれ共略之、嘉永度之近例を出す

嘉永七甲寅年

九月廿三日

一左之書付大目付御目付え達之

御代替御法令被 仰出之

九月廿五日

萬石以上交替寄合

同 廿六日

高家衆、御留守居諸番頭、諸物頭、御目見以上之諸役人、表高家、三千石以上之寄合、并法印、法眼之醫師、狩野董川、狩野勝川

右之通處斗目半袴着用五半時登 城

一西丸之面々も當番之外は 御本丸え可罷出候

右之趣得其意向々可被達候

九月

九月廿五日



一今日 御代替御法令被 仰出候に付、殿中殿斗目半袴  
一御座間御上段 御着座御殿斗目  
麻御上下

水戸 中納言殿

尾張 中納言殿

右順々被出座老中披露、御下段 御左之方被着座 御對顔、御法令被 仰出目出度被存旨老中言上之 上意有之、老中及御取合被退去、田安中納言殿、徳川刑部卿殿被出座 御對顔、右次第同前被退去、相濟而御黒書院御上段 御着座、溜詰、同格、松平越後守始御黒書院  
出禮之面々 御目見、御法令被 仰出之旨老中演達之 上意有之、老中及御取合退去、相濟而大廣間 渡御 出御以前より御下段え國持大名暨萬石以上之面々並居 御目見、御法令被 仰出之旨老中演達之 上意有之、老中及御取合退去、畢而 入御  
一入御以後、大廣間御帳臺より中奥御小性御法令御文臺に載之持出、林大學頭讀之  
一御法令向々え左之通渡之

御三家え

一通充

△老中

右於芙蓉間家老え△牧野御法令御用掛 備前守渡之、老中列座

御兩卿え

一通充

右於土圭間田安殿、刑部卿殿家老え備前守渡之

國持大名え

二 通

右備前守宅え家來 二人 呼相渡、其節國持大名并四品之面々え、先格之通可有通達旨申含相渡候事

溜詰、同格え 一 通

右同人宅え家來 一人 呼相渡其節同席并溜詰格えも可有通達旨申含相渡候事

一右之外御譜代大名え一通、外様大名え二通、詰衆、御奏者番え一通、菊之間縁頼詰え一通、備前守宅え何も家來 一人或は 二人 呼、同席え可有通達旨申含渡之

九月廿六日

一御法令二日目被 仰出 殿中殿斗目麻上下

一大廣間 出御、御中段 御着座御殿斗目  
麻御上下 出御以前より御下段ニ高家衆、御留守居諸番頭、諸物頭始諸役人、

布衣以上之御役人寄合、法印、法眼醫師、狩野董川、狩野勝川並居 御目見、御法令被 仰出候段老中演達之 上意有之、老中御取合申上之、相濟而 入御

一入御以後大廣間にて林大學頭御法令讀之昨日之通

武家諸法度

一文武忠孝を勵し、可正禮義事

一參勤交替之儀毎歲可守、所定之時節從者之員數不可及繁多事

一人馬兵具等分限に應し可相嗜事

一新規之城郭構營堅禁止之、居城之隄壘石等收壞之時は達奉行所、可受差圖也、櫓、屏、門以下は如先規可修  
補事



一大船製造可言上事

一企新規、結徒黨、成誓約、并私之關所、新法之津留製禁之事

一江戸并何國にても不慮之儀有之といふとも、猥不可懸集、在國之輩は其所を守り、下知を可相待也、何處にて雖行刑罰、役者之外不可出向、可任檢使之左右事

一喧嘩口論可加謹慎、私之諍論製禁之、若無據子細有之は達奉行所、可受其旨、不依何事令荷擔は、其咎本人よりおもかるへし、并本主之障有之もの不可相拘事

但 頭有之輩之百姓訴論は、其支配え令談合可濟之、有滯儀は評定所え差出之、可受捌事

一國主、城主、一萬石以上近習、并諸奉行、諸物頭、私不可結婚姻、惣而公家と於結縁邊は、達奉行所可受差

圖事

一音信、贈答、嫁娶之規式、饗應式家宅營作等、其外萬事可用儉約、惣而無益之道具をこのみ、不可致私之奢事

一衣裳之品不可混亂、白綾公卿以上、白小袖諸大夫以上免許之事

附 徒若黨之衣類は、羽二重新紬布木綿、弓鐵炮之者は細布木綿、其下に至りては萬に布木綿可用事

一乘輿者一門之歷々、國主、城主、一萬石以上并國大名之息城主、及侍從以上之嫡子、或年五十以上許之醫師、

僧家は製外事

一養子は同姓相應之者を撰ひ、若無之におるては由緒を正し、存生之内可致言上、五十以上十七歳以下之輩、

及末期雖致養子、吟味上可立之、縱雖實子筋目違たる儀不可立事

附 殉死之儀彌令制禁事

一知行之所務清廉沙汰之、國郡不可令衰弊、道路驛馬橋舟等無斷絶可令往還事

一諸國在散之寺社領、從古至于今、所附來は不可取放之、勿論新地之寺社建立彌令停止之、若無據子細有之

は達奉行所、可受差圖事

一萬事應江戸之法度、於國々所々可遵行事

右條々堅可相守者也

嘉永七年九月廿五日

別紙にて達し

今度御法令に大船製造可言上之旨被 仰出候、然處荷船は前々より御許し有之事に付、有來通製造之儀は是迄之通可相心得候、尤荷船たりとも製造方其外有來と相違致し候は、此度被 仰出候通相心得可申事

九月

五ヶ年之内兩度類燒仕候者拜借金

享保六辛申三月十六日

五千石	金 二百兩	三千石より四千石迄	金 百五十兩
千石より二千石迄	金 百兩	七百石より九百石迄	金 五十兩



三百石より六百石迄	金 三十兩	二百石	金 二十兩
百石	金 十兩		

但 百俵も同斷、餘も准之

五十俵より九十俵迄	金 七兩	三十俵より四十俵迄	金 五兩
十五俵より二十俵迄	金 三兩	十五俵以下	金 二兩

但 御切米御扶持方被下候者之御扶持方は高割に除き、御扶持方計は、十人扶持は五十俵之積、其餘は右に可准、町人は御扶持方被下候共拜借不相成候

以上

丑三月

文久元辛酉年

此節物價格外高直ニ相成、小給之者共ハ別而難儀之趣被爲及 聞召候に付、莫大御物入打續候折柄ニハ候得共、格別之以 思召部屋住勤之外、三百石以下御旗本之面々、并御家人え拜借金被 仰付、百俵以下之ものは夫々御金被下候旨被 仰出候、右は厚 御主意を以被 仰出候事ニ付、一際質素儉約相用候様可致候、萬一心得違之ものも有之おいては、急度御沙汰之品も可有之候條、其旨可被心得候

右之通向々え可被相觸候

二月

別紙

今度被 仰出候拜借金割合左之通被 仰付候、請取方等御勘定奉行可被談候

一三百石	金 二十五兩	一二百石	金 二十兩
------	--------	------	-------

一百石餘	金 十五兩	一御役料は相除候事
------	-------	-----------

一平常之心掛ニ而拜借ニ不及ものは勝手次第之事

一返納之儀は來々亥年より十ヶ年賦たるへき事

右之通可被相心得候

二月

別紙

今度被 仰出候百俵以下之もの被下金割合、左之通請取方等御勘定奉行可被談候

一 百俵より	金 十兩	一 七十俵より	金 八兩
一 八十俵迄		一 五十俵迄	
一 四十俵より	金 七兩	一 二十俵より	金 六兩
一 三十俵迄		一 十五俵迄	
一 十四俵以下	金 五兩		

右之通可被相心得候



二月

右書付大目付御目付え渡之

文政元戊寅年

七月

御府内境定

東 砂戸村  
龜戸村  
木下川  
須田村

西 代々木  
角管村  
戸塚村  
上落合村

南 上大崎村より  
南品川宿迄

北 千尾久村住  
瀧野川村  
板橋

御曲輪内より四里之程を御府内と定、其御曲輪と申は、東之方は常盤橋御門より、西之方は半藏御門より、南之方ハ外櫻田御門より、北之方ハ神田橋御門より、右村々迄を御府内と唱候事

御三家方家來 御城内杖用候定

安永元壬辰年八月

御三家方家來 御城内杖用候儀是迄ハ不相見候、御家人は 御目見以下坊主等まで杖願相濟候間、御三家方家老初 御目見之節帶刀仕候分ハ、向後願有之候ハ、御免御座候旨被 仰出候事

諸大名御暇被下在所え出立日限等之定

享保二丁酉年

一 四月、六月、其外在所え御暇被下候面々御暇被下候、當日より三十日程滯府之分は斷ニ不及候、三十日を越候は、滯府之譯斷可被有之

一 半年代御暇之面々、秋參勤は八月三日、冬參勤は十二月三日相揃候様罷成候、向後は定日に無構、前月之中旬過より八月、十二月共ニ十日頃迄之内、勝手次第參府候様に可被致候

右之通寄々可被通達候

七月

右書付大目付え渡之

國持大名始門造方之儀定

文化六己巳七月

覺

國持大名并十萬石以上、十萬石以下にても侍從にも、可被任家柄之面々は兩潜、兩門、番所不苦、尤破風造之儀は前々有來之通相心得、改而唐破風造之儀は無用に候事

一 其外十萬石以下、五萬石以上之面々兩潜、兩門、番所、出格子、片庇にいたし、尤持出土臺にても不苦候、前々無之面々新規に取建、又は中絶候ハ、難成候事

一 五萬石以下にても古來より連綿致し候而有來候分ハ格別、其外屋敷替等ニて有來候分は、新規家作修復等致し候節ハ兩番所無用に可致筋に有之候事



右之通相心得、是迄定も無之事ニ付、向々より問合有之節ニ書面之趣を目當ニ致し、評議之上可及挨拶事  
右は御目付より申聞、右覺之通相心得候様達之

日光 御宮 御靈屋え諸大名參詣之節獻備物定

享保十三戌申年

日光參詣之節 御宮 御靈前え 大猷院殿 獻備之品、家々之先例は其節可被相同、例無之輩は左之通可有獻  
備候

御宮え獻備物

御靈前え

十萬石以上	太刀金馬代	十萬石以上	銀	五	枚
五萬石以上	太刀銀馬代銀五枚	五萬石以上	同	三	枚
一萬石以上	太刀銀馬代銀二枚	一萬石以上	同	一	枚

右之通獻備之事

右之通達之

寶曆六丙子年

萬石以上之面々家督之節、只今迄日光 御宮え獻備物無之面々も、向後は太刀馬代 御宮別當迄以使者獻  
備可仕候、東叡山 御宮え之獻備之儀は只今迄之通たるへく候  
右之趣萬石以上之面々え可達旨大目付え達之

寛政十戌午年

家督之當人奥御奉公 △御小納戸 吟味に加、又は吟味に加申聞敷差別之事

一寄合衆

一兩御番、新御番、大御番、御腰物方、御納戸 駿府勤番 甲府勤番 是又在府仕居候節、吟味相始り候は、加可申事

一小普請は大御番以上之御番相勤候儀有之家之者吟味ニ加可申事

右之外若年寄支配之分、又ハ他之支配中にて御役方勤之面々は吟味無之、并御兩卿附御附之面々、是又  
如前々吟味無之事

部屋住之面々

一寄合衆并兩御番、新御番、御腰物方、御納戸之嫡子吟味之事

但 駿府、甲府勤番之嫡子も、筋合は同様吟味に加可申品に候得共、親子同居難成、駿府、甲府勤番之

部屋住は、父之居住當地に無之故を以相除候事

一御役方相勤候面々之嫡子は、惣而大御番以上之御役之嫡子にて、部屋住御番入之節大御番え可被 仰付、  
役前之悴は吟味ニ可差出事

但 是は父之家筋素より 御目見以上之面々、并 御目見以下より御取立筋之者にて、祖父并當人三  
代も本席にて 御目見以上之者之悴之事に候

一父又は當人 御目見以下より御取立にて、當時大御番以上之御役筋勤罷在悴は、部屋住大御番え可罷出儀



と計申所を以ては奥吟味には加申間敷候、父祖其身三代も 御目見以上相續にて、當時右之御役場勤候悴に候は、吟味可有之事

一大御番以下之御役儀を勤候者之悴にても、一旦大御番以上之御番を勤候家筋之者之悴は、前々之通吟味に加可申事

一御兩卿方御附人之面々之悴も右同斷

一小普請組支配之面々之悴も前々之通、右同様之分は吟味に可相加事

但 家督之當人にても、父ハ布衣御役を勤候間、兩御番え可被 仰付事と申計之譯を以ては不容易候、父

祖當人三代も相續 御目見以上之家に候は、布衣以上之跡は吟味に出可申候、其餘 御目見以下より御

取立之者之跡は、當人并悴共に右之分えは差加申間敷事

右之通御目付え達之

一御小納戸吟味は頭支配之吟味より、若年寄、御側衆迄於宅吟味相濟候上、吹上にて吹上 上覽所内也 御側衆逢候

而四藝弓馬、學問、葉藝、鐵炮、算術、遊藝、茶道、活花、碁將、茶等 尋問有之

但 此節 將軍家にも同所え被爲 成候事

享保七壬寅年

被下獻上御禮物員數減少之覺大概

只今迄 一金百枚以上は

此度より 十枚

一同五十枚は

五枚

一同三十枚は 三枚

一同五十枚は

二枚

但 五枚以下は 一枚

一銀千枚以上は 百枚

一同五百枚は

五十枚

一同三百枚は 三十枚

一同百枚は

二十枚

一同五十枚は 十枚

一同三十枚は

五枚

一同十枚は 三枚

一同二十枚は

一枚

但 五枚以下は 一枚

一時服百以上は 縮緬之内三十卷

一同五十は

同 之内二十卷

一同二十は 同之内十卷

一同十より

同 之内五卷

一同四ツは 同之内三卷

一同三ツは

同 之内貳卷

一綿三百把以上は 五十把

一同二百把は

同 三十把

一同百把は 二十把

一同晒布百疋以上は

同 三十疋

一同五十疋は 二十疋

一同二十疋は

同 十疋

一同十疋は 五疋

一同二十疋は

同 十疋

一此外領内土産物獻上、是又減少之筈に候、并常式にても御樽肴之外、領分土産にあらざる物は獻上相止候事



一端午、重陽、歳暮時服數之儀、大身小身共ニ一重充可被差上事  
 一隱居并遺物、御道具類献上相止候事  
 一香奠被下候儀、右白銀減少之員數たるへき事  
 一御褒美又は公役に付臨時之被下物は、只今迄之通たるへき事  
 一惣而數種差上候類は、其品之内減申筈に候事  
 右之通に相極候間、私之禮物等も右に准し可申候、且又献上物之儀此度改り候事に候間、此砌は其時之月番之老中え可被相伺候事

以上

寅三月

是迄湯治願相濟候場所

相州	芦之湯	底倉	湯本	宮野下	塔之澤	堂ヶ嶋	金澤	豆州	熱海	吉奈	小奈
上州	伊香保	草津	澤渡	四方	湯村	湯之嶋	河内下部	野州	鹽原	中禪寺	
加州	攝州	信州						羽州			
山中	有馬	澁之湯	田中村					赤湯	湯澤	武州	平井

享保十七壬子年

七月

有馬え湯治には難成様に 御覺被遊候御沙汰ニ付、江戸近所之湯え入湯仕、其上にて願候得は有馬え入湯仕、候先例に御座候、何方えも不相越、初而有馬へ之湯治は難成趣前々より心得罷在候段、入 御身に置候事  
 淺草本所御藏等御門鬼板御紋附方之儀

寛政八丙辰年

一御門鬼板	淺草御藏	御紋附	一御役所同	同	斷
一御門鬼板	本所御藏	御紋附	一御役所同	同	斷
一御長屋鬼板	書替奉行御役宅	御紋附	一御役所同	御紋無之	
一御長屋鬼板	御作事方	御紋附	一御役所同	同	斷
一御長屋鬼板	小普請方	御紋附	一御役所同	同	斷
一御長屋鬼板	御紋附	御紋附	但 御役所は御長屋内		



御 疊 方

一 御長屋鬼板 御 紋 附

上 水 方

一 御長屋鬼板 御 紋 附

猿 江 御 材 木 藏

一 表門并御證文藏鬼板 御 紋 附

寛政七乙卯年

町人共年始其外 御目見之儀ニ付書付

町人諸職人 御目見之儀是迄迄と致し候定等も無之、年始などに差掛諸向より願も多く出、並方類例等之見合を以濟來候得共、月迫仕候事に候得は、深く評議之品も無之相濟候も有之候、全體御用達町人年始、八朔、五節句、月次之儀は一人立候而願之上相濟候儀ニ付、江戸町中等之年頭とも違候間、格別其人々之規模重き儀に仕置候方可然奉存候に付、御目付えも尤評議爲仕候上再應打合候處、以來左之趣に相極可然と評決仕候一御四代之内 御目見相濟候ものは代々如舊例 御目見被 仰付、早世等ニ而一代ぬけ候而も譯相立候分は願之上代々之通 御目見可被 仰付候

但 年始計出候家筋之者、追而八朔、五節句、歳暮等 御目見相願候共、一ト通りにては被 仰付間敷、

何ぞ格別勤功等有之候は、其節以別儀可被 仰付候

一 御四代之内より御用は勤候得共 御目見未仕もの相願候は、家筋并職分之儀等得と糺候上、年始計 御目見可被 仰付候、假令 御四代之内より御用勤候者にても、不證立賣職之者は難成、尤一旦中絶致し候ものも同前中絶は故障有之 御目見二代ぬけ候者又は不願してぬけ候もの

但 御咎等ニ而一旦休株に成候ても、年數立候は、評議之上如故 御目見可被 仰付候、尤一代ぬけ候ても同前

一 御四代之内 御目見仕候ものニ而、不證立賣職に而も代々連綿と 御目見仕來候ものは是迄之通たるべく候  
一 御四代以下 御目見相濟候分悴之代に成、廉立候御用勤候敷、又は家督後御用向無滯五ヶ年も勤候は、如父時 御目見可被 仰付候、尤代々右之振合を以可取調候、尤當時部屋住ニ而 御目見相濟候分も同前  
但 故障有之 御目見二代ぬけ候者、并不願して二代ぬけ候ものは 御目見不相成積、尤一旦休株に成候ものは前段但書之通たるべく候

一 御四代以下にても年始、五節句、歳暮等迄濟居候分、如父時被 仰付、代替之節之しらへは前條之通、廉立候御用勤候敷、又は五ヶ年も無滯勤候上にて可被 仰付候  
右之通定置候事

寛政八丙辰年

町人部屋住之者 御目見之儀に付書付



吳服師  
彦助 三輪 鴻三郎  
御晒布屋  
善四郎 清須 美源太郎

右之者共年始、五節旬、月次、歳暮 御目見之儀相願候處、部屋住之者 御目見ニ付而之御定は無之候に付、以來共部屋住に而 御目見相願候者は、左之通取調候方に極置候様可仕候

一御四代之内より御用相勤 御目見も仕候家筋之者ニ而、部屋住之内 御目見相濟候例有之候は、年始 御目見は願之通申渡、尤見習相勤候者に而五節旬、月次、歳暮等 御目見相願候者家に例有之候共、一通りニ而は被 仰付間敷、何ぞ格別勤功等有之敷、又は五ケ年も無滞相勤候は、其節以別儀可被 仰付候  
右之通相濟候は、鴻三郎、源太郎儀は 御四代之内より御用相勤 御目見も仕候家筋之者ニ付、年始 御目見は願之通申渡、其外は難成段可申渡候  
右之通定置候事

文化七庚午年

覺

別紙町人 御目見願之御定は、御細工所御用達町人、其外規模等ニ而相濟候者之儀にも可有之哉、御扶持人 諸職人、又は吳服師等御禮書等に書のせ候程之町人共之儀は、右同様之者には有之間敷哉之處、御定後都而 差別無之取しらへ候故、當時に而は其混雜仕、區々之しらへ方に相成候、以來は御納戸御腰物方、其外御扶持 人諸職人、吳服師など、申類、古來より御規式書等にも載せ來候町人等之類は御定に引當、取しらへ不及、

其家々出附候廉々之分は願次第相濟候方に可有御座哉、尤右類之内ニ而も近來加り候者等有之候は、其分は猶其度々相伺候事

別紙

後藤縫殿助 茶屋四郎次郎 茶屋宗里  
龜屋榮之進 三嶋吉兵衛 上柳彦兵衛  
茶屋長意

右之分御納戸構に而繼目御禮申上、并部屋住ニ而初而御目見月並え罷出候者

橋本甚三郎 榎田平之進 三輪彦助  
山田屋半三郎 大井一郎兵衛

右之分御納戸構にて繼目御禮申上、并部屋住ニ而初而 御目見年始より罷出候者

右之通定有之候事

忠孝寄特之もの賞譽定

寛政三辛亥年

在町忠孝寄特之もの御褒美被下候事、是は銀十枚、二十枚、三十枚、又は十兩、二十兩、其外養老御扶持等も被下置候儀に御座候、先達而初鹿野河内守取しらへ相伺候町方忠孝寄特之者は多人數之事故、褒置候驗迄に銀子少々被下候方可然旨河内守相伺候付、尤伺之上銀子七枚、五枚、三枚等其程にしたかひ被下候、依之



評議仕候處、忠孝はことに人々の常行に候處、格別に秀候分は御褒美被下候儀に候、然處下賤之もの貧窮に而忠孝をも盡し兼候程之もの多候故、御手當等銀子餘分にも被下候事に罷成候儀にも可有之候、以前は右申立も甚稀成儀候處、近來は御世話も有之故哉時々在町よりも申出候、尤格別之善行には候得共、一體銀二十枚、三十枚御褒美御手當と名目を分置、忠孝寄特之もの申出候は、先達而河内守相伺候趣に准し、銀子十枚、七枚、五枚、三枚之内其様子にしたかひ被下候様に仕、其身甚貧困ニ而飢渴にも可及程之者に候は、別に御手當として十枚、二十枚、三十枚、又は金子十兩、二十兩も被下候様仕、或者貧困之上老父母有之、七十以上にも候は、老養御扶持方にて被下候様仕候は、乍同様御褒美御手當之御趣意も相届可申哉に奉存候、彌書面伺之通被 仰出候は、何方え達し觸等にも不及、此趣を以御褒美相調伺候様可仕候

寛政八丙辰年四月

寄特もの御褒美之儀に付町奉行相伺

候趣

都而町方之者御役所え呼出候には、町人も夫々附添罷出候儀ニ而、辨當其外少々は入用も相懸り候儀ニ而、譽置候計ニ而は貧窮之身分ニ而却而難儀可仕候間、右體譽置候計之者は御役所え呼出不申、廻り方同心共遣し、其町之名主宅え當人呼出譽爲置候様可仕候

一 銀子爲取候程之ものは、御役所え呼出申渡候積、褒美は鳥目ニ而五貫文、七貫文、又は十貫文應行狀差遣、品宜分は是迄之通相伺候様可仕候

右伺之通達之

御目付より差出候

諸大名家來乗物御免人數之定

一萬石より一萬九千石迄	一人	二萬石より四萬九千石迄	二人
五萬石より九萬九千石迄	三人	十萬石より十五萬九千石迄	四人
十六萬石より十九萬九千石迄	五人	二十萬石より二十九萬九千石迄	六人
三十萬石より三十九萬九千石迄	七人	四十萬石より四十九萬九千石迄	八人
五十萬石より五十九萬九千石迄	九人	六十萬石以上	十人
五萬石以上ニ而も、城主ニ而無之面々之家老乗物御免不被成候、五萬石以下ニ而も城主之家老は乗物御免被成候、其身に爲致誓詞、主人より添狀請取申候			
一家中者一萬石以上は、五十歳以下に而も其身誓文狀、主人より添狀ニ而乗物御免被成候			
以上			

元祿六年酉六月

只今迄一萬石以上之陪臣乗物願之節は、主人より狀を取、且又其身より誓文狀を取被申候得共、向後左之通主人より狀計取之可被申候、其身より之誓文狀取に不及候

案文

私家來何と申者知行何萬石爲取置候、依之乗物御赦免可被下候、爲其如斯御座候



以上

年號

月 日

誰 書判

御目付 中

一諸家中乗物願申上候節、判元見申候御目付之方ニ而、右之家來共只今迄乗物に乗來候人數承之、御定より人數多く御座候得は其段申上候而判元見不申候

一松平加賀守家來萬石以上之者乗物願候節、御老中方御聞置被成候迄ニ而、誓詞も誓文狀も斷狀も入不申候

一同人家來萬石以下之者候得は誓詞爲仕候付、並之通御目付之方ニ而留守居呼寄、人數吟味を仕事に御座候

一同人家來萬石以上之者は、前條之通御老中方ニ而御聞置被成候迄ニ而相濟候付、御目付方ニ而人數吟味不仕候以上

六月 九日

一御三家之家老乗物斷狀、一萬石以下ニ而五十歳以下は月切誓詞、一萬石以上は其身誓文狀に不及、家老中より斷狀ニ而相濟候事

り斷狀ニ而相濟候事

一御三家之家中乗物、御免人數之定は無之候事

一家中者駕籠願人數定無之候、何人ニ而も相濟候事

右之通定等有之候事

天明五乙巳年五月

一陪臣は五十歳以上ニ而乗物相濟候而も、下乗迄致乗輿候儀難相成事候處、近來下乗迄致乗輿候類も有之趣相聞候、御三家家老之外は、御三家庶流たりとも大手下馬所より内は不相成候間、向後心得違無之様主人より可被申付候

右之通大目付え達之

將軍徳川家禮典附録 卷之二十三 終



將軍徳川家禮典附録 卷之二十四

將軍紅葉山東叡山増上寺 御參詣并遠 御成之節行列

紅葉山え御轅ニ而 御參詣御行列 (註 以下行列原本横書)

御小人 裝束 大紋太刀 同 同 大目付 大目付 御長刀  
 白張 拾五人 御同朋頭 諸大夫 同 同 同 同  
 左右三拾人立 裝束 大紋太刀 諸大夫 同 同 同 同  
 白張 拾五人 御同朋頭 諸大夫 同 同 同 同  
 御中間七人 御中間七人 御同朋頭 諸大夫 同 同 同 同  
 諏訪部文右衛門支配 御口之者八人

直垂 高家 御側衆 御小納戸 御小納戸 御金剛 退紅着御小人 御草履取  
 素袍着 龜井坊 御駕籠之者頭 御參内傘 同 奥坊主壹人 口奥坊主壹人  
 △龜井坊ハ御小人之内より被申付剃髮ス △御規式御成之節御長刀役相勤 御小納戸 御小納戸 御金剛 御草履取  
 直垂 高家 若年寄

布衣 御目付 御徒目付 御小人目付 御書院番組頭 布衣 御小性組與頭 同 同 同  
 御數寄屋坊主 △御數寄屋 御露地之者 御徒頭 御小性組 同 同 同  
 御茶辨當 御數寄屋坊主 御徒頭 御小性組 同 同 同  
 布衣 御目付 御徒目付 御小人目付 御書院番組頭 布衣 御小性組 同 同 同  
 御徒目付組頭 御徒目付 御小人目付 御書院番組頭 布衣 御小性組 同 同 同

素袍烏帽子着 大御番 同 同 同 御中間頭 同組頭 御臺傘 御小人 御挾箱 同 御鐵炮 同  
 御直鑓 御十文字 御直鑓 御小人 御中間頭 同組頭 御臺傘 御小人 御挾箱 同 御鐵炮 同  
 御長刀 御小人 御中間頭 同組頭 御臺傘 御小人 御挾箱 同 御鐵炮 同

御簞箱 同 △御小性組 △御書院番 兩番御供押 御徒押 御小人押 兩御番 同勢押 御小人押  
 御手傘 同 △同 兩番御供押 御徒押 御小人押 兩御番 同勢押 御小人押  
 徳川禮典附録 卷二十四 六三七











御馬乘  
三人

御馬飼

杏箱

御召替

御駕籠

口附御中間

杏箱

御馬飼

兩御番御供押

御小人押

御徒押

御徒目付

兩御番御供押

御小人押

御使之者

御徒目付

御使者之者

兩御番御供押

御徒押

御小人押

侍

草履取

鑓持

御徒押

此間壹丁程置

御小人押

侍

草履取

鑓持

此間三十間程置

御小人目付

兩御番御供押

御徒押

御小人押

侍

草履取

鑓持

御徒押

御小人押

侍

草履取

鑓持

馬

合羽籠

御小人押

御小人押

侍

草履取

鑓持

馬

合羽籠

御小人押

御小人押

侍

草履取

鑓持

馬

合羽籠

御小人押

東叡山増上寺御裝束所より 御轎ニ而御靈屋え 御參詣御行列

白張十五人

御小人

裝束

御同朋頭

大紋太刀

諸大夫

同同同

直垂

高家

御側衆

左右三拾人立

大目付

大目付

御長刀

素袍着  
龜井坊

御轎

白張十五人

御小人

裝束

御同朋頭

大紋太刀

諸大夫

同同同

直垂

高家

御小性

御中間七人

御小人

裝束

御同朋頭

大紋太刀

諸大夫

同同同

直垂

高家

御小性

御小納戸

退紅着

御草履取

御使之者

素袍烏帽子着

御金剛

御小人

御草履取

御徒目付

大御番組頭

御駕籠之者頭

御參内傘

御草履取

御茶辨當

御露地之者

布衣

御目付

大御番組頭

御咨

同

御草履取

御小人目付

大御番組頭

御小納戸

御草履取

御小人目付

大御番組頭



素袍烏帽子着  
大御番 同 同 同

東叡山増上寺 御靈屋之 御長袴ニ而 御參詣之節二天門内御供立

小十人頭 御同朋 御側衆 御小納戸 中奥御番 御草履取 御目付 御徒目付  
 御長刀 御小人 御駕籠 御小性 御駕籠者頭 御茶辨當 御露地之者  
 御小性 御駕籠者頭 御草履取 御數寄屋坊主  
 加御供番 小十人頭 御同朋 若年寄 御小納戸 中奥御番 御草履取 御目付 御徒目付

御小人目付 御小性組與頭 同御番衆

御小人目付 御書院番組頭 同御番衆

遠 御成御行列

● 此印御挑灯持人御小人 御之四張は無刀ニ而持之

御先拂 御徒一組 御徒頭 御先拂 御徒一人 御先番 御徒組 御先番 御徒組  
 還御之節此所 御鳥 口附御口之者 口附御口之者 杏箱 御馬飼 口附組頭 御先番 御徒組 御先番 御徒組  
 御先拂 御徒一組 御徒頭 御先拂 御徒一人 御先番 御徒組 御先番 御徒組

● 御挾箱 御小人 同 同 同 ● 御臺傘 御小人 御日傘 御雨傘 御床机 御使之者組頭 ● 御徒目付

御小人目付 ● 小十人 同組頭 小十人頭 御側衆 御小納戸 中奥御番  
 小十人一組 ● 御供番 小十人頭 ● 御長刀 御駕籠 御小性 御小納戸 御駕之者頭  
 御小人目付 ● 小十人 同組頭 小十人頭 若年寄 御小納戸 中奥御番



御草履取

御腰物筒

御用部屋坊主

奥坊主

口奥坊主

奥六尺

御日傘持

御徒

御茶辨當 御露地之者

御數寄屋坊主

御徒目付 御小人目付

田付四郎兵衛

御水箆筒

御水箆筒

御丸辨當

御腰物筒

御徒目付 御小人目付

御直鍵

御小人頭

同組頭

御鐵炮

田付四郎兵衛組同心

御貝挾箱

御貝太鼓役

御鏝鍵

御鐵炮

御手傘

御十文字

御鐵炮

御簀箱

御拋鞘

御鐵炮

御雨覆

御直鍵

御中間頭

同組頭

御鐵炮

田付四郎兵衛組同心

御雨覆

御中間

御小人

五人

御小人

御玉簞筒

御簀箱

御尿箱

御雨覆

●御小性組與頭

同御番衆一組

御馬預

御馬方之内

御馬乘三人

口附御中間

御馬飼

口附御中間

御馬飼

口附御中間

御馬飼

御召

御馬

御召

御馬

御召

御馬

口附御中間

口附御中間

口附御中間

●御書院番組頭

同御番衆一組

諏訪部文右衛門

御鳥掛之者

兩御番御供押

御小人押

兩御番御供押

口附御中間

御馬飼

御使之者

御召替

御駕籠

御貸馬

御徒押

御徒目付

此間壹町程置

口附御中間

御馬飼

御小人目付

御鳥持人

兩御番御供押

御小人押

兩御番御供押



御徒目付 御使之者  
御小人目付

侍 草履取 鑓持

御徒押 侍 草履取 鑓持 馬 合羽籠 御小人押

御小人押 侍 草履取 鑓持

此間三拾間程置

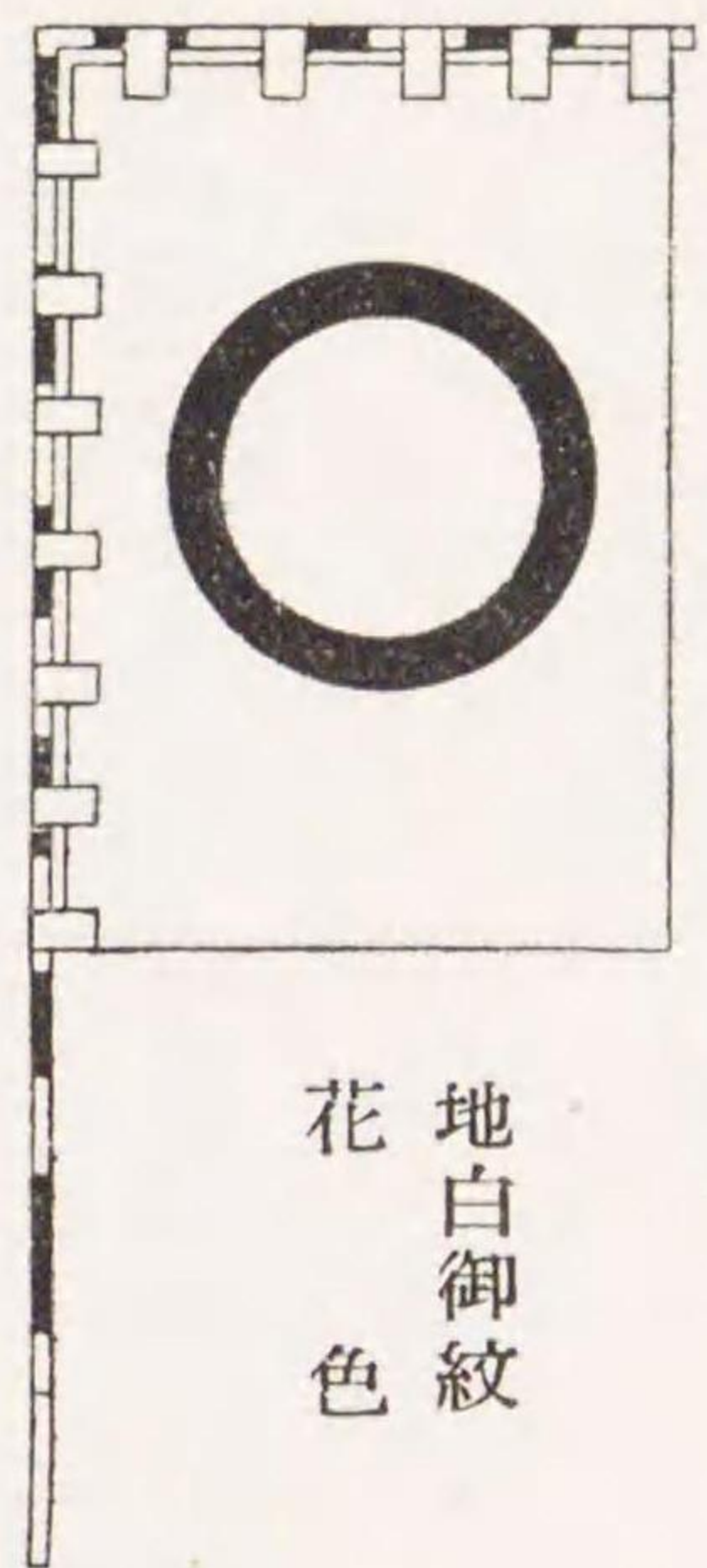
侍 草履取 鑓持

惣供

御徒押 御小人押 侍 草履取 鑓持

御徒押 侍 草履取 鑓持 馬 羽籠合 御小人押

御船行列



地白御紋  
花色

御先 武内丸 御預り 三拾挺立 棍助右衛門

中奥御持小性 二人  
御徒頭 二人  
御頭 二人  
小十人 十三人

御成御場所ニ寄

御馬組頭方 二人  
御鷹附御徒 六人  
御附御徒 四人



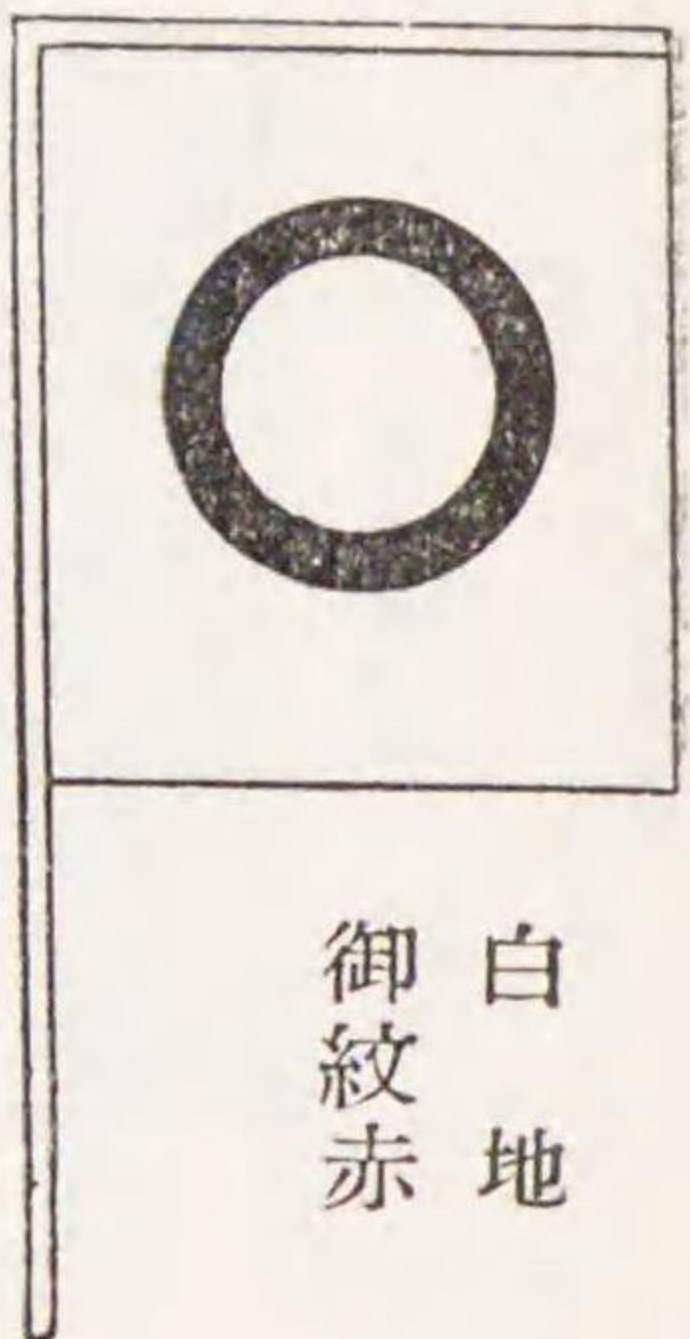
淺黄地  
御紋赤

住吉丸 御預り 三拾挺立 平岡與次右衛門

御貝挾箱 御床三挺机 御鐵三筋 御日臺三傘

御手傘 御玉箆筒 御目付二人 御小人目付二人 田付四郎兵衛

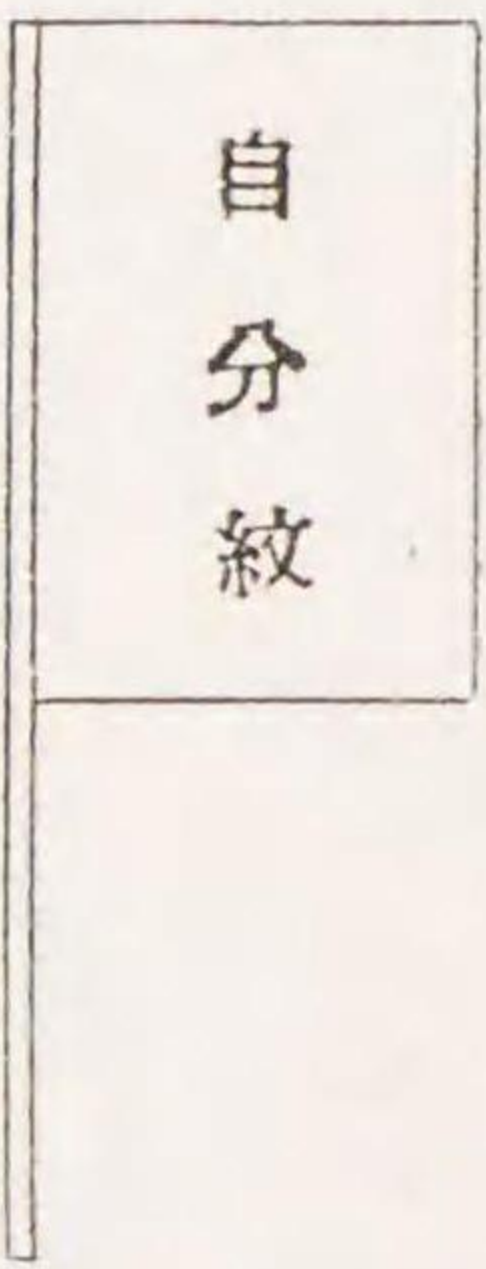
御鳥見組頭二人 御徒目付二人 田付四郎兵衛組 御鐵炮持三人 松平伊織組 陸廻り二人 御鳥持人



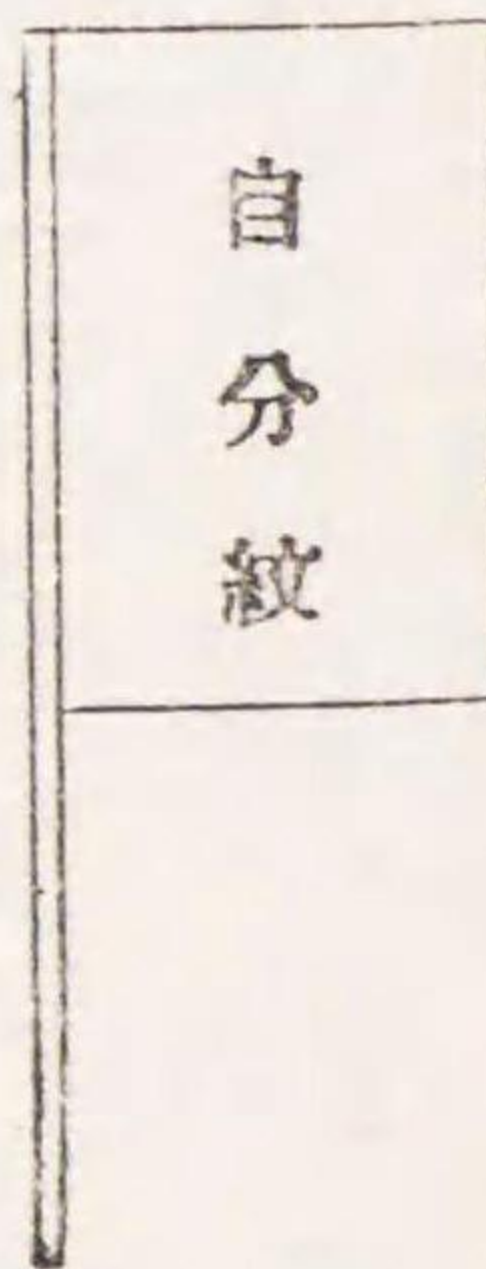
白地  
御紋赤

御召替小川御座 御預り 拾貳挺立 向井將監

御引船 白木鯨御船 御預り 八挺立 棍助右衛門



自分紋



自分紋

御引船 白木鯨御船 御預り 八挺立 古屋平右衛門



白地  
御紋赤

御召大川御座 御預り 拾貳挺立 向井將監

御召 塗木小鷹丸 二挺立 白木小鷹丸 二挺立

御年寄 御側性 御小納戸 御醫刀師 御長刀

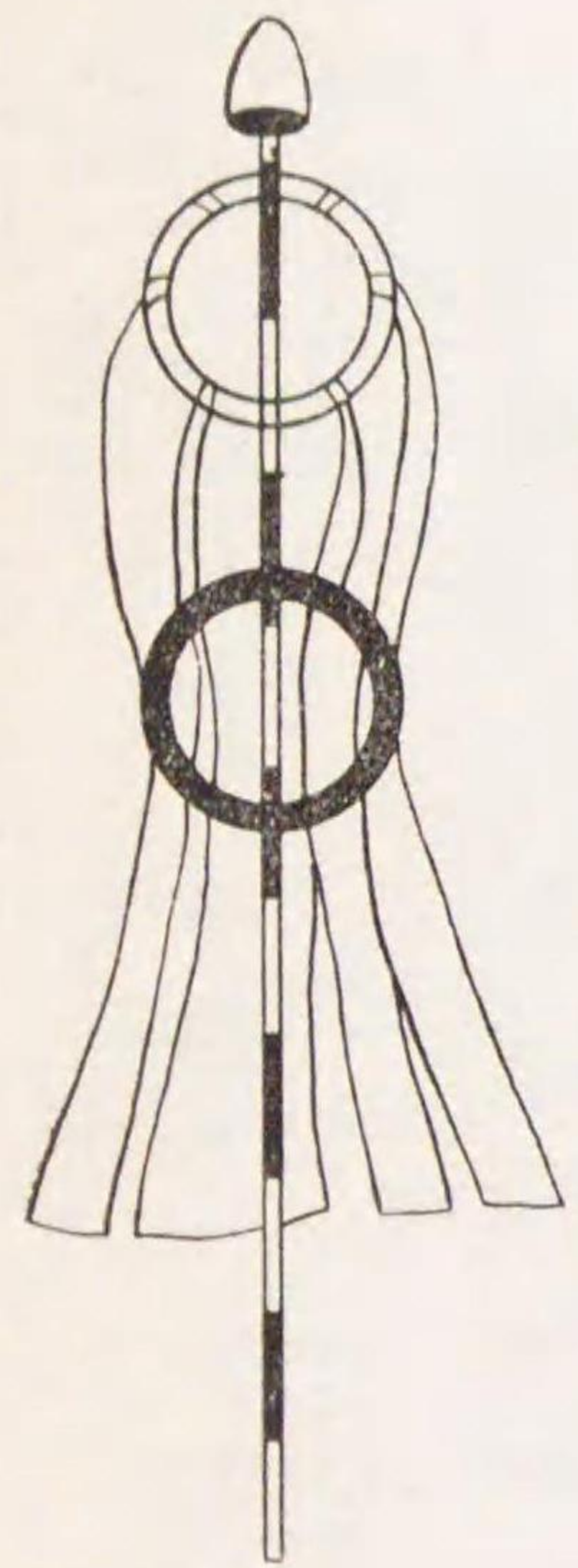
御文字 御鑓 御鐵炮一挺 御茶箱一挺 御丸辨當

ちよろ船 數多

御跡御菓子船 御預り 八挺立 向井將監

御膳具 御膳奉行 御臺所役人

ちよろ船 數多









二丸 御成御行列  
三丸

御先拂  
御小人目付  
御徒目付  
御長刀  
新御番  
同  
同組頭  
御  
御側衆  
御小性

御小納戸

御草履取

御直鑓  
御中間

御駕籠頭

御數寄屋坊主

御露地之者

御十文字  
同

墨塗  
御挾箱  
御小人

御簀箱  
同

御小納戸

御草履取

御目付

御徒目付

御小人目付

御直鑓  
同

御中間頭之内 一人  
御小人頭

西桔橋より矢來御門通遠 御成之節矢來御門

小十人

小十人頭

御側衆  
御小性

御小納戸

御小人目付

御小人目付

御徒目付

小十人

同  
同組頭

御長刀  
御小人

御駕籠

若年寄  
御小性

御小納戸

小十人

小十人頭

御小人目付

御直鑓  
御中間

御手傘  
御小人

御日傘  
御小人

御駕籠頭

御茶辨當

御目付

御十文字  
同

御草履取  
同

御徒目付

御直鑓  
同

一之御挾箱  
同

御雨傘  
同



吹上 御成御行列

小十人 新御番

御先拂 御小人目付 御先立 御小人目付 御徒目付 御長刀御小人 小十人 同組頭 新御番 同組頭

小十人 新御番 御側衆

御直籠御中間 御日傘御小人

奥向之衆

御駕籠頭

御草履取

御茶辨當 御露地之地

御十文字同 御手傘同

奥向之衆

御目付 御徒目付 御小人目付

御直籠同 御雨傘同 御中間頭之内 壹人

墨塗 御挟箱 御小人 御簀箱 御小人

御馬乘

口附之者

御馬 沓箱御馬飼

口附之者

墨塗 御挟箱 同 御雨覆同

一橋外明地 御成并田安一橋屋形清水御用屋敷 御立寄御行列

● 此印御挑灯持御小人 御之四張ハ無刀ニ而持之

御先拂 御徒壹人 御供番 御徒組

口附御口之者

御馬 沓箱御馬飼

口附組頭 ● ● 御徒頭 御挟箱御小人 同 同

口附御口之者

御先拂 御徒壹人 御供番 御徒組

● 還御之節 御鳥此所



御徒目付 御小人目付 ● 小十人 同組頭

同 ● 御臺傘 同 御日傘 同 御雨傘 同 御床机 同 御使之者組頭 ● 小十人組一組

御徒目付 御小人目付 ● 小十人 同組頭

● 小十人頭 御側衆 御小性 御小納戸 御草履取 御腰物筒 御徒 ● 御目付

● 御長刀 御駕籠 御小性 御駕籠頭 御茶辨當 御露地之者 御數寄屋坊主

● 小十人頭 若年寄 御小性 御小納戸 御日傘 御腰物筒 御徒 ● 御目付

御徒目付 御小人目付 御直鑓 御小人頭 同組頭 御鐵炮 御小人

田付四郎兵衛 御水箆筒 御丸辨當 御拋鞆 御鐵炮 御鐵炮 御鐵炮 御鐵炮 御鐵炮

御徒目付 御小人目付 御直鑓 御中間頭 同組頭 御鐵炮

田付四郎兵衛組同心 御貝挾箱 御貝太鼓役三人 御小性組與頭 同御番衆半組 御馬預 御馬方之内 貳人 同見習

御手傘 同 御簀箱 同 御召 御馬 杏箱 御馬飼 口附御中間

田付四郎兵衛組與力 一人 御雨覆 同 ● 御書院番組頭 同御番衆半組 諏訪部文右衛門



御馬乘 二人 御鳥掛之者 兩御番御供押

口附御中間

御馬飼

御使之者

兩御番御供押

御召

杵箱

御徒押 ● 御徒目付

此間壹町程置

口附御中間

御鳥掛之者 兩御番御供押

御小人目付

兩御番御供押

御徒目付 御使之者

御徒押

侍 草履取 鏈持

御徒押

御小人押 侍

草履取 鏈持

馬 合羽籠

侍 草履取

鏈持

此間三拾間程置 ●

御小人押 侍

草履取 鏈持

馬

御徒押 侍

草履取

持

御徒押

御小人押 侍

草履取

持 馬 合羽籠

御小人押

惣供

御小人押

西丸 御成御行列

● 此印御挑灯持人御小人 御之四張ハ無刀ニ而持之

小十人 新御番 同

御先拂 御小人目付

御先拂

御小人目付 ● 御徒目付 ● 御長刀

御小人

小十人 ● 新御番 同

同組頭

御駕籠 ● ●

小十人 新御番 同

御側衆 ● ●

御小納戸

御草履取

御直鏈 御中間

御小性

御駕籠之者頭

御茶辨當

御數寄屋坊主

御露地之者

● 御十文字 同

御小性

御小納戸

御草履取

御目付 御徒目付

御小人目付

御直鏈 同



網代 御小人 御雨覆 御小人

同 御挾箱 口附御口之者 御馬飼

同 御挾箱 御馬 御馬乘 沓箱

同 御挾箱 御簀箱

御中間頭之内 壹人

火之番

二丸火之番 一人 五万石以上

紅葉山 御宮 御靈屋火之番 一人 五万石以上 十万石ニ而も相勤

一御人少之節は御奏者番ニ而も相勤

一幼少ニ而は不被 仰付

一服有之候ニ而は不被 仰付

一重き忌服に相成候得は代り被 仰付 日數十日以上之忌に相成候得は代り被 仰付

一長病ニ而も相勤

吹上 上覽所前火之番 御譜代之内 一人 五万石以上 十万石ニ而も相勤

一御人少之節は三萬石より相勤

一幼少ニ而は不被 仰付

一長病ニ而も相勤

東叡山 火之番 一人 二拾万石以上より 十五万石位ニ而も相勤

一幼少ニ而は不被 仰付

浅草御藏火之番 一人 十五万石位より 十万石ニ而も相勤

一幼少ニ而は不被 仰付

△學問所 聖像 御譜代之内 一人 二万石位より 一万石位迄

一幼少長病ニ而も相勤

本所御藏火之番 二人 外様 二万石位より 三万石位迄

一幼少ニ而も相勤

猿江御材木藏火之番 御譜代之内 一人 三万石位より 四万石迄

一幼少長病ニ而も相勤



出火之節防 △俗ニ方角火消ト云

大手組  
櫻田組

御譜代  
外様之内 四人 三万石以上  
詰衆 四人  
嘉永度御人少ニ付當分之内  
二人充ニ而都合四人被仰付

一幼少長病ニ而も相勤家來計

一四品ニ而も相勤、侍従は先不被 仰付

御門番

大手御門

御譜代之内 二人 十萬石以上  
詰衆 御人少之節ハ拾万石以下ニ而も被 仰付

一幼少長病ニ而は不相勤

一前髪有之候而も袖留め、五節句月次に罷出候得は相勤

一父母之忌に成候得は御免、其外忌服は御免無之

鐵炮二十挺 弓十張 長柄二十筋 持筒二挺 持弓二張 挑灯三十

萬治三庚子年十二月

御城近邊御門番人數之定之内

大手御門

一馬上九人 内番頭一人 △俗ニ番トウト云

一徒侍三人

一弓十張 足輕十人

一鐵炮二十挺 足輕二十人

一鑓二十本 中間二十人

一挑灯三十

節句御禮日には常之人數一倍可出之、中間は可爲常之通候

内櫻田御門

譜代之内 二人 五万石以上  
詰衆 十万石ニ而ハ不勤  
御人少之節ハ五万石以下ニ而も被仰付

一幼少長病之者不相勤

一前髪之者大手と同斷

一忌に成候者同斷

右節句御禮日大手と同斷

鐵炮十五挺 弓十挺 長柄十五筋 持筒二挺 持弓二張 挑灯二十五

前同斷人數定之内

内櫻田御門

一馬上七人 内番頭一人

一徒侍二人

一弓十張 足 十人

一鐵炮十五挺 足輕十五人



一 鍵十本 中間十人

一 挑灯二十五

節句御禮日大手と同斷

西丸大手御門

御譜代之内 二人 五万石以上  
詰衆之内 二人 十万石ニ而も勤

一 前書内櫻田と取扱同斷

鐵炮二十挺 弓十張 長柄二十筋 持筒二挺 持弓一張

外櫻田御門

御譜代 二人 六万石より  
四万石迄

御門番人數等定之内

一 馬上三人

一 徒侍二人

一 弓 五張

一 鐵炮十挺

一 長柄十本

一 突棒一本

一 さすまた一本

一 もちり一本

一 挑灯八

一 持弓二張  
一 持筒一挺

和田倉御門

御譜代 二人 三万石より  
二万石迄

御人少之節ハ二万石ニ而も勤

武器并番士等之定外櫻田と同斷

持弓二張 持筒一挺

馬場先 一橋

竹橋 御門

御譜代之内 二人 充 二万石より一  
万石迄 三万石ニ而も勤

田安 半藏口

神田橋御門

外様 二人 五万石以上  
六万石より四万石迄

常盤橋御門

外様 二人 三万石より  
二万石迄

御人少之節ハ二万石以下ニ而も勤

吳服橋御門

外様 二人 二万石より  
一万石迄

三万石ニ而も相勤

鍛冶橋 日比谷口 幸橋 御門

外様 二人 充 二万石より  
一万石迄

御門番人數等定之内

鍛冶橋 御門

吳服橋 御門

一 侍二人

一 徒侍二人

一 弓五張

一 鐵炮五挺

一 長柄十本

一 つく棒一本

一 さすまた一本

一 もちり一本

一 挑灯六

一 御門番之面々大手、内櫻田、西丸大手之外は長病ニ而も無構、幼少ニ而も五節句月次に罷出候得は無構  
一 火之番御門番之面々、定府之人は四年相勤候得は御免、尤四年目之四月、六月一同代り合之節御免  
但 正月より四月迄之内に被 仰付候人は四月、五月より十二月之内に被 仰付候人は六月御免

萬石以下三千石以上 寄合ニ而相勤候



御門番

西番所 半藏御門内

二人 四五千石

番士三人

鐵炮五挺 弓三張 長柄五本 持弓一張 持筒二挺 但 此末同斷

清水御門

二人 三千石

數寄屋橋御門

二人 五千石

山下御門

二人 三千石

虎之御門

二人 五千石以上

赤坂御門

二人 三千石

四谷御門

二人 三千石

市谷御門

二人 三千石

牛込御門

二人 三千石

小石川御門

二人 三千石

筋違橋御門

二人 五千石以上

淺草御門

二人 五千石以上

雉子橋御門

二人 五千石

濱大手御門

二人 五千石

御城内御門之勤番

御玄關前御門

御書院番頭  
與力同心勤仕

中之御門

御持弓御持筒頭  
與力同心勤仕

大手三之御門

百人組之頭  
與力同心勤仕

二丸銅御門

大御番頭  
與力同心勤仕

上梅林

御留守居  
與力同心勤仕

鹽見坂

御留守居  
與力同心勤仕

平川口御門

御先手  
與力同心勤仕

下梅林

御先手  
與力同心勤仕

坂下御門

御先手  
與力同心勤仕

紅葉山下御門

御先手  
與力同心勤仕

蓮池御門

御先手  
與力同心勤仕

西丸御玄關前御門

西丸御書院番頭  
與力同心勤仕

西丸中仕切御門

西丸御持弓御持筒頭  
與力同心勤仕

西丸山里御門

山里伊賀者勤仕

西丸吹上御門

西丸御先手  
與力同心勤仕

西丸御裏御門

西丸裏門番之頭  
與力同心勤仕

西丸切手御門

西丸切手御門番之頭  
同心勤仕

享保十二丁未年

御鷹野 御成之節、御道筋之御門番夜中より御番所え罷出候様相聞候、自今は朝六時迄之御供揃に候は、  
六時過之 御成に候共御番所え相詰 御目見仕候に不及候、尤六時以後之御供觸に候は、御番所え相詰、可



被致 御目見候

但 還御之節は只今迄之通可被心得候、尤大手、内櫻田御門番勤方は只今迄之通候事  
右之通大目付御目付え達之

文政四辛巳年

一遠 御成等之節俄に御道替有之、御道筋御門番 御目見之儀、并右名前御目付より口上を以申上候様御目付  
え達之

一遠 御成之節 御成かけ俄に御道替之節、通御御門番所え相詰 御目見之儀御目付より相伺候處 御成かけ  
俄に御道替被 仰出候節は勿論 還御 御成道之通、右御門 通御に候共相詰に不及段達之

御船手御預御船

向井將監御預 水主八十四人

一天地丸 一大川御座 一小川御座 一御召塗小鷹丸 一永壽丸

一麒麟丸 一一葉丸 一鶉羽丸 一御駕籠船 一安宅丸

一小麒麟丸 三十二挺立

丸毛甚三郎御預 是より水主人數不同

一天神丸 五十二挺立

一川口丸

二十四挺立

金田傳左衛門御預

一武内丸 一難波丸 一三浦丸

村上三郎右衛門御預

一稻荷丸 一犀鷄丸 三十二挺立

杉山藤之助御預

一御供 小早住吉丸 三十二挺立 一御關船國市丸

立花大吉御預

一淺草丸 一橘丸 一鳳凰丸 五拾三挺立

一孔雀丸 三十六挺立

一永代丸

二十二挺立

花村忠兵衛御預

一波割丸 二十挺立

一犀丸

八挺立

一龍王丸 五十二挺立

一八幡丸

五十挺立

駒井半藏御預

一御關船光陰丸 六十二挺立

一同上總丸

三十二挺立

一同小早住吉丸 三十二挺立

一同蒼隼丸

二十挺立

一御召御關船 天地丸

右者寛永七年六月廿五日 大猷院殿御乘船被遊



一 御召御關船 安宅丸

右者寛永十二年六月二日 大猷院殿御乘船被遊

一 御召 麒麟丸 一同 三浦丸 一 御召替 永壽丸

右御船年久敷儀ニ而 御造立年號不相知 御召船之旨申傳候

一 御關船 難波丸

右は慶長年中秀吉公手船之由 家康公御所望に付被進、大坂難波津に被差置、御修復被 仰付、右同所ニ而 爲 召、其後寛永年中大坂表より御廻しに相成候段申傳候

一 御關船 國市丸

天正十八寅年小田原御陣之節、家康公清水より被爲 召、蒲原より被爲 上候、高麗御陣之節朝鮮え御渡海 可被 遊處、御様子有之御渡海相止、肥前名護屋より被爲 召、大坂より被爲 上、慶長五子年關ヶ原御陣 之節神奈川より被爲 召、金澤より被爲 上、右御召之儀は、其頃將監先祖向井兵庫助御船御預ニ而供奉仕候 右之通文化度向井將監書上候事

御船印

御座船

一 白地吹貫、御紋赤、上に金之採有之、御紋二ツ一流

一 白地四半、御紋赤

並之御船

一 白地、紺地、間交吹貫、御紋赤一流 一 白紺半交四半、御紋赤

同 斷

一 淺黃吹貫、御紋赤 一 淺黃四半、御紋赤一流

同 斷

一 白地吹貫、御紋黒 一 白地四半、御紋黒

享保六年辛丑年閏七月

内曲輪御門御定書

定

一 御門立明之儀卯之刻に開之、酉之刻可閉之、不審成もの有之は可相改事

一番代之節、御門々扉不殘致明立、改候而請取致し仕候様に可被申付候、若明立不自由に候は、其段御留守

居中え可被申達事

一 奥向之面々帳面之通、夜中ニ而も斷次第無滯可被相通事

一 御成御道筋之節、當番煩差合之時、家來計其儘相勤させ不及差替候

但 火事急事之節は、差合ニ而も無構御番所え可被相詰事

一 不時に御番所邊 御成之御沙汰有之候とも、人留申付候儀堅無用に候 御先拂之御歩行とくと承届、其上



而人留可申付事

附 火事之節は猶以前廉に人留申間敷候、御道筋之外、御道筋え掛り之分は人留申間敷事

一 在宿之節不時に御番所邊 御成之御沙汰有之候とも、御番所え罷出候に不及事

一 御城近所之火事、且亦風烈敷大火に候は、御番所え罷出候に不及候事

一 可被相詰候、其外向寄違候出火之節は被詰候に不及候事

一 下馬より下乗橋迄召連候人數之儀、別紙書付之通可被相心得事

一 下馬并御番所近所ニ而喧嘩口論有之候は、番之輩早速罷出取計、双方留置、御目付中え申達可受差圖候、病人怪我人有之時、養生爲致候様に可被申付事

一 御堀え人落候時は早々引揚候様に可被申付事

一 假御役人たりといふ共、故なくして御番所え立寄すへからず、藥湯水之外は一切出すへからざる事

一 火之元大切之事候間、番人食物之外拵置へからざる事

一 於御番所假御用といふとも、何様之物ニ而も一切借渡す間敷事

一 御門并御番所、其外破損無之様に心を附可申候、尤破損有之は其趣御留守居中え早速可被申達事

一 御門、御番所等之屋根草を取、土居之草折々刈候様に可被申付候

但 渡り矢倉屋根、塀屋根に草有之は、御目付中え可被達候、且又水やり惡敷所は、水不溜様に可被申付事

一 御門并御番所柱根、土臺え土不掛様に仕、御門廻り請取之場所は不及申、勝手廻り迄常々無油斷掃除可被申

付事

付事

附 水打候節、柱根并土臺え水掛さる様に可被申付事

一 御留守居中、御目付中申渡候儀、違背無之様に可被申付事

右條々堅可相守者也

天保年間

諸御役人御料理被下候席々

時計之間御料理

△老中若年寄 平日御料理 老 中 若 年 寄

△平汁 赤塗平膳

△香の物 御 側 衆

△猪口食

△燒肴之内

獻之間

△諸席 平日御料理 御 小 性 御 小 納 戸

△赤塗平膳

△御料理品數如前ニ而

△甲乙アリ

御臺所一之間 奥御右筆組頭 但奥御右筆えも右御料理被下之

御 奏 者 番

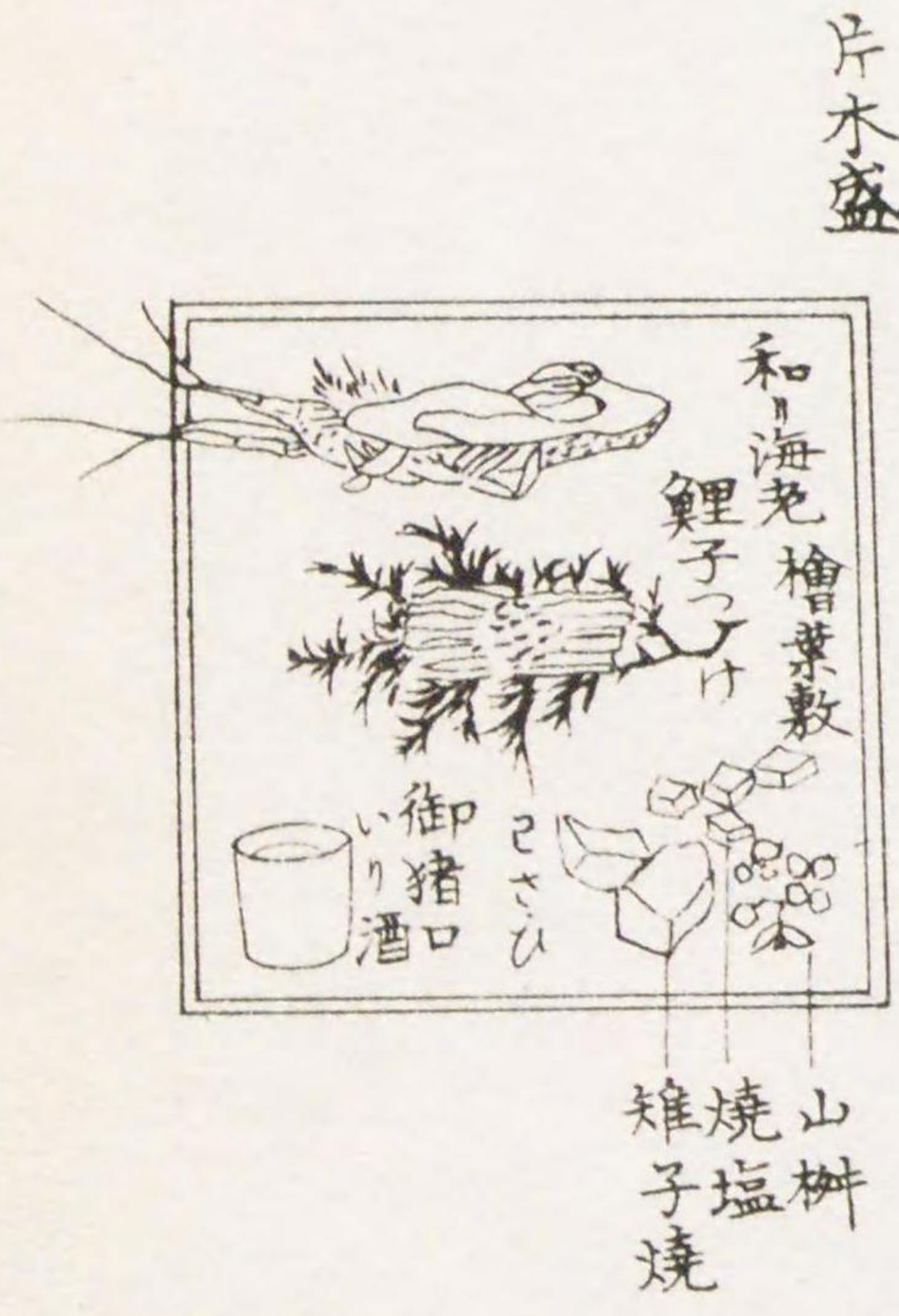
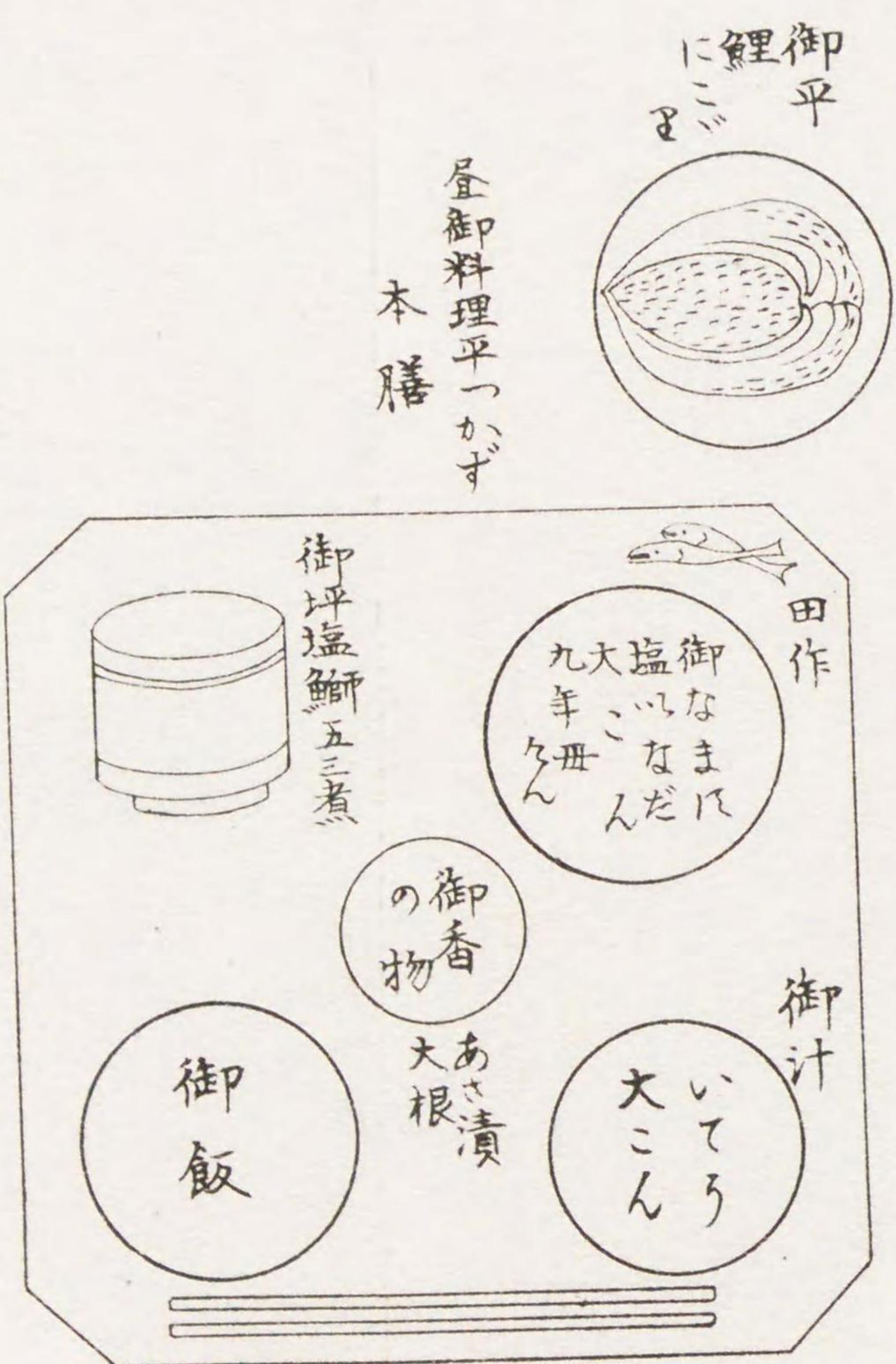
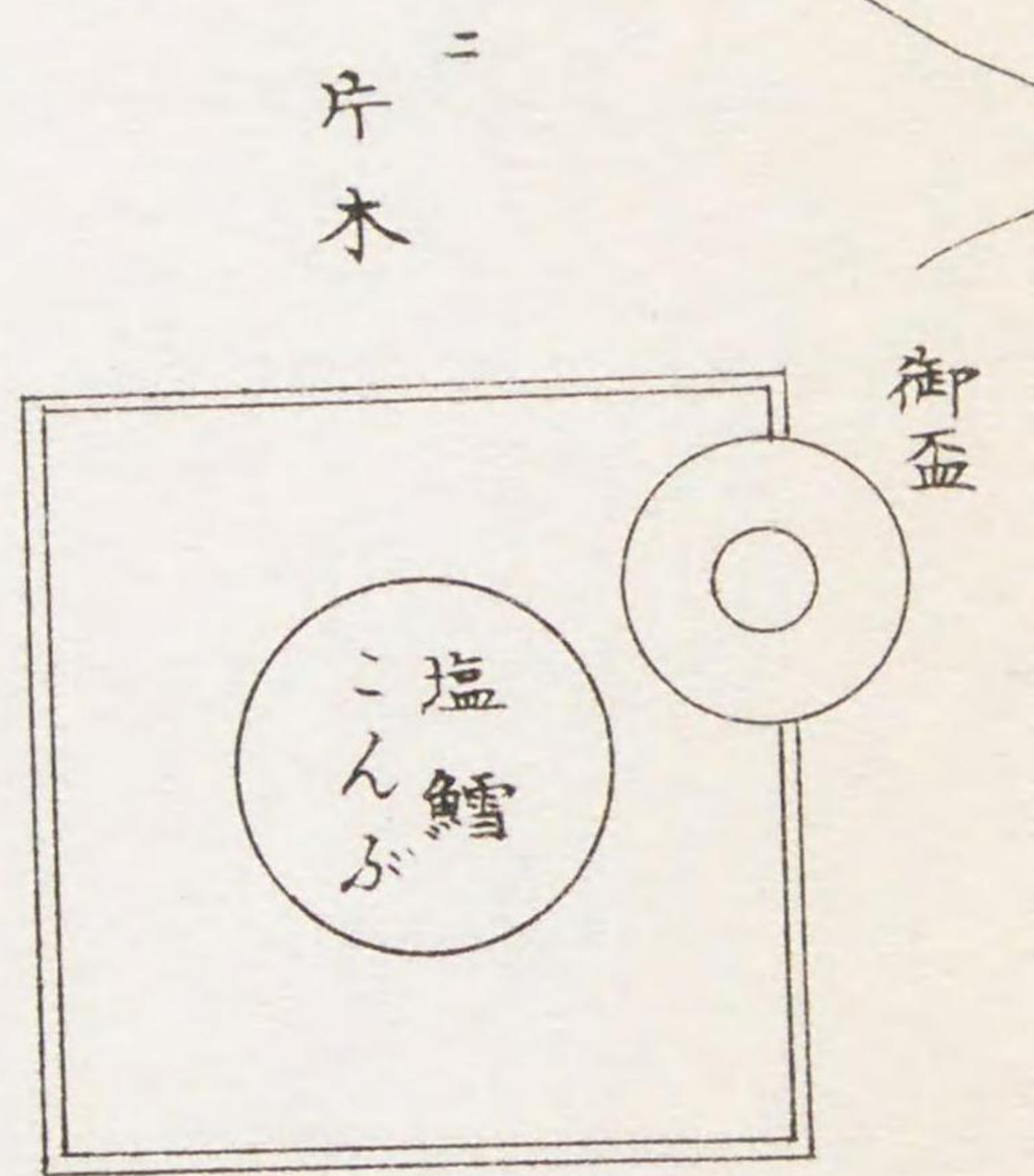
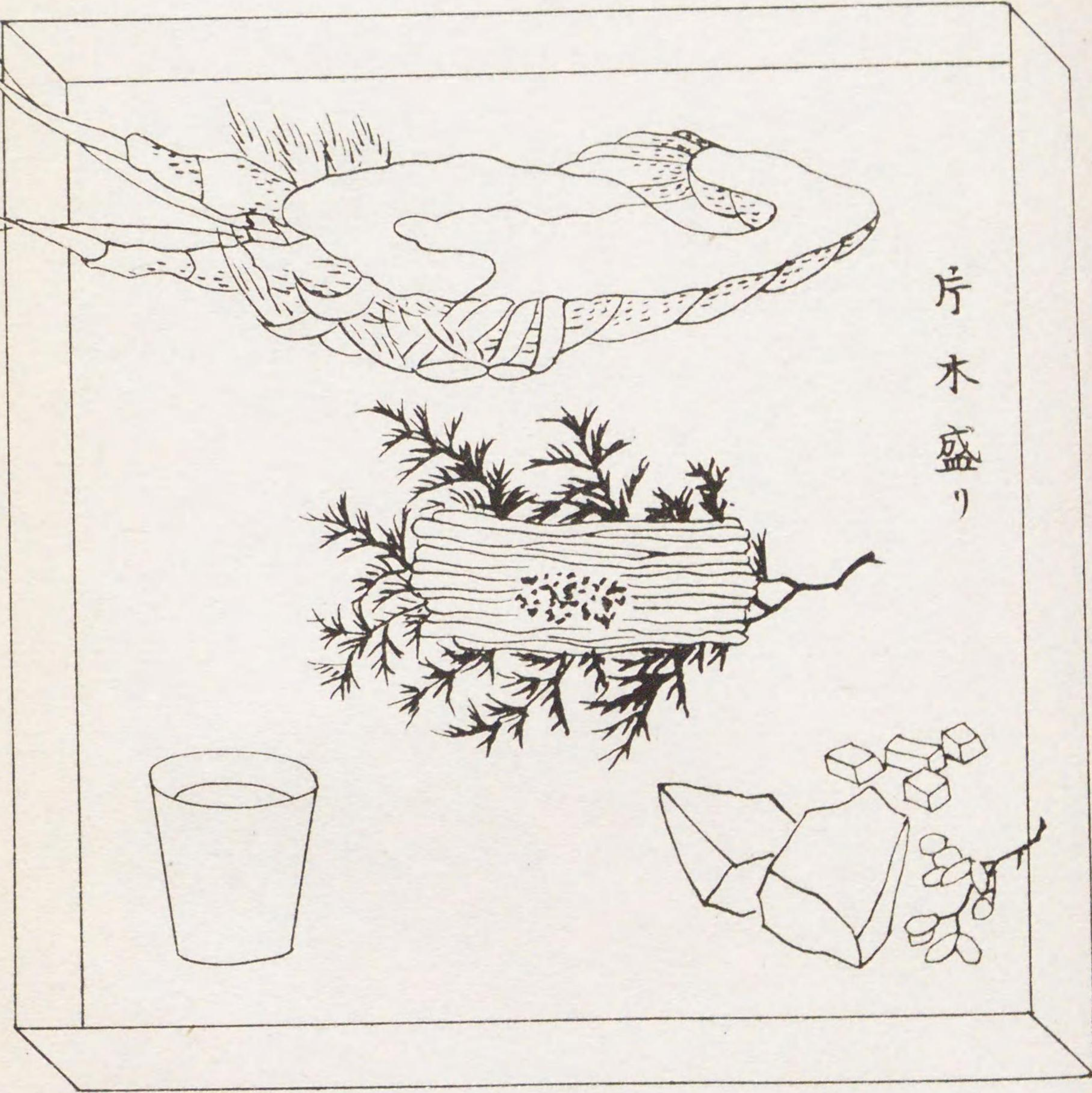
御 留 守 居 大 御 番 頭

御 書 院 番 頭 御 小 性 組 番 頭 大 目 付













同三之間

御納戸組頭

御天守番之頭

富士見御寶藏番之頭

新御番

御腰物方

御納戸

表御右筆

小十人組頭

御細工頭

御材木石奉行

小普請方

御壘奉行

御勘定

御同朋頭

御數寄屋頭

右之分計於此所御料理可被下候、當番之外は可爲無用候、但御用之時は御目付へ可相斷者也

十二月

御臺所三之間縁類

御徒目付組頭

火之番組頭

黒鍬之者頭

御徒目付

御掃除之者頭

御作事方御被官

表坊主組頭

同四之間

御徒押

御提灯奉行

表火之番

御中間頭

御小人頭

御駕籠之者頭

御臺所人

御徒

御賄方



表坊主

同四之間横手

御臺所口石之間番

御中間

御小人

同所向之末

御駕籠之者

六尺共

黒鉄之者

御掃除之者

右之通御料理被下之

一御式正御料理之事

十二月十三日 御煤納 同廿八日 歳暮

日限不定 節分之日

正月三ケ日 同六日十六日 年越

右諸席共御式正御料理下之

天保年間

御本丸席々張紙

燒火之間

二丸御留守居

御納戸頭

御腰物奉行

御鷹匠頭

御裏門番之頭

御廣敷番之頭

御納戸組頭

御鐵炮玉藥奉行

御鐵炮御簞笥奉行

御弓矢鍵奉行

御天守番之頭

富士見番之頭

御具足奉行

御幕奉行

御書物奉行

御腰物方

御納戸

御馬方

御勘定組頭

御代官

御切米手形役

御藏奉行

御金奉行

御細工頭

御材木石奉行

小普請方

吹上奉行

濱御殿奉行

小石川御藥園預

御壘奉行

御鷹匠

御勘定

御鳥見組頭

吹上添奉行

馬醫

右之外御座敷伺公すへからさる者也

十二月

御納戸前

千人頭

小普請方改役

御作事下奉行

御鳥見

後藤

本阿彌

徳川禮典附録 卷二十四



吳 服 師 狩

野

幸

阿

彌

右之外此所に伺公すへからさる者也

十二月

御臺所廊下

御徒目付組頭

火之番組頭

御貝太鼓役

黒 歛之者頭

御掃除之者頭

評定所番

△御疊方御用達

伊

阿

彌

御 翠 簾 屋

右之外此敷居より内え伺公すへからさる者也

十二月

同所廊下

御 中 間 頭

御 小 人 頭

御 駕 籠 之 者 頭

傳 奏 屋 敷 番

右之外此敷居より内え參へからさる者也

十二月

土圭之間入口

是より内え御用なき輩一切出入すへからさるもの也

十二月

菊之間御縁頼より芙蓉間入口杉戸

是より内え御用なき輩一切出入すへからさるもの也

十二月

土圭之間御次中之間より入口之戸

是より内え御用なき輩一切出入すへからさる者也

十二月

桔梗之間より中之間え入口之御羽目

是より内え御用なき輩一切出入すへからさる者也

十二月

山吹之間菊之間より入口

是より内え中奥衆之外御用なくして參へからさる者也

十二月

御小性組御番所前御廊下より菊之間え入口杉戸

是より内え御用なき輩一切出入すへからさる者也

十二月



御數寄屋入口

定

△溜詰

松平讃岐守

井伊掃部頭

松平肥後守

右之外一切出入すへからさる者也

十二月

御右筆部屋縁頼杉戸 芙蓉之間焼火之間兩所并中之間より入口

定

△天保度初年

△老中

青山下野守

水野出羽守

大久保加賀守

松平和泉守

松平周防守

△若年寄  
堀田攝津守

植村駿河守

京極周防守

増山河内守

林肥後守

右之外出入有へからす、但 御留守居衆、大目付衆、御目付衆御用之節計可爲製外者也

十二月

御右筆部屋落縁

鷹之間

芙蓉之間

右御座敷伺公之面々、并中奥衆之外、此御縁頼一切出入不可有者也

十二月

焚火之間

是より奥へ御用なき輩一切出入すへからさる者也

十二月

御納戸後通廊下

此敷居より北之御廊下え町人等可有之、是より上之座へ參へからさる者也

十二月

右 同 所

此敷居より南之廊下猿樂可有之、是より上之座へ參へからさる者也

十二月

御納戸入口焼火間廊下

此内え御納戸衆、御腰物方之外、御用なき輩出入有へらかさる者也

十二月

御膳所入口

是より内へ御膳所役人之外、一切出入すへからさる者也



十二月

湯 飲 所

此所において手水一切つかふへからず、御直參之外湯水給へからさる者也

十二月

御同朋部屋入口

是より内え御用なき輩一切出入すへからさる者也

十二月

將軍徳川家禮典附録 卷之二十四 終

將軍徳川家禮典附録 卷之二十五

將軍徳川家諸役名

大	老	中	京都所司代
御側御用人	大坂御城代	寺社奉行兼役	御奏者番
若年寄	大坂御定番		

嘉永安政以後改革に付新規被 仰付候役名

御政事總裁職	軍事總裁職	陸軍總裁職
京都守護職	海陸軍總奉行	陸軍奉行
二條御城番	海軍奉行	山陵奉行
講武所奉行	甲府御城代	海軍奉行並
陸軍奉行並	外國總奉行並	寺社奉行並
京都見廻役	軍艦奉行	奧詰銃隊頭
騎兵奉行	歩兵奉行	外國奉行
神奈川奉行	箱館奉行	兵庫奉行



下田奉行	京都見廻役並	市中取締役
甲府町奉行	軍艦奉行並	騎兵奉行並
步兵奉行並	撤兵奉行並	製銃所奉行
遊撃隊頭	軍艦頭	銃隊頭
砲兵頭	騎兵頭	歩兵頭
御持小筒組頭	關東郡代	撤兵頭
奧詰銃隊頭並	清水小普請組支配	外國奉行並
神奈川奉行並	長崎奉行並	箱館奉行並
製銃所奉行並	銃隊頭並	遊撃隊頭並
精銳隊頭	軍艦頭並	砲兵頭並
工兵頭	騎兵頭並	歩兵頭並
御持小筒組頭並	大砲組頭	撤兵頭並
別手組出役頭取締	和學所頭取	沿革調頭取
遊撃隊調方頭取	遊撃隊頭取	海軍所頭取
講武所頭取	開成所頭取	御勘定頭取

慶應三年改革諸役人の場所高を廢、左之通御役金に直被下

金一萬兩	隱居并部屋住より被仰付候	金二千五百兩	京都見廻役
金五千兩	老中	金七百兩	林大學頭
金四千兩	同斷	金八百兩充	御三卿家老
金八百兩	山陵奉行		軍艦奉行
金四千兩	万石以下	金二千兩充	奧詰銃隊頭
金千五百兩	高家		騎兵奉行
金千五百兩	御側		歩兵奉行
金二千兩充	駿府御城代	同斷充	御留守居並
金千五百兩	甲府御城代		御勘定奉行並
	山田奉行	同斷	御作事奉行
	御留守居	金千五百兩	禁裏附
	海軍奉行並	金二千兩	甲府小普請組支配
	陸軍奉行並	金三千兩	外國奉行
金二千五百兩充	外國惣奉行並	金四千兩	神奈川奉行
	大目付	金千五百兩	長崎奉行
	寺社奉行並	金千五百兩	浦賀奉行
	町奉行	金四千兩	箱館奉行
	御勘定奉行		



金三千兩 兵庫奉行

金二千五百兩充 京都町奉行

金二千兩 大坂町奉行

京都見廻役並

日光奉行

市中取締役頭

奈良奉行

駿府町奉行

甲府町奉行

佐渡奉行

金千兩 奧詰銃隊頭並

學問所御用

林式部少輔

坂井右近將監

陸軍所修行人教授役頭取

下曾根甲斐守

山口近江守

松平石見守

清水小普請組支配

金八百兩 御作事奉行並

金千兩 外國奉行並

金千五百兩 神奈川奉行並

金二千兩充 長崎奉行並

箱館奉行並

製銃所奉行並

銃隊頭並

遊擊隊頭並

精銳隊頭並

軍艦頭並

砲兵頭並

工兵頭並

騎兵頭並

步兵頭並

撒兵頭並

御使番

駿府勤番組頭

別手組出役頭取取締

金三百兩

金六百兩

右之通御役金月割を以可被下旨被 仰出之

徳川禮典附録 卷二十五

金二千兩

新潟奉行

軍艦奉行並

騎兵奉行並

步兵奉行並

撒兵奉行並

製銃所奉行

遊擊隊頭

軍艦頭

銃隊頭

砲兵頭

騎兵頭

步兵頭

撒兵頭

火消役

御目付

御小性

吹上奉行

御廣敷御用人

法眼 奧醫師

金四百兩

金六百兩

金三百兩

金二千兩

金千兩

金六百兩

金三百兩

金四百兩

金五百兩

同斷

金六百兩充

同斷充

金五百兩

同斷充

金三百兩充

御納戸頭

御勘定頭取

奧御右筆組頭

奧御右筆組頭格

姫君様方御用人

美濃郡代

西國郡代

飛驒郡代

二丸御留守居格

別手組出役頭取取締並

同格 儒者

同格 學所頭取

同格 沿革調頭取

同格 遊擊隊調方頭取

同格 遊擊隊頭取

海軍所頭取

開成所頭取

御銃炮玉藥奉行

御納戸頭

御勘定頭取

奧御右筆組頭

奧御右筆組頭格

姫君様方御用人



諸役人被下高割合

一 諸向え被下高、御足高共、御藏米を以被下候分は、一俵三斗五升入を以被下候事  
一 地方ニ而被下候者は四ツ物成、即一石ニ付四斗之割を以知行被下候事

但 地方取之者ニ而も、御足高は都而御藏米ニ而、一石は三斗五升入一俵之割ニ而被下、譬は高千石内

五百石持高知行  
五百石御足高御藏米に而五百俵三斗五升入被下

一 御藏米ニ而被下候場所え地方取之者被 仰付候得は、持高一石は一俵と見積り、不足之分御藏米ニ而被下候事

一 御給金取之者、御藏米取之場所え被 仰付候節は、三兩ニ付十俵之割に直し被下候事

小普請御役金之事

一 五百石以上は百石に付金二兩之割但 地方五百石之者  
御藏米之五百俵同様、以下倣之

一 五百石以下百石に付金一兩二分之割

一 現米は三斗五升俵に直、其俵數之高を以相納之

一 御扶持方は一人扶持五俵積り

右之通享保九辰年四月被 仰出之

但 老衰小普請入ハは高に不拘、御役金御免之事

天保年間

諸役大概順

千五百石高 鷹之間席 老中支配 家

肝煎ハ御役料八百俵、部屋住は五百俵

持 高 鷹之間席 同 駿府御城代

御役知二千石

但 萬石以上に而も駿府御城代次席

五千石高 同 御留守居

四千石高 同 御書院番頭

三千五百石 同 御小性組番頭格

三千石高 同 大目付

同 斷 同 御勘定奉行

同 斷 同 芙蓉間席 御作事奉行

同 斷 同 若年寄支配 小普請奉行

同 斷 中之間席

五千石高 同 御側衆

同 斷 芙蓉間席 同 伏見奉行

御役料三千俵

同 斷 菊之間席 同 大御番頭

同 斷 同 御小性組番頭

持 高 芙蓉間席 同 御三卿家老

老中支配 田安殿一橋殿清水殿  
外公儀より千俵御屋形より千俵被下

同 斷 同 町奉行

同 斷 同 御旗奉行

同 斷 同 御普請奉行

三千石高 芙蓉間席 老中支配 甲府勤番支配

御役知千石、但三千石以下之者は御足高に而三千石に成る、御足高は甲府御藏ニ而被下



千石高 芙蓉間席 老中支配 長崎奉行

同 斷 同 御役知千石

同 浦賀奉行

千五百石高 同 御役料現米六百石 京都町奉行

同 斷 同 御役料同斷

同 大坂町奉行

千石高 同 御役料七百俵 駿府御定番

同 斷 同 御役料千五百俵

同 禁裏附

同 斷 同 御役料千俵 但三千石以上之者ハ御役料五百俵 仙洞附

同 斷 同 御役料千五百俵

同 山田奉行

二千石高 同 御役料五百俵 日光奉行

千石高 同 御役料千五百俵

同 奈良奉行

同 斷 同 御役料現米六百石 堺奉行

同 斷 同 御役料五百俵

同 駿府町奉行

同 斷 同 御役料千五百俵、御役扶持百人扶持 佐渡奉行

同 斷 同 御役料千俵

同 新潟奉行

同 斷 同 御役料同斷 羽田奉行

二千石高 中之間席 若年寄支配 西丸御留守居

御中支配 御鑓奉行

三千石高 菊之間席 百人組之頭

二千石高 同

御鑓奉行

三千石高 中之間席 小普請組支配  
△御目見以上以下共御譜代筋之者、老年幼少等に而  
勤仕難相成節、小普請組支配に入  
△但不勤之面々小普請之役金を納

二千石高 同 若年寄支配 新番頭

千五百石高 菊之間席 御持筒弓之頭

持 高 同 御役扶持三百人扶持

同 火消役

五百石高 御役料三百俵 御小性

持 高 同 山吹間席

同 中奥御小性

五百石高 桔梗間席 御臺様用人

同 斷 同 御役料同斷

同 御簾中様 御用人

千五百石 柳之間席 半井出雲守

千二百石 同

同 今大路右近

二百俵高 御番料二百俵 奥法印醫師

持 高 同 北御縁歌間

同 法印醫師

二百石 二十人扶持 狩野晴川院

五百石 同 柳之間席

同 北村再昌院

二百俵高 御番料二百俵 奥法眼醫師

持 高 同 北御縁歌間

同 法眼醫師



持 高 躑躅間席 大坂御船手

千石高 中之間席 御留守居番

千五百石高 躑躅間席 御先手 鋏之頭

千石高 中之間席 御目付

但 火附盜賊改加役六十人扶持

同 斷 菊之間席 御使番

同 斷 同 御書院番組頭

同 斷 同 御小性組與頭

五百石高 駿府御城代支配 駿府勤番組頭

持 高 躑躅間席 御鋏 炮方

七百石高 同 西丸御裏門番之頭

千石以下之者は御役料二百俵

千石高 同 御徒頭

同 斷 同 小十人頭

五百石高 御役料三百俵 御小納戸

七百石高 躑躅間席 御船手

同 斷 燒火間席 二丸御留守居

同 斷 同 御納戸頭

同 斷 同 御腰物奉行

同 斷 同 御鷹匠頭

五百石高 中之間席 御勘定吟味役

千石高 同 御役扶持二十人扶持

御役料三百俵

若年寄支配 奧御右筆組頭

金二十四兩二分御四季施代

持 高 躑躅間席 大坂御船手

千石高 中之間席 御留守居番

千五百石高 躑躅間席 御先手 鋏之頭

千石高 中之間席 御目付

但 火附盜賊改加役六十人扶持

同 斷 菊之間席 御使番

同 斷 同 御書院番組頭

同 斷 同 御小性組與頭

五百石高 駿府御城代支配 駿府勤番組頭

持 高 躑躅間席 御鋏 炮方

七百石高 同 西丸御裏門番之頭

千石以下之者は御役料二百俵

千石高 同 御徒頭

同 斷 同 小十人頭

五百石高 御役料三百俵 御小納戸

七百石高 躑躅間席 御船手

同 斷 燒火間席 二丸御留守居

同 斷 同 御納戸頭

同 斷 同 御腰物奉行

同 斷 同 御鷹匠頭

五百石高 中之間席 御勘定吟味役

千石高 同 御役扶持二十人扶持

御役料三百俵

若年寄支配 奧御右筆組頭

金二十四兩二分御四季施代

三百俵高 桔梗間席 御用人

二百俵高 同 奧詰儒者

四百俵高 躑躅間席 御勘定奉行支配 美濃郡代

同 斷 同 西國郡代

同 斷 同 飛驒郡代

布衣以下

御目見以上大概順

三百俵高 桔梗間席 御用人 並

六百石高 同 新御番組頭

同 斷 躑躅間席 大御番組頭

三百俵高 若年寄支配 表御右筆組頭

持 高 土圭間席 御膳奉行

二百俵高 燒火間席 頭支配 小普請組支配組頭

御役料二百俵

△御目見以下之者、老年幼少不勤之分取締方并小普請役金納方等、御役料三百俵、御手當扶持二十人扶持 但持高三百俵以上は御手當扶持不被下

同 斷 同 甲府勤番支配組頭

四百俵高 同 御留守居支配 御裏門切手番之頭



四百俵高 燒火間席 御留守居支配 西丸切手御門番之頭

持 高 御役料現米百二十石 二條御城御門番之頭

同 斷 御役料百俵 二條御城御殿預

同 斷 燒火間席 御留守居支配 御臺様 御廣敷番之頭

同 斷 同 御簾中様 御廣敷番之頭

三百俵高 山吹間席 若年寄支配 中 奥 御 番

同 斷 紅葉間席 頭支配 御小性組

同 斷 虎之間席 同 御書院 番

二百俵高 御城代支配 駿府勤番

同 斷 御臺様御用人支配 兩番格御庭番

四百俵高 燒火間席 頭支配 御納戸組頭

持 高 御留守居支配 御鈹炮玉藥奉行

同 斷 同 御鈹炮御箆筭奉行

同 斷 御合力米現米六十石 所司代支配 二條御鈹炮奉行

同 斷 御合力米現米八十石 御定番支配 大坂御鈹炮奉行

同 斷 燒火間席 御留守居支配 御弓矢鎗奉行

同 斷 御合力米現米八十石 御定番支配 大坂御弓奉行

四百俵高 燒火間席 御留守居支配 御天守番之頭

御留守居支配

所司代支配

御廣敷番之頭

二條御城御門番之頭

御簾中様

御留守居支配

御廣敷番之頭

御臺様 御廣敷番之頭

御小性組

若年寄支配

御城代支配

中 奥 御 番

駿府勤番

御臺様御用人支配

頭支配

兩番格御庭番

御納戸組頭

御留守居支配

御鈹炮御箆筭奉行

御鈹炮玉藥奉行

御定番支配

所司代支配

大坂御鈹炮奉行

二條御鈹炮奉行

御定番支配

御留守居支配

大坂御弓奉行

御弓矢鎗奉行

御定番支配

御留守居支配

大坂御弓奉行

御天守番之頭

同 斷 同 富士見番之頭

持 高 御定番支配 大坂破損奉行

同 斷 燒火間席 御留守居支配 御具足奉行

同 斷 御合力米現米八十石 御定番支配 大坂御具足奉行

同 斷 燒火間席 御留守居支配 御幕奉行

二百俵高 御城代支配 駿府御武具奉行

同 斷 燒火間席 御幕奉行

御合力米現米四十石、御藥附御用兼役御役金三十兩、破損奉行兼役に付御役金三十兩、御役扶持五人扶持

同 斷 燒火間席 御書物奉行

同 斷 御役料二百俵 御 賄 頭

二百五十俵高中之間内 頭支配 新 御 番

同 斷 二百俵高 燒火間席 同 御 腰 物 方

同 斷 同 御納戸

同 斷 大 御 番

持 高 甲府勤番

二百俵高 若年寄支配 奥 御 右 筆

部屋住より被召出候得は二百俵

金二十四兩二分御四季施代

表 御 右 筆

同 御 馬 預

銀二十枚御四季施代

頭支配 小十人組頭

同 御馬方

三百俵高 檜之間席

五人扶持 見習八十五人扶持

同 御馬方

百俵高

同 御馬方

徳川禮典附録 卷二十五

六九五



二百俵高 燒火間席

御留守居支配

大筒

二百五十俵高

頭支配  
御鷹匠組頭

三百五十俵高

御勘定奉行支配

御勘定組頭

三百俵高

奉行支配  
日光奉行支配組頭

御殿詰、御取固、御勝手方、評定所、右四ヶ所  
掛りの組頭は御役料百俵充

持高

佐渡奉行支配組頭

同

新鴻奉行支配組頭

御役料三百俵

御役金百兩

御役料二百俵

御役金八十兩

百五十俵高

御勘定奉行支配

御代官

持高

御切米手形改

駿府御藏掛り御役料三百俵  
料二百俵 馬喰町御用屋敷詰三人之内一人は御  
役料三百俵 二人は二十人扶持、支配所關東十  
万石高之者は御役料三百俵

同

御藏奉行

同

二條御藏奉行

御役料同斷

御役料同斷

御合力米現米十四石

二百俵高

大坂御藏奉行

同

御金奉行

御合力米現米八十石

同

大坂御金奉行

同

若年寄支配  
御細工頭

御合力米現米八十石

持高

御材木石奉行

同

奉行支配  
小普請方

御役料同斷

御役料同斷

御役料百俵

御役料百俵

二百俵高

若年寄支配  
吹上奉行

同

濱御殿奉行

同

御藥園奉行

同

御膳所御臺所頭

御役料同斷

御臺様  
御膳所御臺所頭

同

御簾中様  
御膳所御臺所頭

同

表御臺所頭

同

學問所詰  
儒者

御役料同斷

御作事奉行支配

持高

御勘定奉行支配

百俵高

御壘奉行

同

漆奉行

御役料百俵 百俵以下は百俵之高に御足高被下

持高

林奉行

同

若年寄支配  
御休息御庭之者支配

御役料同斷

御用人支配

同

御簾中様

二百俵高

御臺様  
御用達

同

御用達

御役料同斷

御君様方御用人支配

同

頭支配

同

御君様方

同

小十人組

御君様方

同

御用達

同

御用達

御役料同斷

御用達

同

御用達



御用人支配  
御十人格  
御庭番

御頭支配  
御鷹匠  
見習は五十俵、尤見習被仰付候翌年暮より御救金十兩被下、五年目春より五十俵被下

御勘定奉行支配  
川船改役

御勘定吟味役支配  
御勘定吟味方改役

寺社奉行支配  
寺社奉行吟味物調役

御勘定奉行支配  
評定所留役

禁裏附支配  
禁裏御賄頭

林大學頭支配  
學問所勤番組頭

三人扶持 御役料百俵 △京都在住

若年寄支配  
御鳥見組頭  
御役扶持五人扶持、傳馬金十八兩、書狀遣金七兩

吹上添奉行  
御役扶持五人扶持、御役金五兩

御鑓奉行支配  
御納戸廊下 千人頭  
八人地方取二人御藏米持高 △武州八王子在住

馬醫  
見習十五人扶持

京都御大工頭  
△中井岡次郎 代々役京都在住

御作事奉行支配  
御大工頭

御作事奉行支配  
御作事下奉行

小普請奉行支配  
小普請方改役

御作事奉行支配  
御作事下奉行

御普請奉行支配  
御普請方下奉行

若年寄支配  
寄場奉行  
御役扶持二十人扶持 △輕罪之懲役人を預る

御役扶持同斷 外御手當金八兩

若年寄支配  
寄場奉行  
御役扶持二十人扶持 △輕罪之懲役人を預る

御普請奉行支配  
御普請方下奉行

若年寄支配  
寄場奉行  
御役扶持二十人扶持 △輕罪之懲役人を預る

御普請奉行支配  
御普請方下奉行

若年寄支配  
寄場奉行  
御役扶持二十人扶持 △輕罪之懲役人を預る

御普請奉行支配  
御普請方下奉行

若年寄支配  
寄場奉行  
御役扶持二十人扶持 △輕罪之懲役人を預る

頭支配  
小普請世話取扱  
五百俵以下御手當十人扶持 △不勤之者取締筋を扱

若年寄支配  
天文方  
測量御用相勤者は御役扶持七人扶持、同手傳御役扶持五人扶持、曆作御用は御役扶持無之、阿蘭陀書籍和解御用は金拾兩

寺社奉行支配  
神道方

若年寄支配  
御同朋頭  
御四季施被下

御數寄屋頭

頭支配  
御同朋  
百俵高 十人扶持

若年寄支配  
小石川御藥園預

頭支配  
御同朋  
二人扶持



御目見以下小役人

御譜代席 上下役鬘斗目、白帷子、繼上下着用、於躑躅間家督被下候身分、但身分御譜代に而上下役以下之者は羽織袴着用、鬘斗目等着用不相成、於燒火間俸え家督被下

御譜代准席

前々二半場と唱、元身分御抱之もの、而も、二半場え轉役之上は御譜代に准し、其場所二寄鬘斗目、白帷子、繼上下着用、於席家督被下

諸組與力

役上下と唱、鬘斗目、白帷子、繼上下着用、御譜代筋目之與力は、病氣上下而勤差免候節は隠居俸え番代類相濟候もの、御抱筋與力は、隠居不相成、身寄二而跡抱入相成候もの

諸組同心

羽織袴勤式立候節は役羽織と唱、頭々之印縮羽織着用、御譜代筋目俸え番代隠居願濟に御抱筋之者は、隠居不相成、身寄跡抱入に相成

御徒

御抱之者病氣等之節は、身寄跡抱入に相成候もの、役羽織、黒縮袴、無紋袴着用、式立候節は鬘斗目、白帷子着用、一組頭は鬘斗目、白帷子、繼上下着用、老衰又は病氣二而勤差免候節七十歳以上、當勤二十年勤之ものは七十歳以上、當勤其身一代御徒頭支配無被仰付、當年數内二而病氣之節勤難相成者は、三ヶ年之間御徒頭支配無役

御目付支配無役人

御中間 御小人 黒鉄之者 御掃除之者

御目見以下大概順

八十俵高 持扶持 御譜代 若年寄支配 鳥 見 野扶持五人扶持、傳馬金十八兩、見習之者御扶持方 十人扶持、野扶持傳馬金同斷

百俵高 持扶持 同 御船手支配 御召御船上乗役

同 斷 同 頭支配 御天守番

同 斷 同 御富士見番 世話役ハ御役扶持三人扶持

同 斷 同 御勘定吟味役支配 御勘定吟味方改役並 御役扶持七人扶持、出役之者五人扶持

同 斷 同 奉行支配 御普請方改役 御役扶持同斷、御手當金五兩

同 斷 同 御勘定奉行支配 支配 勘定 見習ハ十人扶持、出役之者百俵以下は五人扶持

八十俵高 同 支配勘定格 御所御入用取調役 三人扶持御役金二十五兩 △京都在住

百俵高 持扶持 同 御普請役元々 御役金十兩

同 斷 同 評定所書役 勤金十兩

二百俵高 同 御目付支配 御徒目付組頭

同 同 火之番組頭 百五十俵高

同 斷 同 奉行支配 羽田奉行支配組頭 御役扶持十五人扶持、御手當金拾兩

同 斷 御抱 御徒組頭

百俵高 御譜代 奉行支配 日光奉行支配吟味役 御役扶持五人扶持御役金十兩

百俵高 持扶持 同 御目付支配 御貝役 部屋住より見習は五人扶持



百俵高 御譜代 押御太鼓役  
御部屋住より見習は五人扶持

七十俵高 同  
五人扶持、勤金十兩

奉行支配  
小普請方吟味役

持高 持扶持 同

百俵高 持扶持 御譜代

御留守居支配  
進物取次番之頭

御役扶持三人扶持、勤金十兩  
勤向は本役同様ニ而身分  
御譜代者、御抱者打込勤之

同 斷 同

御廣敷番之頭支配  
御廣敷添番

同 斷 同

西丸御廣敷番之頭支配  
西丸御廣敷添番

五十俵高 持扶持 同

御廣敷番之頭支配  
御廣敷添番並

同 斷 同  
部屋住勤八十人扶持

御廣敷御用人支配  
添番並御庭番

百俵高 同

大目付支配  
闕所物奉行

同 斷 持扶持 同

御目付支配  
黒鍬之者頭

五人扶持 同

同 御徒 目付

百俵高 持扶持 同  
御役扶持七人扶持

同 濱 吟味役

同 斷 同

奉行支配  
寄場吟味役

同 斷 同

御目付支配  
御掃除之者頭

同 斷 同  
部屋住勤八十人扶持

御勘定奉行支配  
評定所番

同 斷 同  
四人扶持  
御役金二十兩

頭支配  
御膳所御臺所組頭

七十俵高 持扶持 同  
御役金同斷

御臺様  
御簾中様  
御膳所御臺所組頭

百俵高 同  
四人扶持

同 表御臺所組頭

八十俵高 持扶持 同

御目付支配  
御徒 押

同 斷 同

同 御挑灯奉行

同 斷 同

御留守居支配  
奥火之番

七十俵高 持扶持 同

御目付支配  
表火之番

八十俵高 持扶持 同

御中間頭

同 斷 同

同 御小人頭

持高 持扶持  
御役金八兩、御役扶持三人扶持  
御譜代者御抱打込勤

奉行支配  
御普請方

七十俵高 持扶持 御譜代

御廣敷御用人支配  
御臺様御侍

同 斷 同

西丸御廣敷御用人支配  
御簾中様御侍

同 斷 同

姫君様方御用人支配  
姫君様方御侍

六十俵高 持扶持 同

御目付支配  
二九火之番

同 斷 同  
御役扶持五人扶持、但見習ハ御役扶持五人扶持

寺社奉行支配  
紅葉山火之番



六十俵高 御譜代 御目付支配 御駕籠之者頭

禁裏附支配

進物取次上番格

御所勘使買物使兼

△京都在住

同 斷 三人扶持 御役金二十兩

五十俵高 持扶持 同 頭支配 進物取次上番 大筒役支配 大筒下役組頭

同 斷 持扶持 御抱

四十俵

持扶持

御譜代

頭支配 表御臺所改役

五十俵高 持扶持 同 御膳所御臺所人

御役金十兩

同

御臺様

御簾中様

御膳所御臺所人

同 斷 同 表御臺所人

四十俵 御役金拾兩

三十俵

代々役御譜代准席

小金野馬奉行

同 斷 二人扶持 御廣敷御用人支配 御廣敷御用部屋書役

西丸御廣敷御用人支配

西丸御廣敷御用部屋書役

五十俵高 持扶持 御譜代 奉行支配 吹上筆頭役

御役金三兩

同 斷 同

持 高 持扶持 御譜代准席 同 並

御役金同斷

五十俵高 三人扶持 御譜代 林大學頭支配 學問所勤番

御役金同斷、但 肝煎ハ御役扶持二人扶持

七拾俵高 御譜代准席 頭支配 御賄組頭

五人扶持 御役切米三拾俵

同 斷 持扶持 御譜代 同 調 役

御役切米三拾俵、御役金拾兩、御四季施代金四兩貳分

五拾俵高

御譜代准席

同 吟味 役

四拾俵 同 御譜代 同 勘定 役

貳人扶持

御役切米貳拾俵、御役金拾兩、御四季施代前同斷、介役ハ貳拾俵貳人扶持、御役切米、御役金、御四季施代は前同斷

貳拾俵

同 同 改 役

御材木石奉行支配 御被官格 御材木方改役

五拾俵高 持扶持 御譜代 奉行支配 御作事方御被官

見習は御手當金三兩

同 斷 三人扶持

御材木石奉行支配 御被官格 御材木方改役

同 斷 御抱 奉行支配 寄場元ノ役

役扶持三人扶持、御手當金五兩

同 斷 役扶持三人扶持

頭支配 小普請組世話役

貳拾俵 御譜代 御目付支配 御臺所 番

貳人扶持

持 高 持扶持 同 御留守居支配 明屋敷番伊賀者組頭

同 斷 御抱 奉行支配 小普請方伊賀者組頭

役扶持四人扶持



三拾俵 御抱 奉行支配 同吟味手傳役

五拾俵高 三人扶持 同 同手代組頭

貳拾俵 同改役下役組頭 御人扶持 役扶持三人扶持

三拾俵 御譜代 御人扶持 役扶持三人扶持 頭支配 御膳所小間遣頭

同 御臺様 御簾中様 御膳所小間遣頭 御役扶持同斷

同 同 表御臺所小間遣頭 御役扶持同斷

拾人扶持 御同朋頭支配 公人朝夕人 代々役 土田孫右衛門 家譜ニ慶長八年 御上洛 御參内之節 將軍家御尿筒 持參供奉

三百俵 御抱 町奉行支配 囚獄 石出帶刀 拾人扶持

現米八拾石より 御譜代筋 頭々支配 四拾五石三斗迄 御抱筋 諸組與力 俸假抱入ハ拾人扶持

持高 持扶持 奉行支配 佐州廣間役 役金三拾五兩 御抱 地役人ニ而相勤候者ハ御扶持方貳拾人扶持、在方懸ハ役金八兩

百俵高 同 新潟廣間役 役扶持拾人扶持御手當金七兩

七拾俵高 同 頭支配 御徒 五人扶持 俸假抱入ハ七人扶持

八拾俵高 同 御勘定奉行支配 御普請役元ノ被下金拾兩

同 御普請役元ノ格 御鷹野方組頭 五拾俵高 三人扶持 役扶持三人扶持、御手當金八兩、部屋住ハ御扶持方三人扶持

同 御代官手附 同 御勘定吟味役支配 御勘定吟味方下役 同斷 同

持高 持扶持 御勘定吟味役支配 役扶持三人扶持

五拾俵三人扶持より 御勘定奉行支配 三拾俵三人扶持迄 御普請役 被下金拾兩より三兩迄、見習ハ三人扶持、勤金五兩

持高 同 御普請役格 川船改役手附 同

同 持扶持 同 鷹野方 役扶持三人扶持、御手當金五兩 部屋住ハ役扶持三人扶持、御手當金五兩

同 同 御鷹野方並 三拾俵二人扶持より 御手當金五兩 貳拾俵一人扶持迄

三拾俵 同 御代官手附 御普請役 三人扶持

同 關東郡代組付 御普請役格 貳拾俵二人扶持一人 同 三拾俵二人扶持一人 同 役扶持三人扶持、御手當金五兩



御勘定奉行支配  
關東郡代支配  
御代官手附御普請役格  
三拾俵 御抱  
手代頭取  
貳人扶持

御代官手附  
御普請役格  
三拾俵三人扶持より  
同  
貳拾俵貳人扶持迄

持 高 同 關東郡代組附  
持 高 同 御手當金五兩  
役扶持三人扶持、

御馬預支配  
御馬 乘  
五拾俵高 同  
三人扶持

持 高 同 御勘定奉行支配  
持 高 同 本所牢屋敷取締役  
役扶持三人扶持、役金拾兩

同 評定所書役  
三拾俵 持扶持  
同 役金拾兩 見習ハ御給金六兩、貳人扶持

持 高 同 御作事奉行支配  
持 高 同 御作事方勘定役  
見習御手當金貳兩貳分

御廣敷番之頭支配  
御廣敷伊賀者  
三拾俵 御譜代  
貳人扶持

貳拾俵 御抱  
三人扶持 御廣敷御用人支配  
御廣敷御用部屋  
伊賀格吟味役

御留守居支配  
明屋敷番伊賀者  
持 高 持扶持  
御譜代

三拾俵 御抱  
貳人扶持 御廣敷番之頭支配  
西丸山里伊賀者

奉行支配  
小普請方伊賀者  
持 高 持扶持  
同

三拾俵 同 御廣敷番之頭支配  
三人扶持 御廣敷進上番

御同朋頭支配  
奧坊主組頭  
五拾俵高 持扶持  
御譜代准席  
役扶持貳人扶持、金貳拾七兩

同 斷 同 寺社奉行支配  
紅葉山  
御靈屋 附坊主

頭支配  
御數寄屋坊主組頭  
四拾俵 持扶持  
同 御四季施代金四兩

四拾俵 同 御同朋頭支配  
同 貳人扶持 表坊主組頭

頭支配  
御賄方  
貳拾俵 同  
御人扶持 役切米拾俵、世話役ハ役切米拾貳俵

同 斷 御抱 奉行支配  
同 斷 御作事方小役  
役扶持三人扶持、見習ハ御手當金貳兩

同 書 役  
同 斷 持扶持  
同 見習御手當金貳兩

三拾俵 同 同 手代  
同 貳人扶持

奉行支配  
小普請方手代  
同 斷 同  
三人扶持

同 斷 持扶持 御鷹匠頭支配  
同 御鷹御犬牽  
見習初年無足、翌年より御救金三兩、四年目より三人扶持

頭支配  
御休息御庭之者組頭  
持 高 持扶持  
同 役扶持三人扶持











持高 御抱 吹上奉行支配 役

同 斷 同 同 同 下 役

同 斷 同 御鳥 方

同 斷 同 御庭入口番人

同 斷 同 御藥園 方

同 斷 同 御庭 方

同 斷 同 御花壇 役

同 斷 同 苗 木 方

同 斷 同 御請普方之者

同 斷 同 奉行支配 御書物同心

同 斷 同 二丸御留守居支配

同 斷 同 林大學頭支配 學問所下番

同 斷 同 二丸 同心

同 斷 同 御抱

拾五 依 持扶持 御廣敷番之頭支配 御廣敷御小人

同 斷 同 勤金貳兩、小頭ハ役扶持壹人半扶持

同 斷 同 御請普方之者

同 斷 同 御抱

拾五 依 持扶持 御廣敷番之頭支配 御廣敷御小人

同 斷 同 勤金貳兩、小頭ハ役扶持壹人半扶持

同 斷 同 御請普方之者

同 斷 同 御抱

貳拾 依 三人扶持 御抱 野馬方書役

三拾 依 持扶持 頭支配 大筒下役

同 斷 同 寺社奉行支配 紅葉山 御掃除之者組頭

貳拾 依 持扶持 御膳奉行支配 御臺所口 石之間番

同 斷 同 御勘定奉行支配 御勘定所 湯呑所之者

拾五 依 御譜代 頭支配 御 中間

同 斷 同 御抱 野馬方書役

拾五 依 御譜代 頭支配 御 中間

同 斷 同 御抱 野馬方書役

拾五 依 御譜代 頭支配 御 中間

同 斷 同 御抱 野馬方書役

拾五 依 御譜代 頭支配 御 中間

同 斷 同 御抱 野馬方書役

拾五 依 御譜代 頭支配 御 中間

同 斷 同 御抱 野馬方書役

拾五 依 御譜代 頭支配 御 中間

同 斷 同 御抱 野馬方書役

拾五 依 御譜代 頭支配 御 中間

同 斷 同 御抱 野馬方書役

拾五 依 御譜代 頭支配 御 中間



拾五俵 御抱  
御目付支配  
櫻田御用屋敷  
御門番人

貳拾俵 御代  
御駕籠之者  
厄介より新規御抱人、拾五俵貳人扶持被下

同 持扶持 御抱  
寄場奉行支配  
人足寄場下役

同 斷 御代  
御馬預支配  
御馬御口之者  
貳人扶持

拾五俵 御譜代准席  
頭支配  
御膳所小間遣  
壹人半扶持  
役金三兩

同 斷 同  
御風呂屋小間遣  
同貳兩

同 斷 同  
御臺様  
御簾中様  
御膳所小間遣  
同三兩

同 斷 同  
表御臺所小間遣

持 高 持扶持  
役切米七俵  
同 御賄六尺頭

同 斷 同  
御賄六尺  
寸打六尺ハ役金三兩 △魚ノ寸尺ヲ改ルヲ云

拾五俵 同  
寺社奉行支配  
紅葉山御高盛六尺  
壹人半扶持

同 斷 同  
御膳所六尺  
役金壹兩貳分、部屋住ハ拾俵壹人半扶持

同 斷 同  
御臺様  
御簾中様  
御膳所六尺

同 斷 同  
御同朋頭支配  
奧六尺  
役金貳兩、組頭ハ貳拾俵貳人扶持、役金三兩

同 斷 同  
御風呂屋六尺

持 高 同  
表六尺

同 斷 同  
頭支配  
表御臺所  
椀方六尺

拾五俵 同  
御廣敷御用人支配  
御廣敷御用部屋六尺  
壹人半扶持

持 高 持扶持  
組頭ハ役切米拾俵  
御作事奉行支配  
御作事方定普請同心

拾五俵 御抱  
小普請奉行支配  
小普請方物書役  
貳人扶持  
改役、物書役扶持貳人扶持

三拾俵 持扶持  
組頭ハ役切米五俵壹人扶持、御道具代金壹兩、世話役ハ  
役扶持壹人扶持

拾五俵 同  
奉行支配  
御材木石奉行同心  
壹人扶持  
組頭ハ貳拾俵壹人扶持、御雇同心壹人扶持

同 持扶持  
世話役勤金三兩  
御勘定奉行支配  
評定所同心

拾三俵 同  
同 内同心  
壹人扶持  
勤金貳兩



持 高 持扶持  
御抱  
吹上奉行支配  
三丸明キ地口番人

同 斷 御譜代准席  
御露地之者

拾 貳 俵 御譜代  
頭支配  
黒 鉄 之 者  
壹人扶持

拾 俵 同  
壹人半扶持  
同 御掃除之者

持 高 持扶持  
御抱  
小普請奉行支配  
小普請方  
御掃除之者

拾 俵 同  
壹人扶持  
御掃除頭支配  
櫻田御用屋敷  
御掃除之者

拾 三 俵 同  
紅葉山御掃除之者  
壹人扶持  
組頭は三拾俵貳人扶持  
御宮附別段金貳分  
御相殿兼勤  
候者被下金壹兩  
御相殿兼相勤候者被下金三分

持 高 持扶持  
吹上奉行支配  
御掃除之者  
組頭ハ役扶持三人扶持、役金之格銀壹枚

同 斷 濱御殿奉行支配  
御掃除之者  
加扶持壹人扶持、御手當金三分

同 斷 御休息御庭之者  
役金壹兩、組頭ハ役扶持三人扶持、世話役ハ役扶持壹人半扶持

同 斷 山里御庭之者  
拾四人ハ役扶持壹人扶持、肝煎ハ同壹人半扶持

拾 五 俵 御譜代准席  
御廣敷御用人支配  
御臺様  
御簾中様  
仕 丁

拾 俵 同  
御廣敷番之頭支配  
御廣敷御下男  
壹人半扶持

同 斷 同御下男並  
小 仕 事 之 者  
世話役は拾五俵貳人扶持

三 拾 俵 御抱  
御作事奉行支配  
御作事方定小屋  
御門番人  
貳人扶持

拾 俵 同  
壹人半扶持  
御疊奉行支配  
御疊藏  
御門番人

持 高 持扶持  
同  
小普請奉行支配  
小普請方定小屋  
御門番人

同 斷 同  
御普請奉行支配  
御普請方定小屋  
御門番人

同 斷 御鷹匠頭支配  
御鷹部屋  
御門番人  
雜用金壹兩

同 斷 濱御殿奉行支配  
濱御殿物書役  
加扶持壹人扶持、御手當金三分、假抱入御給金三兩  
貳人扶持

貳 拾 俵 同  
小石川御藥園預支配  
小石川御藥園同心  
貳人扶持  
見習三人扶持

御給金七兩 同  
駒場野御藥園奉行支配  
駒場野御藥園附

拾 五 俵 同  
小石川御藥園預支配  
小石川御藥園荒子  
壹人半扶持

同 斷 持扶持  
御藏奉行支配  
淺草御藏  
御門番同心  
雜用金五兩、頭取は貳拾俵貳人扶持、見習貳人扶持  
雜用金貳兩



拾 儀 持扶持 御抱 御藏奉行支配 淺草御藏番

拾 儀 被下金四兩 御給金八兩四人扶持 同 牧 士 觸 頭 御代官支配 房州峯岡

御給金八兩四人扶持 同 牧 士 觸 頭

御給金四兩二人扶持 同 牧 士

御給金三兩一人扶持 同 御藏奉行支配 淺草御藏 小 揚 之 者

御給金七兩二人扶持より 同 御勘定奉行支配 御勘定方 御普請役下役 六兩二人扶持迄 被下金五兩より三兩迄見習勘金三兩

貳拾 儀 同 御勘定所 小 遣 之 者

持 高 御譜代准席 御廣敷番之頭支配 御廣敷 小 遣 之 者 部屋住より御抱入、三兩一人扶持

拾五 儀 持扶持 御抱 御膳奉行支配 御春屋御門番人

持 高 御譜代准席 御賄頭支配 御賄 新 組 組頭は役切米五俵、通番役金貳兩

拾 儀 御抱 御馬預支配 御馬 飼

八 儀 同 御勘定奉行支配 評定所使之者 壹人扶持

御給金貳兩貳分壹人扶持 同 御掃除之者

御給金壹兩貳分壹人扶持 同 牢屋下男 召出帶刀支配

將軍徳川家起證文誓詞事

一將軍家御代替ニ付、萬石以上以下諸役人に至迄、於老中宅誓詞被 仰付之  
一御代替誓詞之節、御三家においては誓詞無之  
但

家康公使土井利勝 老中謂、安藤直次曰直次紀伊頼宣年少、萬一有狂圖、汝當告之宜獻誓書、直次曰、一日委質爲臣雖、有狂圖安有暴、其君之惡於幕府哉、若極諫不聽、徒之戰死耳、至獻誓書決不奉命ト云由、是尾水二藩皆不獻誓書云 拔萃 土津靈神言行錄

一老中始御役成誓詞之儀は、諸役人末々に至迄轉役之度ニ改而誓詞被 仰付、老中、若年寄は奥において相濟、御側衆并御小性、御小納戸は於新部屋之月番老中、若年寄出座、奥御右筆讀之終而見届之上退く、御勝手に附候役々之内右同様、於新部屋老中、若年寄見届、其餘表役人は評定所ニ而一ヶ月一度充溜置誓詞被仰付、老中出座、大目付立合、寺社奉行、町奉行、御勘定奉行不殘出座、誓詞は表御右筆讀之  
一誓詞書文は午王之裏え認、年月日之下え名前書判を自筆に認、宛所は老中連名、出座之大目付名前も老中之次え認、前書書文月日名前迄表御右筆讀終而脇差より小柄取出血判、相濟老中見届退散之事  
一罰文之體古文ニ而鎌倉以來將軍家において連綿用歟、依而其一二を顯す



御代替に付誓詞前書

起證文前書

- 一 今度就 御代替、彌重、公儀御爲第一奉存、聊以 御後閣儀仕間敷事
- 一 御一門を始諸大名、諸傍輩雖爲親類、奉對 御爲、以惡心一味仕間敷事
- 一 前廉被 仰付候誓詞之趣、彌以堅相守可申事
- 右之條々雖爲一事、於致違犯者

梵天帝釋四大天王總日本國中六十餘州大小神祇殊伊豆箱根兩所權現三嶋大明神八幡大菩薩天滿入自在天神  
部類眷屬神罰冥罰各可罷蒙者也仍起請如件

安政五戊午年十二月十四日

御側衆  
連名書判

- 井伊掃部頭殿
- 太田備後守殿
- 間部下總守殿
- 松平和泉守殿
- 内藤紀伊守殿
- 脇坂中務大輔殿

起請文前書

- 一 今度 禁裏え被爲 附候上は 御爲を大切奉存、萬事無油斷入精御奉公可仕候 勿論被 仰出候御條目相守、  
下々に至迄無依怙最辰可申付候、自今以後御書添之御條目御座候は、同事相守可申事
- 一 彌重 公儀 御爲第一可奉存候、然上は御一門を始諸大名諸傍輩と奉對 公儀、以惡心申合一味仕間敷事  
附 御隱密之儀承り候共、一切他言仕間敷事
- 一 官位其外御表方之儀、并訴訟等取次申間敷候  
但 品により所司代迄可申次事
- 一 堂上方并女中、地下諸役人等至迄、御作法を背猥之輩在之は所司代迄申届、江戸え可致言上候、此外替儀及  
見及聞可申上事
- 一 禁中方之女中は不及申、惣而不行儀之好色一切仕間敷候、勿論下々に至迄堅く可申付候、自然御法度之趣相  
背輩御座候は、所司代迄急度可申達候、雖然依品輕儀は其者に一應斷、於無承引は是又可申達事
- 一 萬事御用相談之刻は不貽心底申出、其上不立私之申分 御爲之儀に付而相役人と申惡敷仕間敷候、惣而所司  
代請差圖可申付事
- 附 以 御威光對諸人、私之奢又は非分申掛間敷事
- 一 與力、同心抱候時、入念慥成者を召置可申事
- 右條々雖爲一事於致違犯者



梵天帝釋四大天王總日本國中六十餘州大小神祇殊伊豆箱根兩所權現三島大明神八幡大菩薩天滿大自在天神  
部類眷屬神罰冥罰各可罷蒙者也仍起請如件

安政五戊午六月廿三日 大久保伊勢守書判

- 堀田 備中守殿
- 松平 伊賀守殿
- 久世 大和守殿
- 内藤 紀伊守殿
- 脇坂 中務大輔殿
- 田村 伊豫守殿

起請文前書

一今度大坂町奉行被 仰付、彌重 公儀 御爲第一奉存 御後閣儀聊以仕間敷候、相役は不及申、御一門方、  
諸大名、諸傍輩と奉對 御爲、以惡心申合一味仕間敷事

一御城代、御定番并相役人萬事御用に付而相談之刻不殘心底申出、其上私之不立存寄、多分に付御爲能方可仕  
候、相極候儀を陰に而何角取沙汰仕間敷事

附 大御番頭、御加番之面々、御目付衆、御用之儀相談於有之は、是又 御爲能極可申談事

一大坂町奉行被 仰付候上は、諸事出入、公事等之儀、親子兄弟知音之好、又は中惡敷輩たりといふとも無依

怙最眞入念、正路取沙汰可仕事

附 與力同心并召仕之者共、對諸人以 御威光非分成儀不申掛、萬事不致依怙最眞候様誓詞可申付、  
勿論抱候時分致僉儀、慥成者可召者候事

一大坂町中より請來候禮物之外、金銀米錢、衣類諸道具酒肴等一切受用仕間敷事

附 御威光を以私之奢仕間敷事

一近國并西國筋之面々 公儀御仕置疎略之儀承候は、無依怙最眞急度可致言上事

一奉對 御爲奉行中と中惡敷仕間敷事

右之條々雖爲一事於致違犯者

罰文

年號月日

名前書判

老中

宛所

將軍徳川家禮典附録 卷之二十五 終



將軍徳川家禮典附録 卷之二十六

大奥向御規式之次第

安政年間之調

正月元日

一御表御禮過大奥え被爲 成 御對面所御上段 公方様 御直垂 御着座、御祝之次第

ひれ 御吸物 御盃 土器 御長柄

御加 松立御肴 御捨土器

右御祝被爲濟 公方様 御臺様 御對顔、年始之御祝儀被 仰上、御熨斗上蔭年寄差上之

ひれ 御吸物 御茶良臺 御長柄

御加 御押 御捨土器

右御次第相濟而上蔭年寄、老女始役々、并 御目見以上之分一統御禮被爲 請、過而御流被下、御右筆以下は不被下

右畢而御座間え被爲 成

御雜煮 豆七 御香の物

右御祝被遊すまし

御吸物 二種御肴 御酒 御塗盃

右被 召上、其節 御臺様 姫君様方より之御使被 召出、御上ケ物御目錄老女披露、過而御次間に而上蔭年寄、老女始御側向女中并 姫君様方女使、御醫師等御雜煮御吸物御餘多被下之

但 姫君様方御上ケ物 御小盃 は御座間御縁座敷え饅之、上蔭年寄、老女始より之差上物は御二之間御敷居外え差置之

一右之外御兩卿方、御三家方、御簾中方并加賀中納言始御由緒之方々より被差出候女使被 召出、被差上物御目錄を以老女披露之、相濟而御使座敷において拜領物老女申渡之

一右相濟而 御臺様御對面所において上蔭年寄、老女始役々、并 御目見以上之分一統御禮申 之、御流被下之、但 御右筆以下えは不被下

一被差上物被遺物左之通

公方様え 御臺様より

二種一荷 御使 御鏡餅一箱 御盃一箱 女 中

本壽院様より

同 斷 同 斷

田安殿 刑部卿殿より

一種充 女 使

松榮院様 溶姫君様 末姫君様より  
晴光院様 誠順院様 精姫君様

一種一荷充 同 斷

田安殿御簾中 刑部卿殿御簾中より

同 斷充 同 斷







一 御表御禮過大奥え被爲 成 公方様 御臺様 御對顔如元日、御規式相濟而 姫君様方より御買初之品々被  
差上候女使被 召出之、拜領物有之

同 三日

一 昨日之通御規式相濟而 姫君様より之女使被 召出之  
但 御流等無之、被差上物、被遺物等無之

同 日夜

一 御表におゐて御諡初之御式相濟而 公方様 御肩衣無之 大奥え被爲 成 御對顔有之、過而上藤、年寄老女始  
役々 御目見

同 四日

一 大奥え被爲 成、御座間におゐて 公方様 御臺様 御對顔、相濟而 姫君様方より之女使被 召出之

同 五日

一 右同斷

同 六日

一 右同斷

同 七日

一 於御表若菜之御禮相濟而大奥え被爲 成 公方様 御臺様御對面所におゐて 御對顔、若菜之御祝儀被 仰

上、御鬘斗上藤年寄差上之、過而 姫君様方、御兩卿方、御三家方、加賀中納言始御由緒之方々より以女使  
被差上物有之、右女使被 召出之、被差上物御目錄老女披露之、相濟而御使座敷におゐて拜領物老中申渡之  
一 爲若菜之御祝儀左之通被進之

公方様より

公方様え

松榮院様 溶姫君様 末姫君様  
晴光院様 誠順院様 精姫君様 え

松榮院様 溶姫君様 末姫君様 より  
晴光院様 誠順院様 精姫君様

若葉餅 充 奉 文

一種充 御使 女 中

本壽院様え

本壽院様より

同 斷

同

斷

同 斷

同

斷

同 八日

一 今日より平日之通り 公方様 御臺様御小座敷におゐて 御對顔、上藤年寄、老女始詰合之役々計 御目見

同 十一日

一 於御表御具足之御祝相濟而大奥え被爲 成、御座間におゐて 公方様 御臺様 御對顔、過而上藤年寄、老  
女始役々 御目見、畢而 姫君様方より之女使被 召出之

同 十四日

一 年越に付大奥え被爲 成、御座間にて 御對顔等如十一日

同 十五日



一於御表月次御禮相濟而大奥え被爲 成、御座間におゐて 公方様 御臺様 御對顔、當日之御祝儀被 仰上、次に上藤年寄、老女始役々 御目見、過而 姫様方より之女使被 召出之

一御兩卿方、御簾中方御始より之女使被 召出之

一御三家方、御簾中方、加賀中納言始御由緒之方々よりも女使を以御祝儀被申上之 召出有之

同 廿八日

一右同斷

二月朔日

一於御表伊勢 御名代歸 御目見、其外 御鏡 御頂戴上野一山御禮被爲 請、過而大奥え被爲 成、御座間におゐて 公方様 御臺様 御對顔 御目見等如例月

同 十五日

一於御表月次御禮過大奥え被爲 成 御對顔 御目見等如例月

同 廿八日

一右同斷

三月朔日

一例年月次御禮無之、大奥え被爲 成 御對顔 御目見等如例月

同 三日

一上巳之御祝儀に付、御表御禮相濟而大奥え被爲 成 御對面所におゐて 公方様 御臺様 御對顔、御祝儀被 仰上、御鬘斗上藤年寄差上之、次に老女始役々 御目見、過而 姫様方、御兩卿方、御三家方、并加賀中納言始御由緒之方々より被差出候女使被 召出之、被差上物御目錄を以老女披露、相濟而御使座敷におゐて拜領物老女申渡之  
一被進物被遺物等左之通

公方様より 御臺様え

徳信院殿え

御造花一桶

御使

中

同 斷

同

斷

交御肴一折

公方様え 御臺様より

松榮院様 溶姫君様 末姫君様 晴光院様 誠順院様 精姫君様え

御塗重一組 御使

中

御塗重一組 充

奉 文

松榮院様 溶姫君様 末姫君様 晴光院様 誠順院様 精姫君様

御菱餅一筋 充

同

斷

本壽院様え

本壽院様より

同 斷

同 斷

同

斷

田安殿御簾中 刑部卿殿御簾中え

御塗重一組 充

文 使

田安殿御簾中 刑部卿殿御簾中より

一種 充

女 使



徳信院殿より

一 種 女 使

御臺様え

松榮院様 溶姫君様 末姫君様  
晴光院様 誠順院様 精姫君様 御使

御臺様より

松榮院様 溶姫君様 末姫君様  
晴光院様 誠順院様 精姫君様 文

一種充

本壽院様より

御塗重一組 奉 文

同 斷

同

斷

本壽院様え

同 斷

同 斷充

女

使

田安殿御簾中 刑部卿殿御簾中え

御塗重一組充 文 使

徳信院殿より

徳信院殿え

同 斷

同 斷

同

斷

一 右之外尾張殿御簾中貞慎院殿、水戸前中納言殿御簾中え行器二荷、一種一荷充奉文を以被遣之

一 御臺様より尾張殿御簾中貞慎院殿、水戸前中納言殿御簾中え御肴一折充奉文を以被遣之

一 御兩卿方、御三家方より女使を以、上巳之御祝儀被申上之

一 加賀中納言始御由緒之面々より女使を以右御祝儀申上之

一 尾張殿御簾中貞慎院殿、水戸前中納言殿御簾中より女使を以一種充被差上之、松平筑前守妻始御由緒之方々

よりも女使を以同斷充差上之

一 尾張殿御簾中より奉文を以拜領物之爲御禮女使被差出之、貞慎院殿よりも同斷に付女使被差出之

一 水戸殿御簾中より奉文を以、拜領物之爲御禮女使被差出之

同 十五日

一 於御表月次御禮相濟而大奥え被爲 成、御座間におゐて 御對顔、其外如例月

同 廿八日

一 月次御禮無之、大奥え被爲 成、御座間におゐて 御對顔、其外如例月

四月朔日

一 於御表月次御禮相濟而大奥え被爲 成、御座間におゐて 御對顔、其外如例月

同 十五日

一 公方様御誕生日之御祝有之に付、御表御禮相濟而大奥え被爲 成、於御座間 公方様 御臺様 御對顔、御

祝儀被 仰上之、御鬘斗上藤年寄差上之、御盃事有之、次に老女、表使迄役々 御目見、過而 姫君様方よ

り之女使被 召出之

一 左之通被差上物被遺物有之

公方様え 御臺様より

御肴一折 御使 女

中

松榮院様 溶姫君様 末姫君様 御使  
晴光院様 誠順院様 精姫君様 御使

同 斷充

同 斷



本壽院様より

御肴一折

御使

中

松榮院様 溶姫君様 末姫君様  
晴光院様 誠順院様 精姫君様

御居り餅一筋充

使

公方様より 御臺様え

御小盃

延命酒

同

斷

本壽院様え

同

同

斷

外に 御小盃

御吸物 御酒  
御さかな 御汁粉餅 御居り餅

一大奥女中え御祝之餅御酒被下之

同 十五日

一於御表月次御禮相濟而大奥え被爲 成、御座間におゐて 御對顔、其外如例月

同 廿八日

一同 斷

五月朔日

一同 斷

同 二日

一端午之御祝儀に付左之通被進被遣之

公方様より 御臺様え

黄金三枚

御使

側 衆

本壽院様より

同 斷

同

斷

松榮院様 溶姫君様 末姫君様  
晴光院様 誠順院様 精姫君様

白銀十枚

奉

文

御臺様え

松榮院様 溶姫君様 末姫君様  
晴光院様 誠順院様 精姫君様

一種充

同

斷

本壽院様え

同 斷

同

斷

本壽院様より

同 斷

同

斷

公方様え 御臺様より

時服二種一荷

御使

中

御臺様より

松榮院様 溶姫君様 末姫君様  
晴光院様 誠順院様 精姫君様

奉

文

松榮院様 溶姫君様 末姫君様  
晴光院様 誠順院様 精姫君様

一種一荷充

同

斷

本壽院様え

同 斷

同

斷

一御三家方、尾張殿御簾中貞愼院殿、水戸前中納言殿御簾中え行器二荷、一種一荷之奉文を以被遣之  
一端午之爲御祝儀、水戸前中納言殿より干鯛一箱、尾張殿御簾中貞愼院殿より時服二、干鯛一箱充、水戸前中納言殿御簾中より昆布一箱、干鯛一箱、女使を以被差上之  
但 水戸殿には御省略中に付如右



一松平阿波守、松平確堂より干鯛一箱充、松平筑前守妻始御由緒之面々より同斷充、松平薩摩守妻、勁松院眞明院よりは時服二充、女使を以差上之

一右被差上物有之面々之女使え、御使座敷におゐて拜領物之儀老中申渡之

一松平三河守よりは女使を以御祝儀申上之

一御三家方より女使被差出、近々端午之御祝儀に付 公方様より奉文を以御目錄之通拜領物被致候御禮、并女使相勤候ものえ拜領物之御禮被申上之

一尾張殿御簾中より同斷に付拜領物之爲御禮女使被差出之、貞愼院殿よりも同斷

一水戸前中納言殿、并御簾中よりも同斷に付奉文を以拜領物之爲御禮女使被差出之

同 五日

一端午之御祝儀に付、御表御禮相濟而大奥え被爲 成 御對面所におゐて 公方様 御臺様 御對顔、御祝儀

被 仰上、御鬘斗上薦年寄差上之、次に老女始役々 御目見、過而 姫君様方、御兩卿方、御三家方并加賀

中納言始御由緒之方々より以女使御祝儀被申上之、右女使被 召出之

一左之通被差上之

公方様え

松榮院様

晴光院様

溶姫君様 末姫君様 精姫君様 御使

本壽院様より

同 斷

同

斷

粽一饒充

女

中

同 十五日

一於御表月次御禮相濟而大奥え被爲 成、御座間におゐて 御對顔、其外如例月

同 廿八日

一月次御禮無之、大奥え被爲 成、於御座間 御對顔、其外如例月

六月 朔日

一今朝吹上氷室之水 御臺様、姫君様方、本壽院様え被進之

一於御表月次御禮相濟而大奥え被爲 成、御座間におゐて 公方様 御臺様 御對顔、當日之御祝儀被 仰上

之、過而上薦年寄、老女始表使迄役々 御目見 姫君様方より之女使被 召出之、今朝氷室之水御頂戴之

御禮も被 仰上之

一御兩卿方、御簾中方御始より之女使被 召出之

一御三家方、御簾中方、加賀中納言始御由緒之方々より女使を以御祝儀被申上之 召出有之

同 十五日

一月次御禮無之、大奥え被爲 成、於御座間 御對顔、其外如例月

一山王祭禮年に候得は左之通被進之



公方様より 御臺様え

御小盃臺 御使

御吸物御酒

御さかな

外に 御塗重一組

中

本壽院様より

同 斷

同

斷

御臺様より

松榮院様 溶姫君様 誠順院様

末姫君様 精姫君様

使

鯛一折充

文

本壽院様え

同 斷

同

斷

松榮院様 溶姫君様 末姫君様 精姫君様

使

晴光院様 誠順院様

御肴一折充

文

御臺様え

松榮院様 溶姫君様 誠順院様

末姫君様 精姫君様

文

鯛一折充

奉

本壽院様より

同 斷

同

斷

松榮院様 溶姫君様 末姫君様 精姫君様

使

晴光院様 誠順院様

御肴一折充

文

御臺様え

松榮院様 溶姫君様 誠順院様

末姫君様 精姫君様

文

文

同 十六日

一嘉定御祝儀に付如例年、於御表御規式相濟而大奥え被爲 成 於御對面所 公方様 御臺様 御對顔、御慰  
斗上萬年寄差上之、次老女始役々 御目見、過而 姫君様方より之女使被 召出、被差上物御目錄にて老女

披露之

一姫君様方より嘉定御祝儀として御肴一種充被差上之、拜領物之御禮も被申上之

一御三家方并御簾中方御始より、爲御祝儀女使被差出 召出有之

一入御以後御對面所におゐて、老女始惣女中え御菓子被下之

同 廿八日

一月次御禮無之、大奥御座間におゐて 御對顔、其外例月之如し

日限 不定

一左之通被進之

公方様より 御臺様え

夏切御茶 御使

御團扇 御

側 衆

本壽院様え

同 斷

同

斷

松榮院様 溶姫君様 末姫君様 精姫君様

晴光院様 誠順院様

夏切御茶 充 御留守居

日限 不定

一土用入に付、大奥御座間におゐて 公方様 御臺様 御對顔、御機嫌御伺有之、次上萬年寄、老女始表使迄



役々 御目見、過而 姫君様方、御兩卿方、御簾中方御始より之女使被 召出之、被差上物御目録にて老女披露之

一左之通被進被遣之

公方様え 御臺様より  
御端物二反 御使 女 中

公方様より 御臺様へ  
縮十反 御使 御 側 衆  
粕漬鯛一桶

松榮院様 溶姫君様 末姫君様より  
晴光院様 誠順院様 精姫君様

松榮院様 溶姫君様 末姫君様  
晴光院様 誠順院様 精姫君様 元

瓜一籠充 同 断

縮五反 充 御使 女 中

本壽院様より

同 断

本壽院様え 同 断

田安殿 刑部卿殿より

御肴一折充 女 使

田安殿御簾中 刑部卿殿御簾中え

同 断充 同 断

同 断充 同 断

徳信院殿より

同 断

徳信院殿え 同 断

御臺様え  
松榮院様 溶姫君様 末姫君様より  
晴光院様 誠順院様 精姫君様

御臺様より  
松榮院様 溶姫君様 末姫君様 元  
晴光院様 誠順院様 精姫君様 元

瓜一籠充 同 断

御端物類 御使 女 中

本壽院様より

同 断

本壽院様え 同 断

田安殿 刑部卿殿より

御肴一折充 女 使

田安殿御簾中 刑部卿殿御簾中え

同 断充 同 断

同 断充 同 断

徳信院殿より

同 断

徳信院殿え 同 断

一右之外御三家方、水戸前中納言殿え御塗重一組、鯛一折充、尾張殿、御簾中貞慎院殿、水戸前中納言殿御簾中え縮縮五端、行器三荷、添重一組充、御使女中を以被遣之  
一御三家方、水戸前中納言殿、尾張殿御簾中貞慎院殿、水戸前中納言殿御簾中より瓜一籠充、女使以被差上之  
一加賀中納言始御由緒之面々え塗重一組充奉文を以被下之  
一加賀中納言より御菓子一箱、松平筑前守より素麵一箱、松平安藝守、有馬中務大輔、酒井雅樂頭より御肴一折充 姫君様方御傳を以差上之